岐阜県教育文化財団文化財保護センター
調査報告書　第85集

杉ヶ洞3・5号古墳
前山2号古墳

2003
財団法人　岐阜県教育文化財団

杉ケ洞古墳群遠景（左・３号古墳　右５号古墳）

前山２号古墳石室

序

可児市は岐阜県の中南部に位置し、北端には木曽川が流れ、南西部は濃尾平野の北限として緩やかな丘陵地が広がる水と緑の豊かな田園都市です。近年では名古屋市のベッドタウンとして発展を続けています。

可児市では、前波の三ツ塚、次郎兵衛塚１号墳をはじめ数多くの古墳や柿田遺跡、川合遺跡群といった集落跡が見つかっています。

このたびの東海環状自動車道（八百津～笠原）の建設に伴い、事業の範囲にかかる遺跡について記録保存をすることとなりました。本報告書は平成12年度に実施した杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳の発掘調査の成果をまとめたものです。

今回の調査では、古墳時代後期と考えられる３基の古墳から、須恵器や金属製品を発見しました。なかでも杉ヶ洞３号古墳からは、馬具である鞍に取り付けられた鞍（しおで）が出土しました。また、３基の古墳は柿田遺跡のすぐ南に位置しており、柿田遺跡との深い関連が考えられます。

本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び出土品の整理・報告書作成にあたりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、可児市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成15年12月

財団法人　岐阜県教育文化財団

理事長　日　比　治　男

例　言

1　本書は、可児市柿田馬乗洞、前山に所在する杉ヶ洞3・5号古墳、前山2号古墳（岐阜県遺跡番号21214－04854、09598、04851）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、東海環状自動車道（八百津～笠原）建設事業に伴うもので、国土交通省多治見工事事務所（現　多治見砂防国道事務所）から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は財団法人岐阜県文化財保護センター（現　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター）が実施した。

3　発掘調査は、伊藤秋男南山大学教授の指導のもとに、平成12年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当などは本書第1章第2節に一括掲載した。

5　本書の執筆は、第2章第1節、第4章第1節は藤岡比呂志が、それ以外は澤村雄一郎が行った。また編集は澤村が行った。

6　発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、遺物の洗浄・注記などの業務は小池土木株式会社に、地形測量、石室の3次元測量（杉ヶ洞3・5号古墳）、空中写真測量は（株）イビソクに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　金属製品の保存処理は、奈良文化財技術協会に委託して行った。

9　発掘調査および報告書の作成にあたって、次の方々や機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。

高橋健太郎、中嶌茂、長瀬治義、広瀬和雄、松本茂生、吉田正人

可児市教育委員会

10　本文中の方位は、国土座標第Ⅶ系の座標北を示している。

11　土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄1997『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

12　横穴式石室側壁の左右については、奥壁側からみた呼称としている。

13　調査記録及び出土遺物は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
目次

第 1 章　調査の経緯 …… 1
　第 1 節　調査に至る経緯 …… 1
　第 2 節　発掘調査の経緯 …… 1

第 2 章　遺跡の環境 …… 3
　第 1 節　周辺の地形・地質 …… 3
　第 2 節　歴史的環境 …… 3

第 3 章　遺構と遺物 …… 6
　第 1 節　遺構と遺物の概要 …… 6
　第 2 節　杉ヶ洞 3 号古墳 …… 6
　第 3 節　杉ヶ洞 5 号古墳 …… 24
　第 4 節　古墳以外の遺構 …… 32
　第 5 節　前山 2 号古墳 …… 33

第 4 章　まとめ …… 44
　第 1 節　石室に使用されている石材について …… 44
　第 2 節　古墳の位置づけ …… 47

参考文献
写真図版

挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡分布図 ･････････････････ 4
第２図　四分法模式図 ･････････････････ 6
第３図　杉ヶ洞古墳群地形測量図 ････････ 7
第４図　杉ヶ洞３・５号古墳全体図　････ 9
第５図　杉ヶ洞３号古墳平面図 ････････ 11
第６図　杉ヶ洞３号古墳断面図（1）････ 13
第７図　杉ヶ洞３号古墳断面図（2）････ 14
第８図　杉ヶ洞３号古墳石室実測図 ････ 15
第９図　杉ヶ洞３号古墳遺物分布図 ････ 18
第10図　杉ヶ洞３号古墳石室内出土遺物（1）
･････････････････････････････････ 19
第11図　杉ヶ洞３号古墳石室内出土遺物（2）
･････････････････････････････････ 20
第12図　杉ヶ洞３号古墳石室内出土遺物（3）
･････････････････････････････････ 21
第13図　杉ヶ洞３号古墳石室内出土遺物（4）
･････････････････････････････････ 22
第14図　杉ヶ洞３号古墳石室内出土遺物（5）
･････････････････････････････････ 23
第15図　杉ヶ洞３号古墳石室内出土遺物（6）
･････････････････････････････････ 24
第16図　杉ヶ洞５号古墳平面図 ････････ 25
第17図　杉ヶ洞５号古墳断面図 ････････ 26
第18図　杉ヶ洞５号古墳石室実測図 ････ 27
第19図　杉ヶ洞５号古墳遺物分布図 ････ 28
第20図　杉ヶ洞５号古墳石室内出土遺物　29
第21図　SX5（杉ヶ洞５号古墳石室内）･･ 31
第22図　近世の遺構（1）･･････････････ 32
第23図　近世の遺構（2）･･････････････ 32
第24図　古墳以外の遺物 ･･････････････ 33
第25図　前山２号古墳平面図 ･･････････ 34
第26図　前山２号古墳断面図 ･･････････ 35
第27図　前山２号古墳石室実測図 ･･････ 36
第28図　前山２号古墳遺物分布図 ･･････ 37
第29図　前山２号古墳石室内出土遺物（1）
･････････････････････････････････38
第30図　前山２号古墳石室内出土遺物（2）
･････････････････････････････････ 39
第31図　前山２号古墳石室内出土遺物（3）
･････････････････････････････････ 40
第32図　前山２号古墳石室内出土遺物（4）
･････････････････････････････････ 41
第33図　前山２号古墳石室内出土遺物（5）
･････････････････････････････････ 42
第34図　前山２号古墳石室内出土遺物（6）
･････････････････････････････････ 43
第35図　石室使用の石材 ･･････････････ 45

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表 ･･････････････ 5
第２表　石室使用石材の分類（グラフ）･･ 46
第３表　石室使用石材の分類（一覧表）･･ 47
第４表　遺物観察表 ･･････････････ 49～55

図　版　目　次

図版１　杉ヶ洞３号古墳（1）
図版２　杉ヶ洞３号古墳（2）
図版３　杉ヶ洞３号古墳（3）
図版４　杉ヶ洞５号古墳（1）
図版５　杉ヶ洞５号古墳（2）
図版６　古墳以外の遺構
図版７　前山２号古墳（1）
図版８　前山２号古墳（2）
図版９　前山２号古墳（3）
図版10　杉ヶ洞３号古墳出土遺物（1）
図版11　杉ヶ洞３号古墳出土遺物（2）
図版12　杉ヶ洞３号古墳出土遺物（3）
図版13　杉ヶ洞３号古墳出土遺物（4）
　　古墳外出土遺物
図版14　杉ヶ洞５号古墳出土遺物
図版15　前山２号古墳出土遺物（1）
図版16　前山２号古墳出土遺物（2）
図版17　前山２号古墳出土遺物（3）

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

杉ヶ洞古墳群は可児市柿田馬乗洞、前山に所在する。この地区において東海環状自動車道（八百津～笠原）建設工事が計画され、工事予定地内における埋蔵文化財の詳細な位置を把握するために、平成12年度に岐阜県教育委員会社会教育文化課文化室、可児市教育委員会、当センターが踏査を行った。その結果、杉ヶ洞３号古墳及び前山２号古墳が工事予定地内に存在することが明らかになった。また、杉ヶ洞３号古墳の南側に新たに古墳１基が存在することが判明し、文化財保護法第57条の6による遺跡発見の通知を岐阜県教育委員会に提出し、杉ヶ洞５号古墳とされた。

この結果をふまえて、平成12年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会を開催し、杉ヶ洞３・５号古墳 800 ㎡及び前山２号古墳300㎡の本発掘調査が必要であると決定した。

本発掘調査は、岐阜県から委託を受けた（財）岐阜県文化財保護センター（現（財）岐阜県教育文化財団文化財保護センター）が平成12年度実施した。

第２節　発掘調査の経緯

発掘調査は、杉ヶ洞３・５号古墳を2000（平成12）年８月28日から2000（平成12）年10月31日まで、前山２号古墳を2000（平成12）年11月22日から2001（平成13）年２月13日まで実施した。

調査に際してグリッドの設定は行わず、横穴式石室の主軸と主軸に対し直交する軸により、各古墳の横穴式石室及び墳丘を四分割して四分法により掘削することとした。

石室内の遺物は四分法に従いながら、出土地点を記録して取り上げた。また石室内の埋土をすべて水洗いし、遺物の検出を行った。石室以外の遺物は四分法に従って取り上げた。

杉ヶ洞３・５号古墳の横穴式石室を３次元計測（縮尺１／20）により（前山２号古墳の横穴式石室は手測り）、また全体の完掘状況を模型ラジコンヘリコプターによる空中写真測量（縮尺１／40）により図化・記録した。出土遺物のうち金属製品については平成13年度に保存処理を行った。

調査の経過は以下の通りである。

杉ヶ洞３・５号古墳

８月　８／28～９／１．重機により墳丘及び周辺部の表土掘削。

９月　９／４～８．石室、墳丘及び周辺部遺構検出。

９／11～15．石室、墳丘及び周辺部遺構検出。

９／18～22．３・５号古墳の横穴式石室及び墳丘を四分割設定し、石室内埋土掘り下げ。墳丘及び周辺部遺構検出。19．石室内を鉄パイプにより崩落防止措置。

９／25～29．石室内埋土掘り下げ。墳丘及び周辺部遺構検出。古墳墳丘断ち割りトレンチ掘削。

10月　10／２～６．３号古墳石室内埋土掘り下げ、床面検出。５号古墳床面検出。４．空撮。６．

南山大学・伊藤秋男教授現場指導。

10／９～13．３・５号古墳石室内清掃、墳丘断ち割りトレンチ掘削。３号古墳墳丘西側周溝検出。SX1,2掘削。SX2実測。

10／16～20．３・５号古墳横穴式石室３次元計測。３号古墳周溝掘削。

10／23～27．３・５号古墳横穴式石室３次元計測。３号古墳周溝掘削。現地説明会準備。29．現地説明会。

10／30・31．石室及び墳丘解体。現場撤収。

前山２号古墳

11月　11／22～24．重機により墳丘及び周辺部の表土掘削。石室、墳丘及び周辺部遺構検出。

11／27～12／１．横穴式石室及び墳丘を四分割設定し、石室内埋土掘り下げ。墳丘及び周辺部遺構検出。29．石室内を鉄パイプにより崩落防止措置。

12月　12／４～12／８．石室内埋土掘り下げ。墳丘及び周辺部遺構検出。

12／11～15．石室内埋土掘り下げ。周溝掘り下げ。墳丘断ち割りトレンチ掘削。

12／18～22．石室内埋土掘り下げ。周溝掘り下げ。石室床面検出。19．空撮。

1月　１／８～12．横穴式石室実測。

2月　２／８・９．現地説明会準備。10．現地説明会。

２／12・13．石室及び墳丘解体。現場撤収。

発掘調査及び整理作業の体制は以下の通りである。

	平成12年度（発掘調査）	平成14年度（整理・報告書作成）
理事長	服部　卓郎	服部　卓郎
専務理事兼事務局長	原　　隆男	成戸　宏二
常務理事兼経営部長	二山　　晃	福田　安昭
経営部次長兼経営課長	坂東　　隆	福田　照行
調査部長	高橋　幸仁	武藤　貞昭
調査部次長	武藤　貞昭	片桐　隆彦
担当調査課長	片桐　隆彦	高木　徳彦
担当調査員	澤村雄一郎	澤村雄一郎
整理作業従事者	小木曽美智、後藤悦子、野尻みどり、平野律子、渡邊泉	

第２章　遺跡の環境

第１節　周辺の地形・地質

杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳は、可児市柿田の南にある山地内に位置する。この山地は、可児市広見から東南東方向に延びる一連の地形であり、標高250m前後の比較的緩やかな山地となっている。可児市全域においても、北部の木曽川沿いを除いては、同じような比較的緩やかな山地が取り囲み、その中を幅の広い谷が木曽川に向って北西～北東方向に何本も走っているという地形をなしている。

３基の古墳とも、標高約120mの高さにあり、北に広がる平地（可児川の氾濫原）とは約10mの比高差がある。杉ヶ洞３・５号古墳は、北西に流れる支流により削られ堆積した小規模な谷底平野上にある。前山２号古墳は、やや開けた谷に面した北東斜面上に位置する。

柿田の南の山地部を構成するのは、美濃帯堆積岩類・土岐花こう岩と新第三紀中新世の堆積層（可児層群）である。可児市の南一帯に広がるやや緩やかな山地を形成しているのは可児層群であり、可児地域に分布するのは主には中村累層、平牧累層と呼ばれる地層である。中村累層、平牧累層は、新第三紀という割合新しい時代にできた堆積物であり、かつ溶岩のような硬固な岩石は分布しないため、全体的に比較的削られやすい岩盤となっている。そのようなことから、山地であっても緩やかな傾斜をつくり、また堆積物も供給しやすく、谷もやや広く、山地内に谷底平野のような小規模の平地をつくるといった特徴をもつ。また、扇状地もつくりやすい。

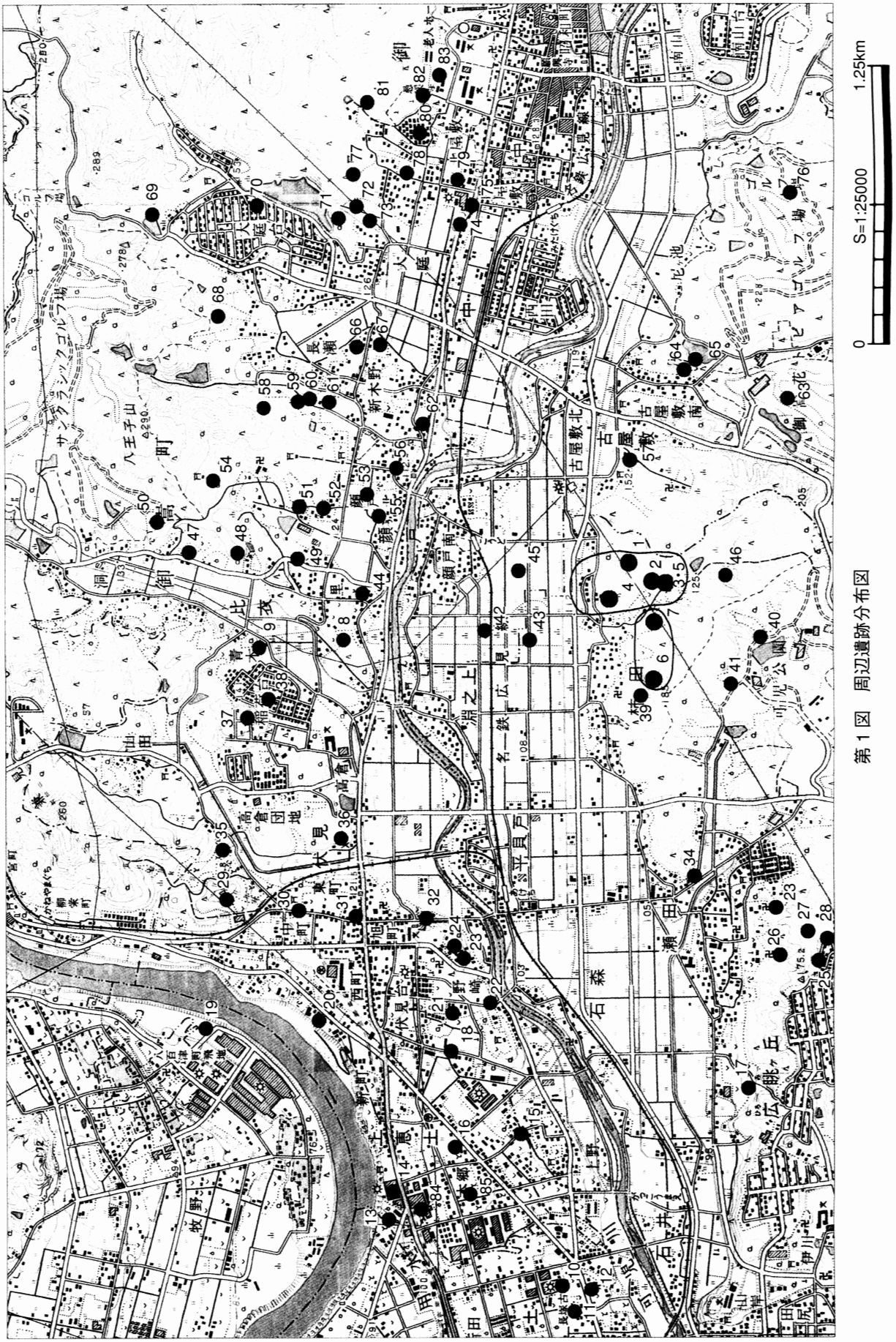
杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳は、いずれも中村累層上部層を基盤としている。中村累層上部層は凝灰質砂岩およびシルト岩からなり，礫岩や亜炭を挟むことを特徴としている。

３基の古墳に使われている石材は、主にはチャート（美濃帯堆積岩類）、花こう岩･花こう斑岩（土岐花こう岩）であり、周囲から運び込むことができる石材である。ただし、周囲から運び込むことが難しい石材（溶結凝灰岩）が杉ヶ洞３・５号古墳には使用されている。

第２節　歴史的環境

杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳が位置する可児郡御嵩町から可児市にかけての可児川の流域には、縄文時代から近世に至る多くの遺跡が分布している（第１図）。なかでも古墳時代の遺跡を中心に概観する。

金ヶ崎遺跡（8）では弥生時代末から古墳時代初頭の方形周溝墓11基を確認し、多孔銅鏃も見つかっている（早野壽人他2003）。古墳時代前期では御嵩町・伏見古墳群に属する高倉山古墳（36）、東寺山1号古墳（23）、東寺山2号古墳（24）や前波古墳群に属する長塚古墳（10）、野中古墳（11）、西寺山古墳（12）（前波の三ツ塚）があげられ、これらの前方後方墳や前方後円墳はこの地域の首長墓と考えられている。前波の三ツ塚は1996～1998年に発掘調査が行われ、なかでも長塚古墳の調査では、



第1図　周辺遺跡分布図

埋葬施設（粘土槨、木棺直葬）が確認され、俵文鏡、石釧、管玉、ガラス玉などが見つかっている（高橋克壽他1999）。

古墳時代後期では、今回調査を行った杉ヶ洞３・５号古墳の属する杉ヶ洞古墳群のうち１号古墳（1）があげられる。杉ヶ洞１号古墳は1973年に発掘調査が行われ、横穴式石室内から須恵器、土師器、直刀、鉄鏃等が見つかっている（中島1973）。出土品から６世紀後半の古墳と考えられる。また、前山古墳群は今回調査を行った1号古墳の東約200mに２号古墳（7）が位置している。

杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳の北側に広がる柿田遺跡（43）では、弥生時代中期から古墳時代にかけての川に囲まれた集落や水田が見つかっており、川においては木組みを基礎にして岸を固める護岸施設や堤防・堰の跡が確認されている。なお、柿田遺跡では古代以降の水田と溝や川、中世の館を中心にした集落・水田とそれを取りまく川なども見つかっている。また、柿田遺跡の北側に隣接する顔戸南遺跡（42）においても、古墳時代の集落が見つかっている（小野木2000）。

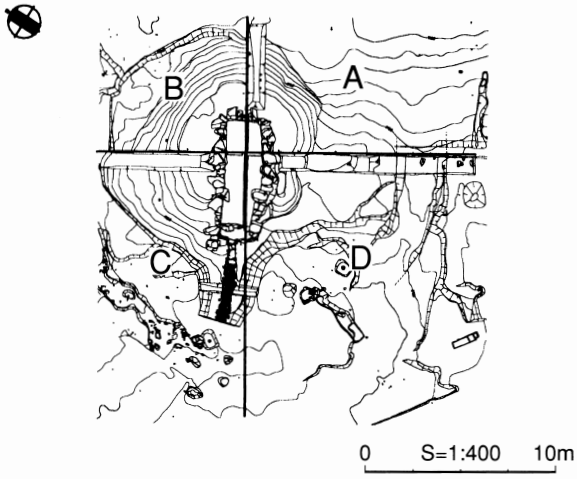
第１表　周辺遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名
1	杉ヶ洞１号古墳（古墳）	30	伏見白山神社古墳（古墳）	59	庚申塚古墳（古墳）
2	杉ヶ洞２号古墳（古墳）	31	伏見廃寺（白鳳）	60	大平山ノ神古墳（古墳）
3	杉ヶ洞３号古墳（古墳）	32	伏見寺東古窯跡（奈良・平安）	61	神宮古墳（古墳）
4	杉ヶ洞４号古墳（古墳）	33	巣本古墳（古墳）	62	新木野古窯跡（平安）
5	杉ヶ洞５号古墳（古墳）	34	神崎山古墳（古墳）	63	大王寺南古墳（古墳）
6	前山１号古墳（古墳）	35	山田横穴１～７号古墳（古墳）	64	大王寺古墳（古墳）
7	前山２号古墳（古墳）	36	高倉山古墳（古墳）	65	池西古墳（古墳）
8	金ヶ崎遺跡（弥生～近世）	37	念事ヶ平１～２号古墳（古墳）	66	新木野群集墳（古墳）
9	青木横穴墓（古墳）	38	稲荷山古墳群（古墳）	67	新木野古墳（古墳）
10	長塚古墳（古墳）	39	柿田古墳（古墳）	68	長瀬山古墳（古墳）
11	野中古墳（古墳）	40	北ヶ洞１号古墳（古墳）	69	菖蒲池古墳（古墳）
12	西寺山古墳（古墳）	41	北ヶ洞２号古墳（古墳）	70	真名田古墳（古墳）
13	長畑１～２号古墳（古墳）	42	顔戸南遺跡（弥生～中世）	71	鈴ヶ森古墳（古墳）
14	新町墓地古墳（古墳）	43	柿田遺跡（縄文～中世）	72	雷神山古墳（古墳）
15	桐野１号古墳（古墳）	44	比衣金ヶ崎古窯跡群（平安）	73	山の神古墳（古墳）
16	桐野２号古墳（古墳）	45	顔戸山ノ神遺跡（弥生･古墳）	74	天神塚古墳（古墳）
17	桧下古墳（古墳）	46	馬乗洞古窯跡（古墳）	75	天神ヶ森古墳（古墳）
18	大塚古墳群（古墳）	47	比衣丸山古墳（古墳）	76	キッチョ洞古墳（古墳）
19	小貝戸１号古墳（古墳）	48	打越古墳群（古墳）	77	今井白山神社１～４号古墳(古墳)
20	生沢古墳（古墳）	49	坂本天神山古墳（古墳）	78	宝塚古墳（古墳）
21	伏見狐塚古墳（古墳）	50	市洞１～６号古墳（古墳）	79	春日神社古墳（古墳）
22	堂根古墳（古墳）	51	諏訪神社（古墳）	80	愚渓寺天神山古墳（古墳）
23	東寺山１号古墳（古墳）	52	坂本古墳群（古墳）	81	禅堂平西古墳（古墳）
24	東寺山２号古墳（古墳）	53	顔戸城跡（中世）	82	禅堂平古墳（古墳）
25	七ツ塚古墳群（古墳）	54	陣ヶ峰群集墳（古墳）	83	愚渓寺稲荷古墳（古墳）
26	しゃもじ塚古墳（古墳）	55	花塚古墳（古墳）	84	浦畑遺跡（中世～近世）
27	粘り塚古墳（古墳）	56	顔戸藤塚古墳（古墳）	85	上恵土城跡（中世）
28	大洞白山塚古墳（古墳）	57	栢之木経塚（近世）		
29	新発知古墳群（古墳）	58	恵観寺山古墳群（古墳）		

第３章　遺構と遺物

第１節　遺構と遺物の概要

杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳は周辺部も含めて調査範囲を設定している。杉ヶ洞３・５号古墳において検出した遺構は周溝をもつ古墳２基、３号古墳においては排水溝を確認している。周辺部からは古代の土坑１基、近世の石組み遺構１基、土坑３基が確認されている（第４図）。また、５号古墳の石室内から中世墓の可能性もある石組み１基を確認している。また前山２号古墳においては古墳１基を確認している。また、今回の調査対象ではないが、杉ヶ洞３号古墳の北側約45mには杉ヶ洞２号古墳が位置している。



第２図　四分法模式図

古墳については、横穴式石室の主軸と主軸に対し直交する軸により、各古墳の横穴式石室及び墳丘を四分割して四分法により墳丘および石室をA.B.C.Dの４つに区分し、掘削した（第２図）。

出土遺物は３基の古墳（杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳）に供献された須恵器、金属製品が横穴式石室、周溝などから出土している。３基の古墳の石室からは、後世の混入による須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器が出土している。また、古墳周辺部の遺構（近世）から近世陶磁器、古銭などが出土している。

第２節　杉ヶ洞３号古墳

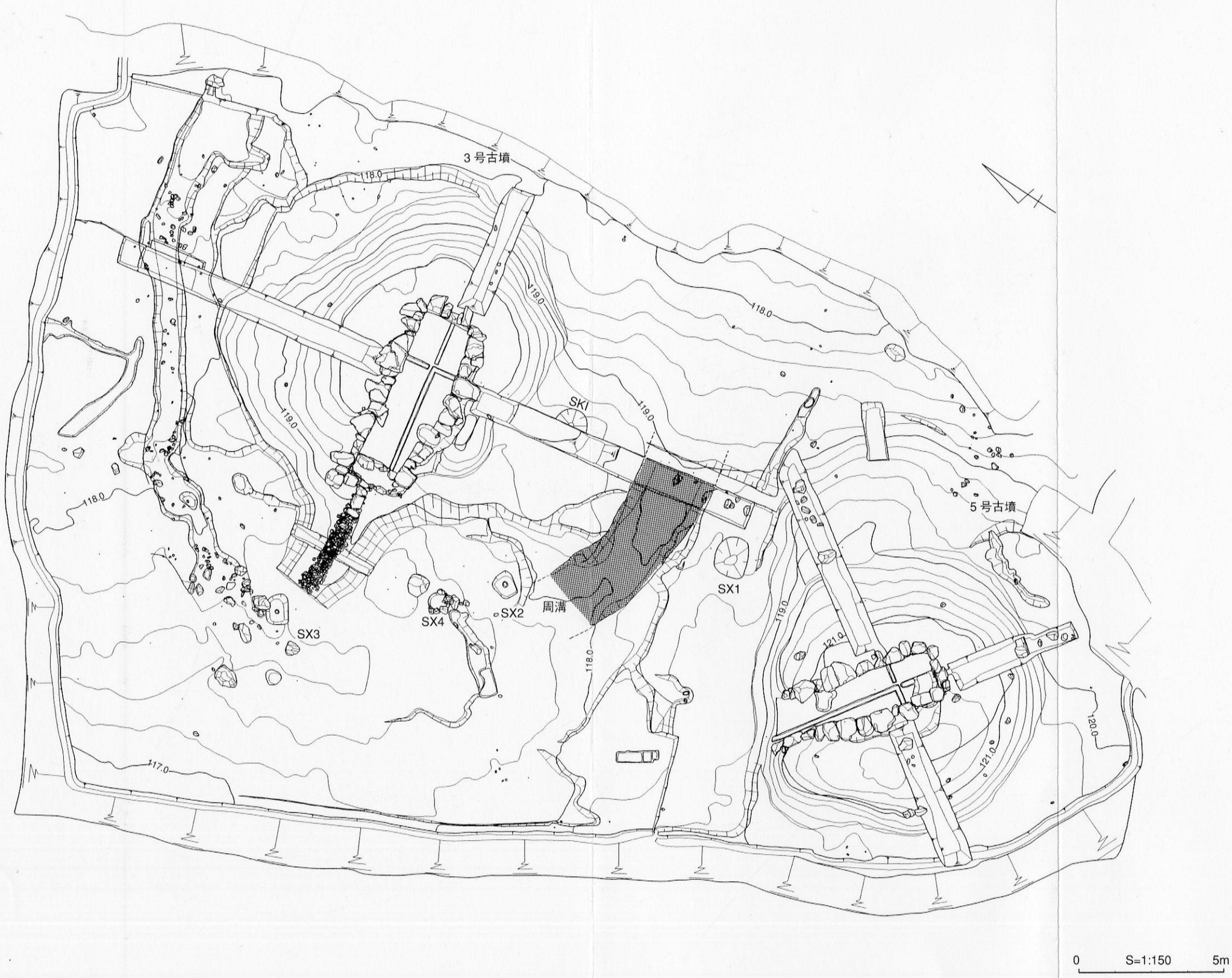
杉ヶ洞３号古墳は北西方向にひらく谷地形のうち、谷に対して北向きにのびる小丘陵の北端に立地している。北側に柿田遺跡を望む。５号古墳と約20mの距離を隔てて隣接している。

調査以前に墳丘及び石室は破壊されており、天井石を失い、墳丘の中央部が大きく陥没した状態で、側壁と思われる石材が一部露出していた。墳丘の周辺部も削平を受けていた。

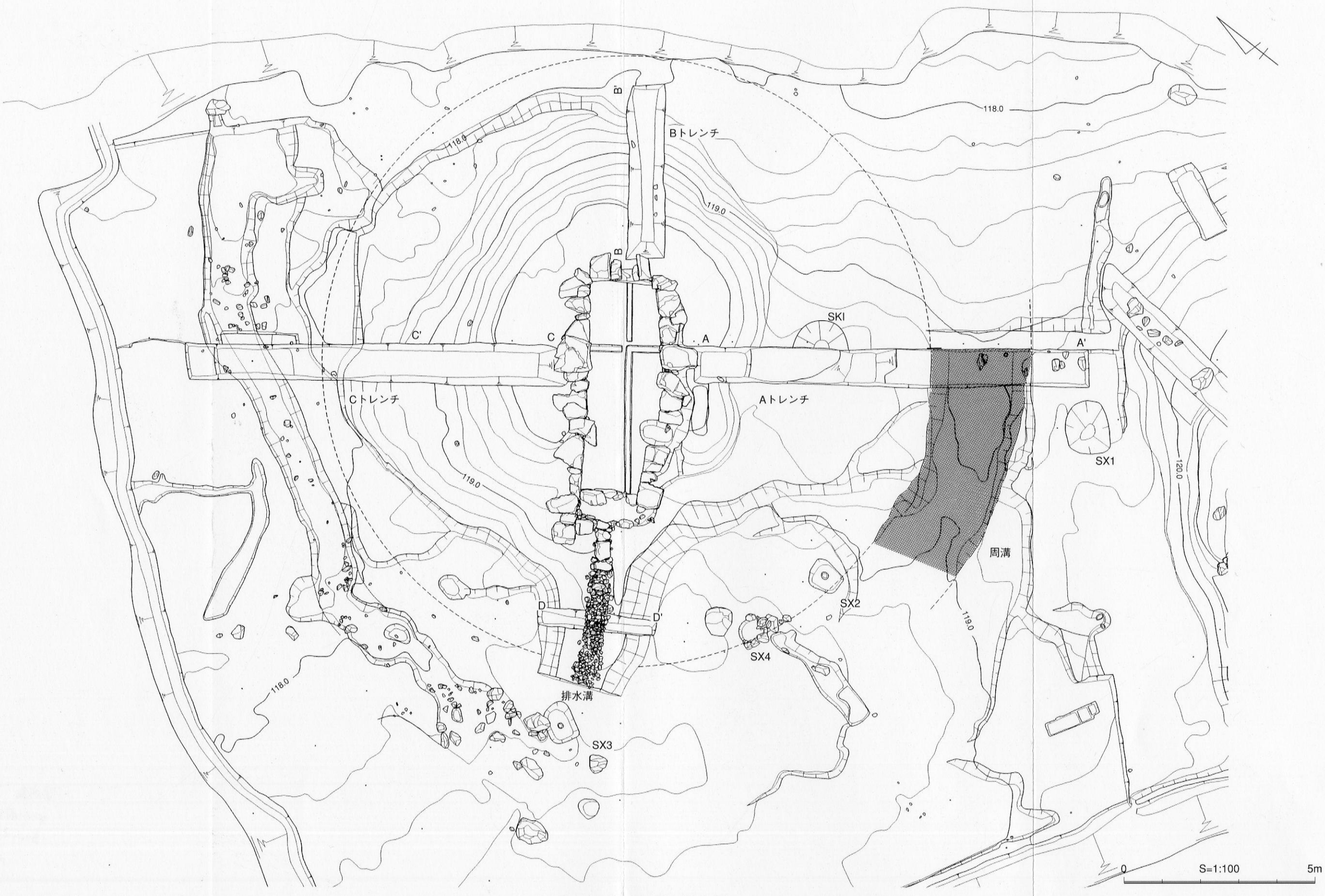
１　墳丘（第５～７図）

墳丘は墳頂部及び墳丘裾部において削平を受けていた。墳丘の周辺部も削平を受けており、特に北側において顕著であり、残存している墳頂部との比高差は、墳丘南側で0.5mであるのに対し、北側では２mであった。

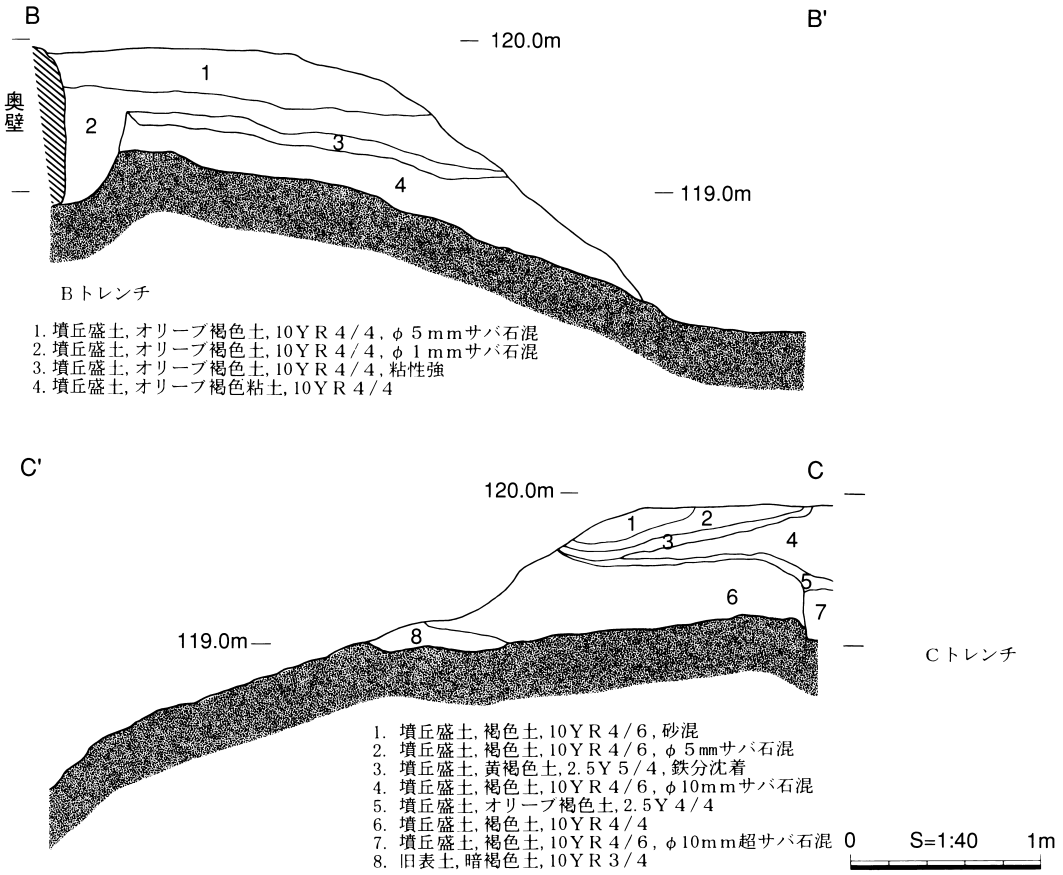
第３図　杉ケ洞古墳群地形測量図



第４図　杉ケ洞３・５号古墳全体図



第５図　杉ケ洞３号古墳平面図



第６図　杉ケ洞３号古墳断面図（1）（墳丘・Ｂトレンチ・Ｃトレンチ）

墳形は円墳である。残存している墳丘は削平を受けており、南側において残存墳丘の裾と周溝との間が3.7m離れている。したがって墳丘の規模は周溝の内側で測定して主軸と直交方向で直径約16mである。また墳丘の残存高は、Ａトレンチで0.5m、Ｂトレンチで1.4m、Ｃトレンチは旧表土からの高さで1.0mである。墳丘の元来の高さは、天井石が失われているため不明である。墳丘に段築等は認められない。

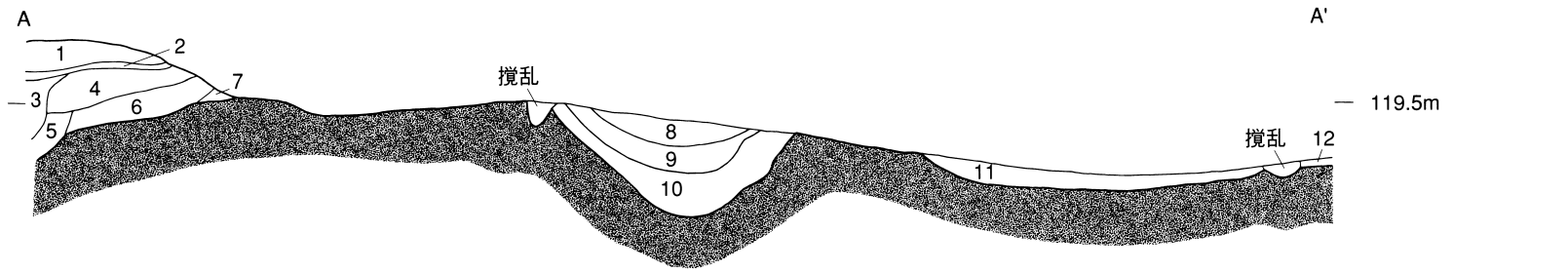
墳丘の断面から、ある程度盛り土をした後に墓坑を掘削して側壁基底部を設置し、その背後の裏込めを行いながらさらに盛り土をしたことがわかる。

２　内部主体（第８図）

本古墳の内部主体は南西に開口する。主軸は羨道部分でN－62°－Eにとり、玄室部分でN－28°－Eにとる。玄門部で主軸が屈曲する。玄室と羨道の区別を玄門となる立柱石によって行う疑似両袖式横穴式石室である。石室の規模は全長7.0m、最大幅2.2mを測る。天井石と左側壁の立柱石が失われていたが、比較的良好に残存していた。

玄室の平面はやや胴張りの長方形を呈する。玄室の長さは3.9m、幅は奥壁部で1.7m、最大幅2.2m、残存高は奥壁部で1.2mを測る。床面には礫床は認められない。玄室の側壁は基底部には左右とも６石を並べ、現状では中型石材で最大4段積み上げている。奥壁は扁平で大型の一枚石を用いている。一枚石の上部に小型石材を積んでいる。

玄門部に立てられた立柱石は、左右とも長い石を1石で立てて玄室と羨道を区別している。左側の



３号古墳墳丘

1. 墳丘盛土, 褐色土, 10ＹＲ４/６, 粘性なし
2. 墳丘盛土, 褐色土, 10ＹＲ４/６, 粘性あり
3. 墳丘盛土, 褐色土, 10ＹＲ４/６, 粘性あり
4. 墳丘盛土, 褐色土, 10ＹＲ４/６
5. 墳丘盛土, オリーブ褐色土, 2.5Ｙ４/４, 粘性強
6. 墳丘盛土, オリーブ褐色土, 2.5Ｙ４/６, φ５ｍｍサバ石混
7. 旧表土, 暗褐色土, 10ＹＲ３/４

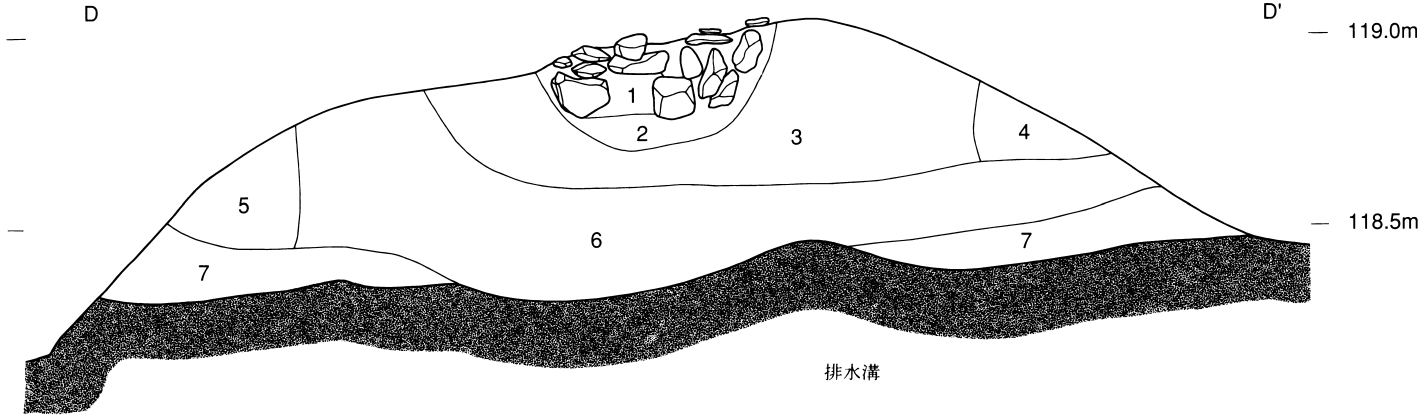
土坑（ＳＫ１）Ａトレンチ

8. ＳＫ１埋土, にぶい黄色土, 2.5Ｙ６/４, サバ石
9. ＳＫ１埋土, にぶい黄褐色土, 10ＹＲ４/３
10. ＳＫ１埋土, にぶい黄褐色土, 10ＹＲ４/３, φ５ｍｍサバ石混

３号古墳周溝

11. ３号古墳周溝埋土, 褐色土, 10ＹＲ４/６
12. 褐色土, 10ＹＲ４/６

0　S=1:40　1m

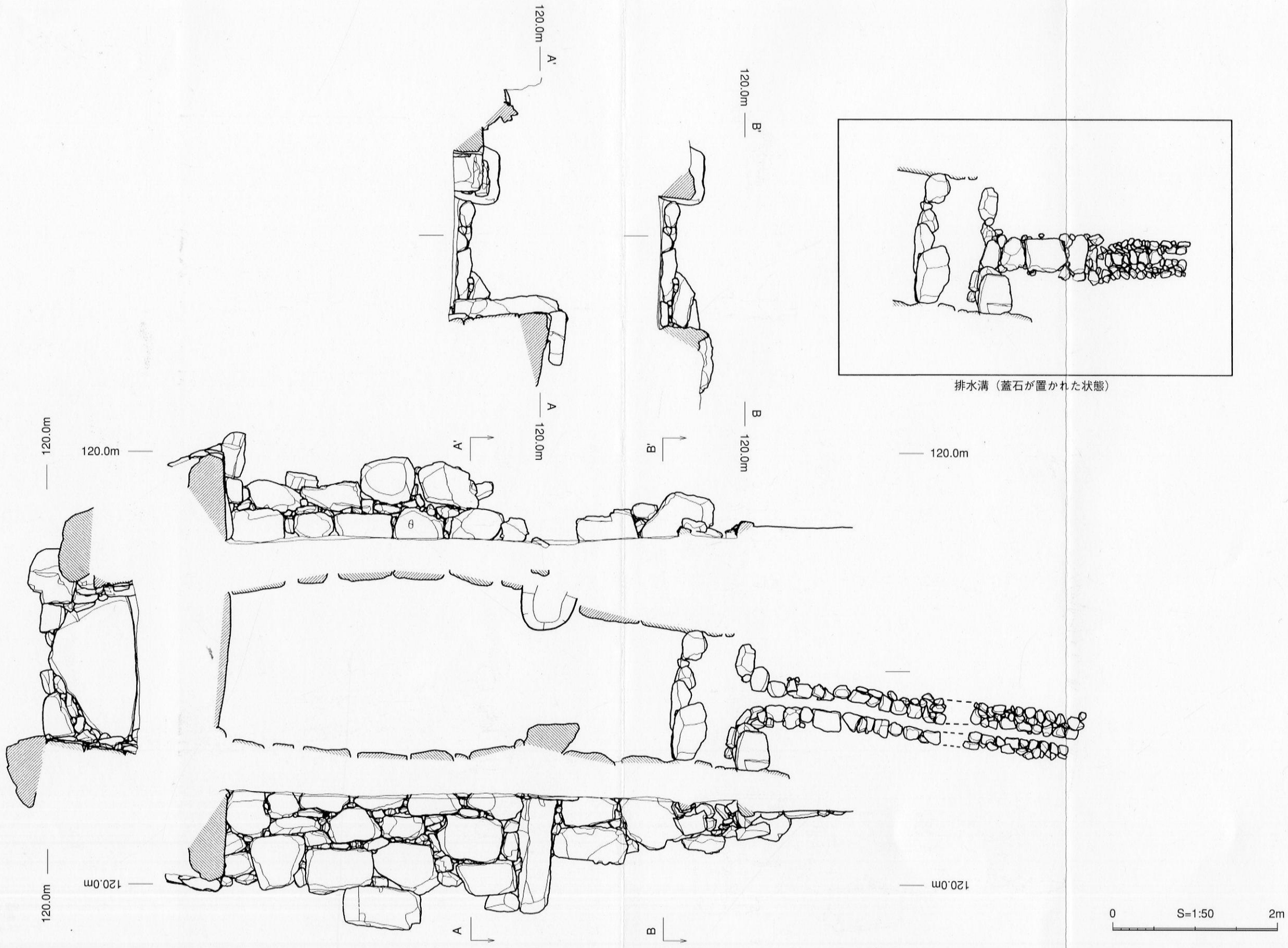


排水溝

1. 排水溝埋土, にぶい黄橙色土, 10ＹＲ６/３
2. 排水溝掘り方埋土, にぶい黄橙色土, 10ＹＲ７/３
3. 墳丘盛土, にぶい黄橙色土, 10ＹＲ６/３
4. 墳丘盛土, にぶい黄橙色土, 10ＹＲ６/３, 礫含
5. 墳丘盛土, にぶい黄橙色土, 10ＹＲ６/３, 礫多含
6. 墳丘盛土, にぶい黄橙色土, 10ＹＲ６/３, 礫含
7. 旧表土, 灰黄褐色土, 10ＹＲ６/２

0　S＝1:20　1m

第７図　杉ケ洞３号古墳断面図（2）（墳丘・Ａトレンチ・排水溝）



第８図　杉ケ洞３号古墳石室実測図

立柱石は失われているが、抜き取り痕が確認できる。このことから、石室床面をさらに掘り込んで設置されたことがわかる。

羨道の平面は長方形を呈する。羨道の長さは3.0m、幅は1.5m、残存高0.8mを測る。羨道の側壁は基底部には右側で5石を並べ、現状では中型石材で最大2段積み上げている。羨門は横長の石材を横位に二列据え、床面よりも一段高い段をなしている。この二列の段の間に閉塞石と思われる径20㎝程度の礫が集積していた。

3　排水溝（第5.7.8図）

石室正面は周溝がとぎれ、盛り土によって土橋になっている。この部分に羨門中央から長さ4.0mにわたって排水溝が存在する。排水溝はきわめて入念につくられている。幅0.6mの素掘り溝の左右両側面に厚さ20㎝程度の割石を並べ中空状態として、羨門付近では板石で蓋をかぶせ、そこから先は溝の中に小石を詰めてその上に土をかぶせた暗渠となっている。羨門部と先端部の比高差は0.4mである。盛り土による土橋の断面を観察すると、左右両端の盛り土の下に旧表土が確認でき、中央部分は地山まで掘り込まれている。この中央部は旧表土のある両側に比べて窪んでいる。この部分は盛り土以前に石材の搬入路として使われた可能性がある。

4　周溝（第5図）

墳丘の南側で周溝を検出した。石室正面には周溝は巡らない。また、墳丘北側でも溝を確認しているが、崩れた平面プランとなっている。このため、古墳の周溝と言い切れない。墳丘の周辺部が削平を受けているため、確認した周溝（墳丘南側）は幅約1.8m、深さ0.1mを測る。周溝内からは須恵器が出土している。

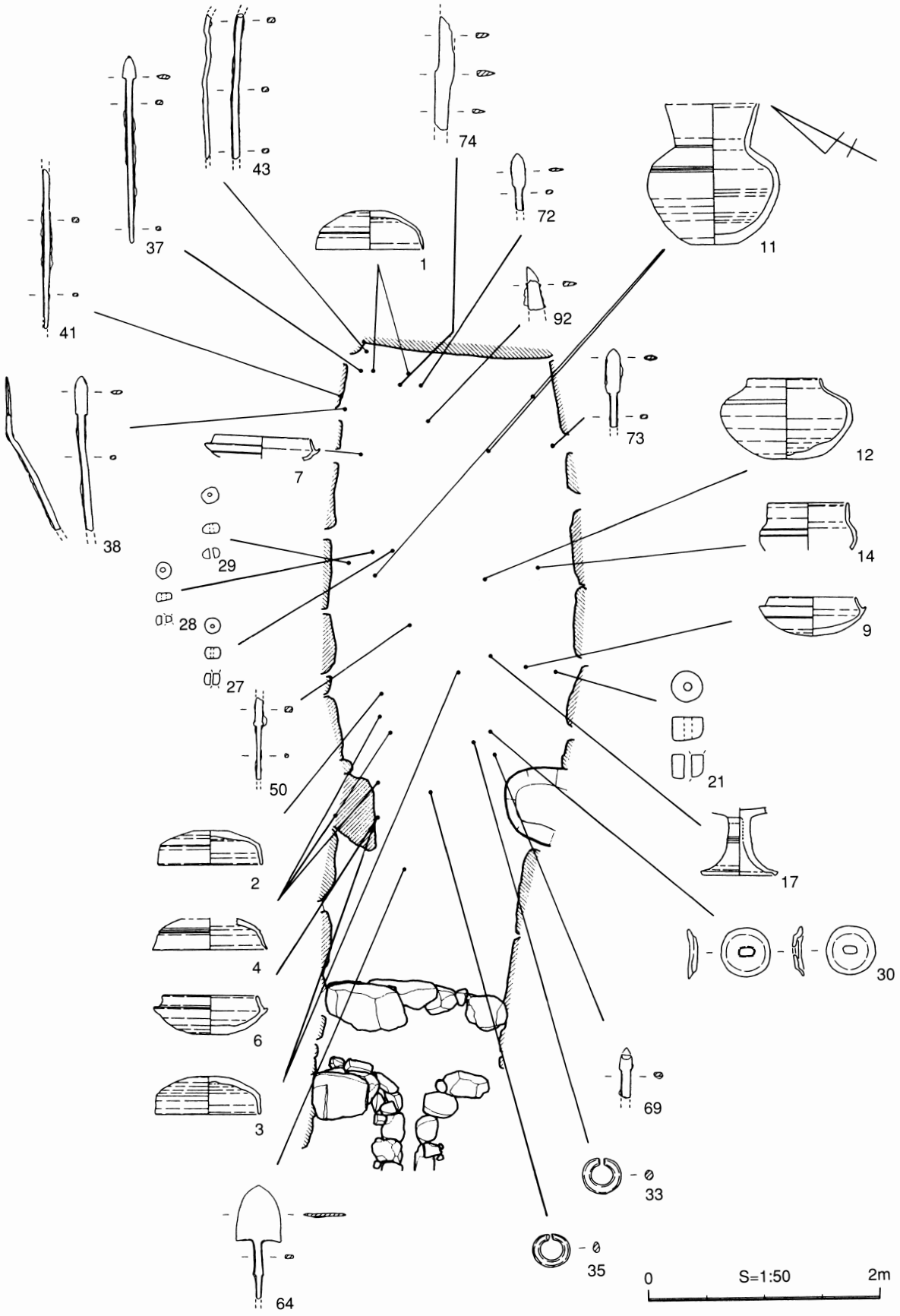
5　遺物の出土状況（第9図）

本古墳の石室は破壊を受けており、出土した遺物はすべて床面から遊離した状態で見つかった。原位置を保っている遺物は皆無であった。ほとんどの遺物が玄室から出土している。鉄製品は奥壁近くの左側、耳環は玄門近く、須恵器は左右両側壁近くから出土している。羨道からは鉄鏃（64）のみが出土している。

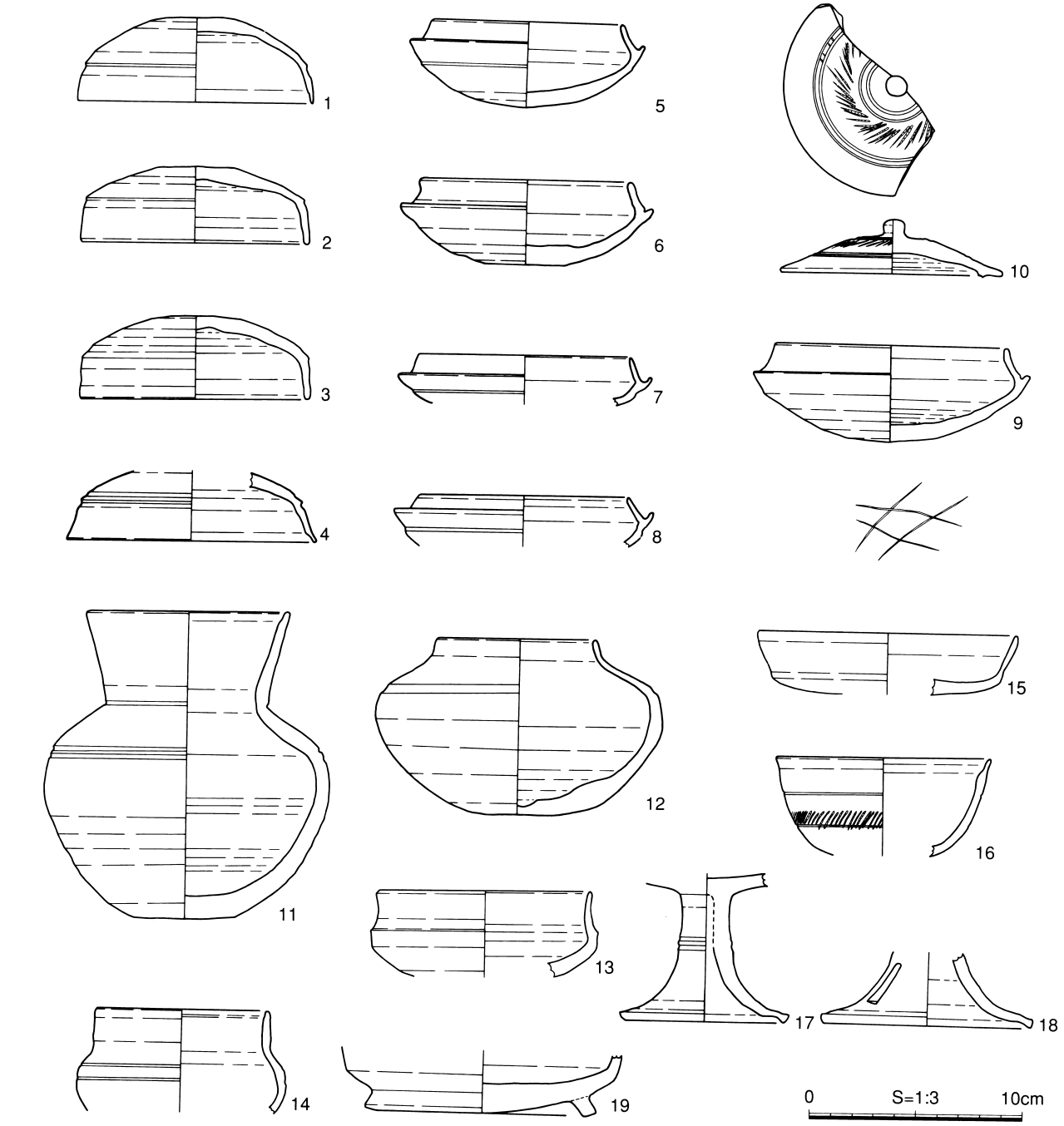
6　出土遺物（第10～15図）

石室内、周溝内からは、古墳時代の遺物として須恵器、装身具（玉類、耳環）、金属製品（馬具、鉄鏃、刀子、刀装具）などが見つかっている。これらはいずれも杉ヶ洞3号古墳に伴う遺物と考えられる。須恵器はいずれも破片である。また、後世の混入と思われる古代から中・近世陶磁器が出土している。

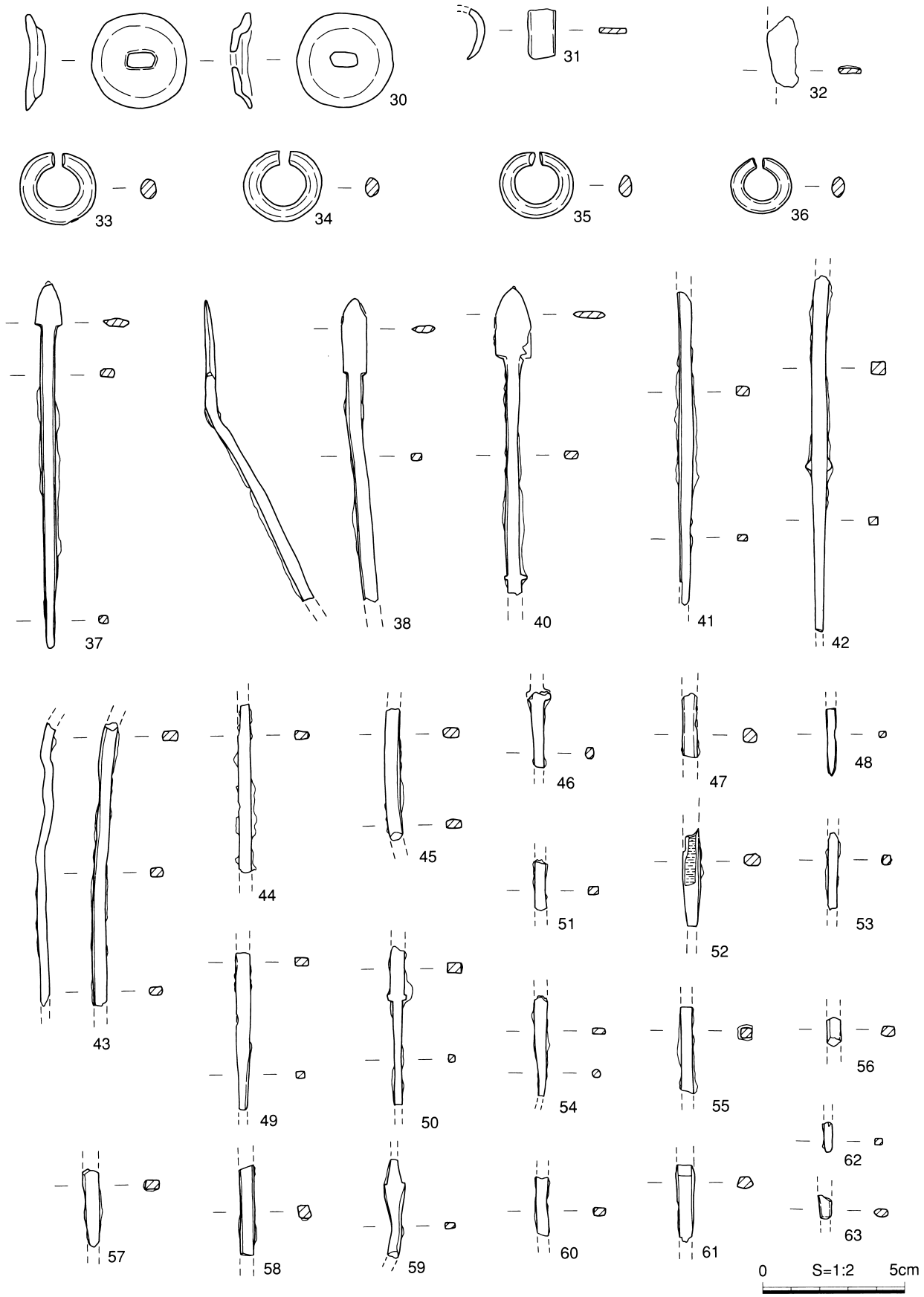
須恵器（1～19）　蓋坏（1～9）は9点が出土している。短頸壺（13）高杯（15,17）が周溝出土、それ以外は石室内出土であるが、坏身（5）は周溝出土の破片と接合関係にある。坏蓋（1～4）は天井部に回転ヘラケズリを施し、天井部と口縁部の境には稜を作る。坏身（5,6,9）は底部に回転ヘラケズリを施す。立ち上がりの高いもの（5,6,9）と立ち上がりの低いもの（7,8）がある。（9）の外面底



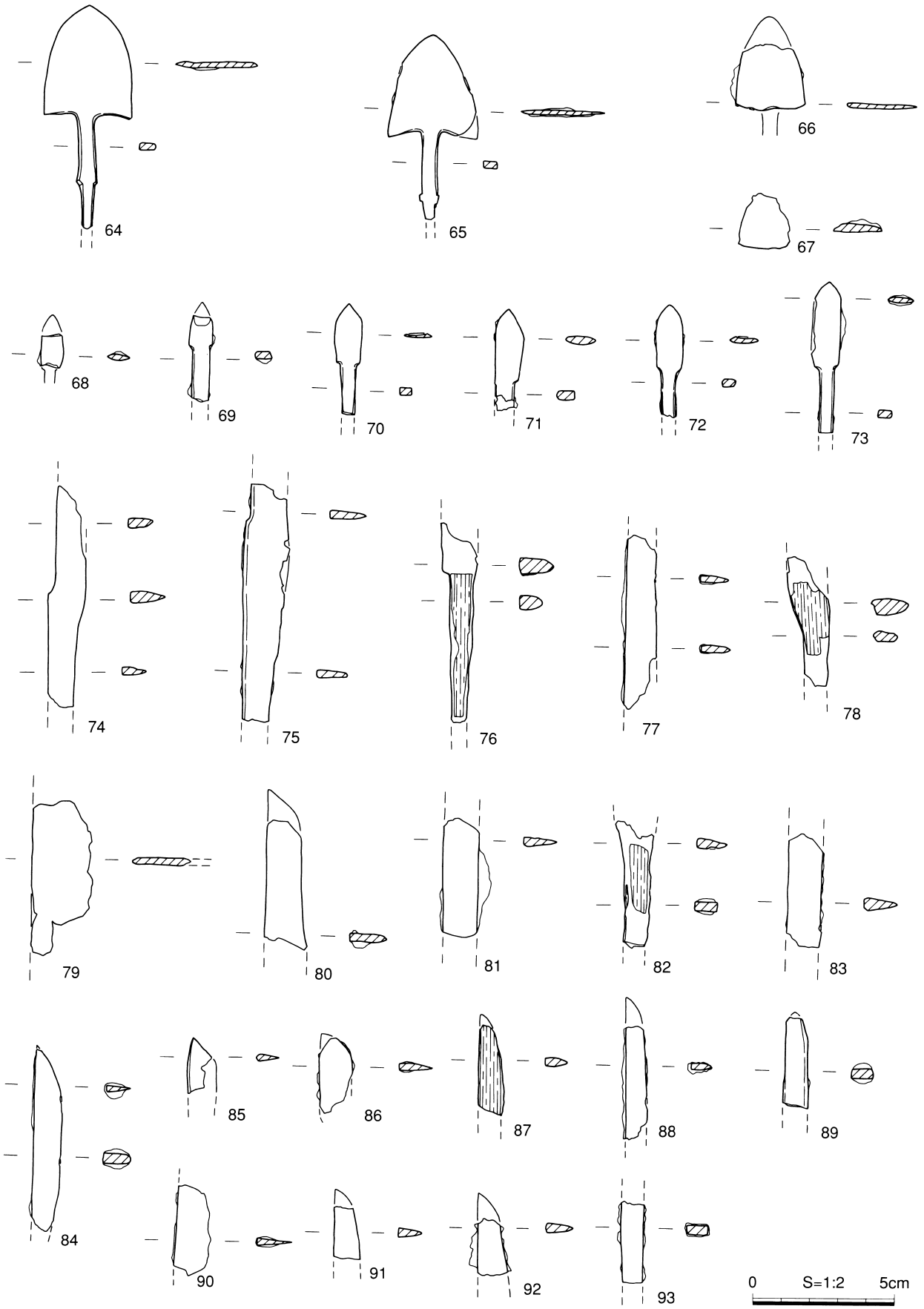
第9図　杉ケ洞3号古墳遺物分布図



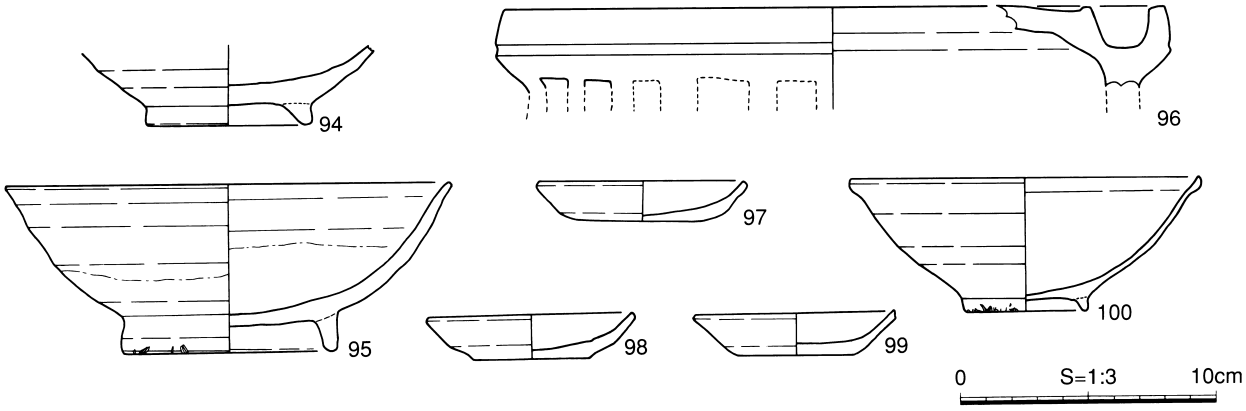
第10図　杉ケ洞３号古墳石室内出土遺物（1）（須恵器・玉類）



第11図　杉ケ洞３号古墳石室内出土遺物（2）（金属製品１）



第12図　杉ケ洞３号古墳石室内出土遺物（3）（金属製品２）



第13図　杉ケ洞3号古墳石室内出土遺物（4）（古代～中世陶器）

部には「#」のヘラ記号がみられる。蓋（10）は頂部に乳頭状のつまみをもち、内面にかえりをもつ。天井部には2条1組の沈線が2組巡り、2組の沈線の間にはクシによる刺突文が施される。壺（11）はやや肩が張る体部に、口頸部は直線的に外側に開く。体部の肩に2条の沈線が巡る。短頸壺（12～14）は3点出土している。（12）はやや内傾した口頸部に肩の張る体部をもつ。体部の肩には浅く幅広い沈線が巡る。（13）は体部中央に稜が巡る。（14）は直線的な口頸部に肩の張らない球形の体部がつき、体部には2条の沈線が巡る。高坏（15～18）は4点出土している。（15）は坏底部は平坦である。（16）は坏部のみである。1条の沈線とクシによる刺突文が巡る。（17）は脚部のみ、中程に2条の沈線が巡る。透孔はない。（18）も脚部のみ、透孔があけられている。元来2段の透孔があけられていたと思われる。壺（19）は高台付の壺の底部と思われる。

玉類（20～29）　管玉（20～23）は4点出土しているが、いずれも破片である。（20～22）は滑石製。同一個体の可能性もある。（23）は石材不明である。小玉（24～29）は6点出土している。いずれもガラス製である。色調は（27）が緑色、それ以外は青色を呈する。

馬具（鞍、30）　馬具は鞍金具の一部である鞍の座金具が1点出土している。平面形は円形で、中央部が盛り上がり、その頂部に方形の孔があけられている。この孔に鞍が通され、鞍に鞍が固定される。

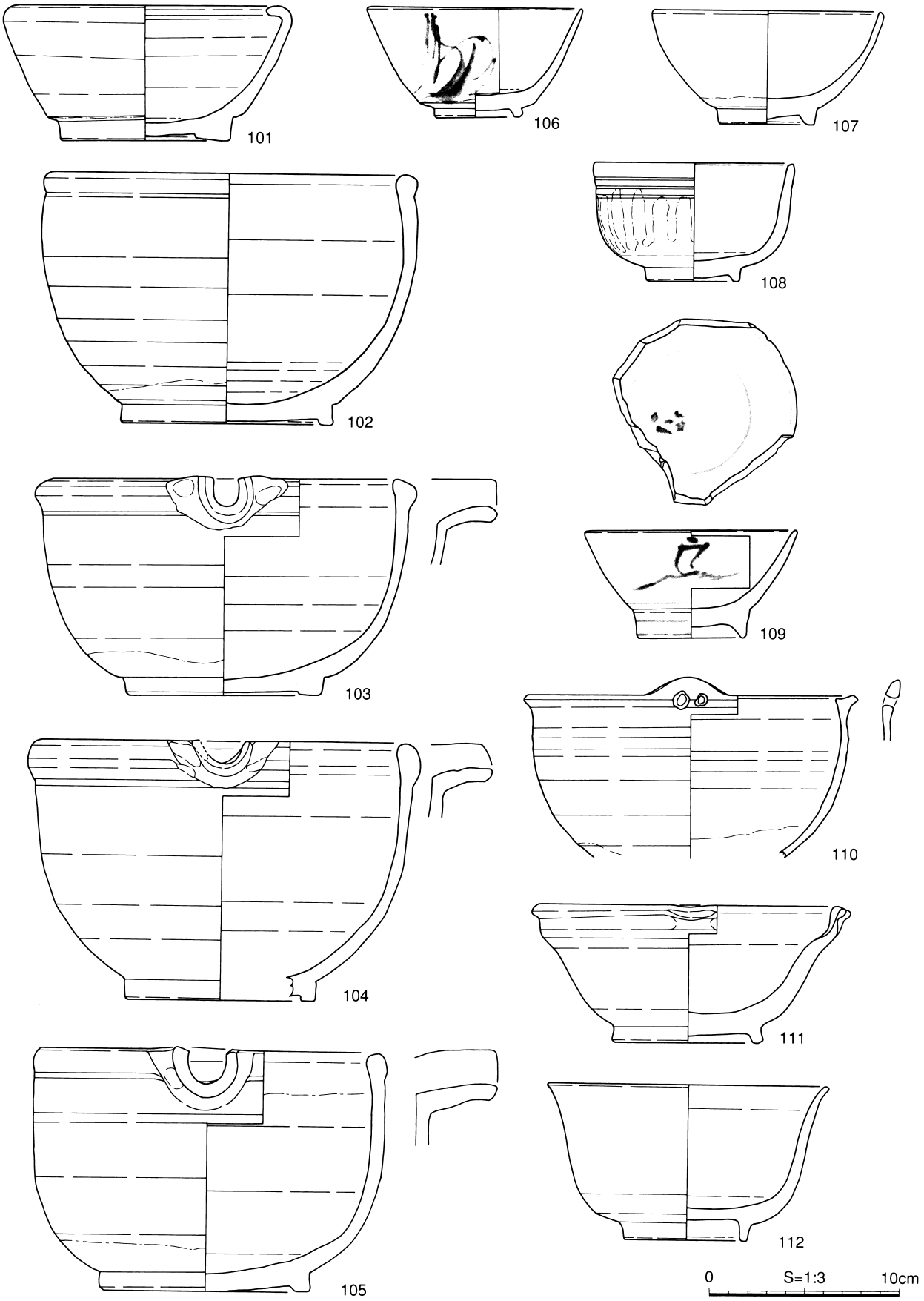
刀装具（鍄、31）　大刀に取り付けられた鍄と思われる。

不明鉄製品（32）　一辺は完結しているが、他の辺はいずれも割れ口で全体の形状を復原し得ない。

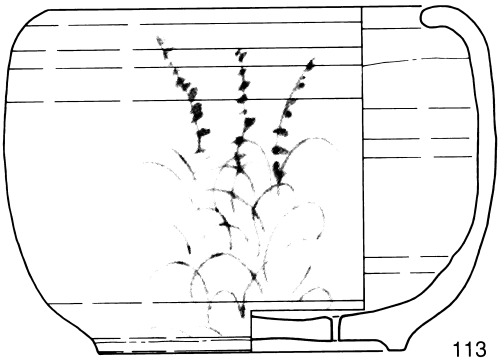
耳環（33～36）　（33,34）は銅芯に金（金箔張り）と銀（銀箔張り）のどちらが施されているか不明である。断面は楕円形を呈する。（35,36）は中実の銅芯に金（金箔張り）を施す。

鉄鏃（37～73）　鉄鏃は識別個体が13本以上（出土破片数は37点）出土している。全体の形状がはっきりしているものは細身式の長頸鏃（37～42）と広身式（64～67）で、それ以外は残欠である。細身式長頸鏃の鏃身部は三角形である。（37）には方形突起はつかないが、（40）には方形突起がつく。広身式の鏃身は三角形である。（64）は台形関、（65）には方形突起がつく。茎の残欠には矢柄の木質が付着しているもの（52）もみられる。

刀子（74～93）　刀子は出土破片数で20点出土しているが、いずれも残欠である。茎に柄の木質



第14図　杉ケ洞３号古墳石室内出土遺物（5）（近世陶磁器１）



0　S=1:3　10cm

第15図　杉ケ洞３号古墳石室内出土遺物（6）（近世陶磁器２）

が付着しているもの（76,78,82）や刃部に鞘の木質が付着しているもの（87）などがある。

古代～近世陶器（94～100）　石室内からは後世の混入と思われる古代から近世にかけての陶磁器類が多数出土している。図示し得たもので20点である。古代の遺物は灰釉陶器（94,95）、円面硯（96）が、中世の遺物は山茶碗（97～100）が、近世の遺物は鉢（101）、こね鉢（102）、片口鉢（103～105）、柳茶碗（106）、碗（107,108）、広東茶碗（109）、土鍋（110）、片口鉢（111）、白磁端反碗（112）、火鉢（113）が出土している。

第３節　杉ヶ洞５号古墳

杉ヶ洞５号古墳は北西方向にひらく谷地形のうち、谷に対して北向きにのびる小丘陵の北端に立地している。北側に柿田遺跡を望む。３号古墳と約20mの距離を隔てて隣接している（第４図）。

調査以前に墳丘及び石室は破壊されており、天井石を失い墳丘の中央部が大きく陥没した状態で、側壁と思われる石材が一部露出していた。墳丘の周辺部も削平を受けていた。周溝は確認できなかった。

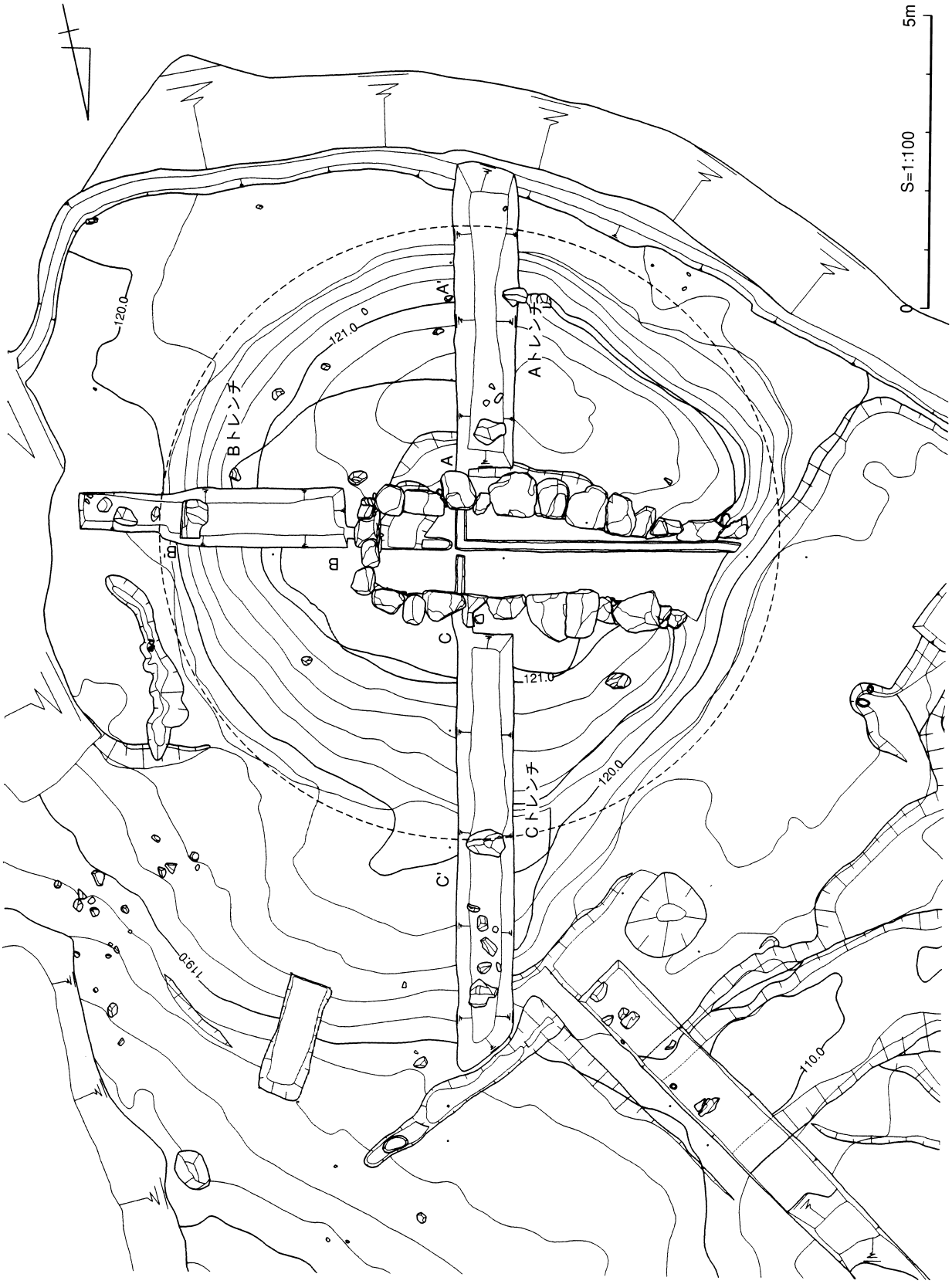
7　墳丘（第16,17図）

墳丘は墳頂部及び墳丘裾部において削平を受けていた。墳丘の周辺部も削平を受けており、特に北側において顕著である。残存している墳頂部との比高差は、墳丘南側で1.0mであった。

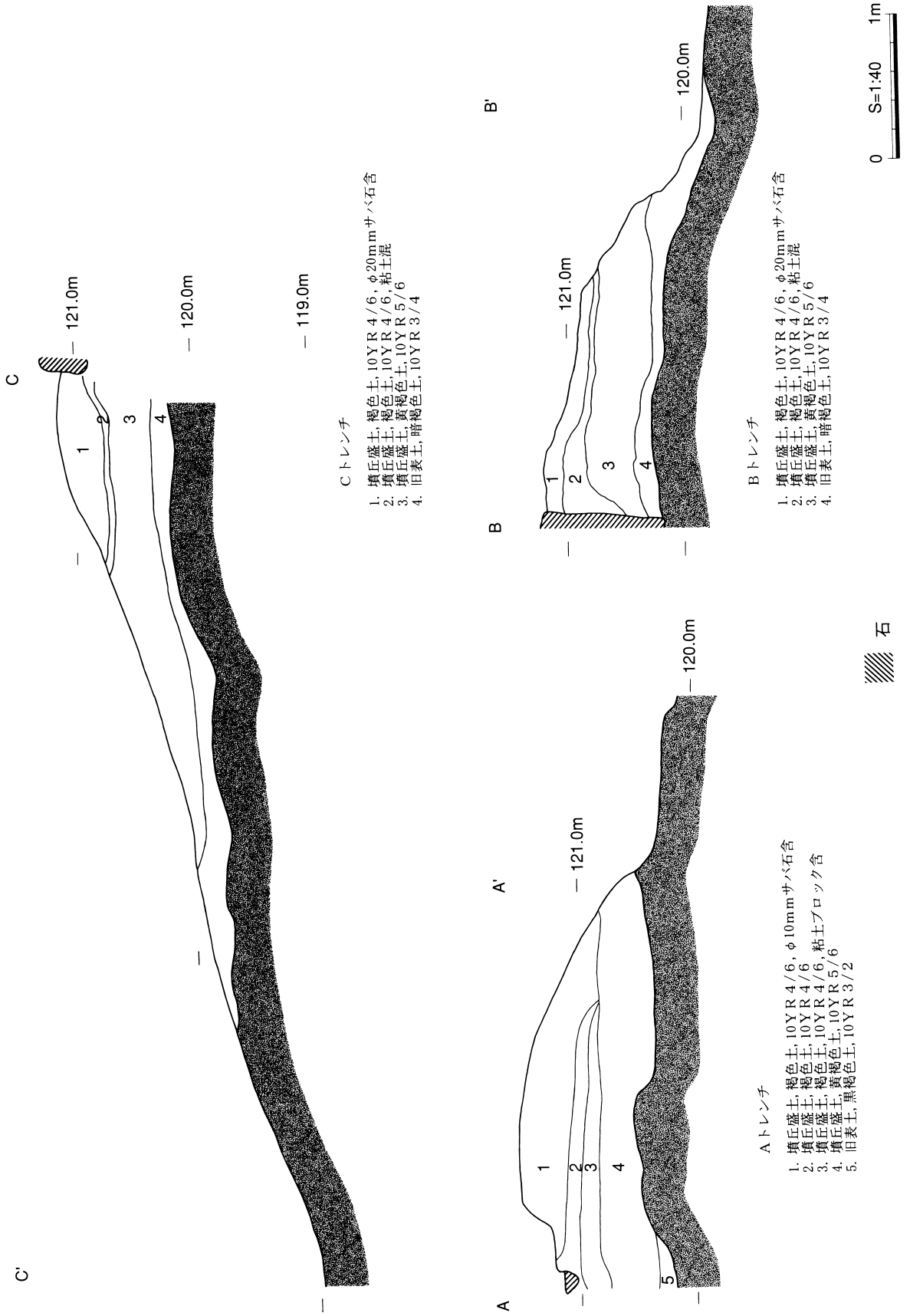
墳丘は東側及び西側部分はさほど削平を受けていないと思われ、この残存状況から円墳と確認した。墳丘の規模は主軸と直交方向で直径約10.5mである。また墳丘の残存高は、Aトレンチで1.0m、Bトレンチで1.0m、Cトレンチで1.0mである。墳丘の元来の高さは、天井石が失われているため不明である。墳丘に段築等は認められない。

8　内部主体（第18図）

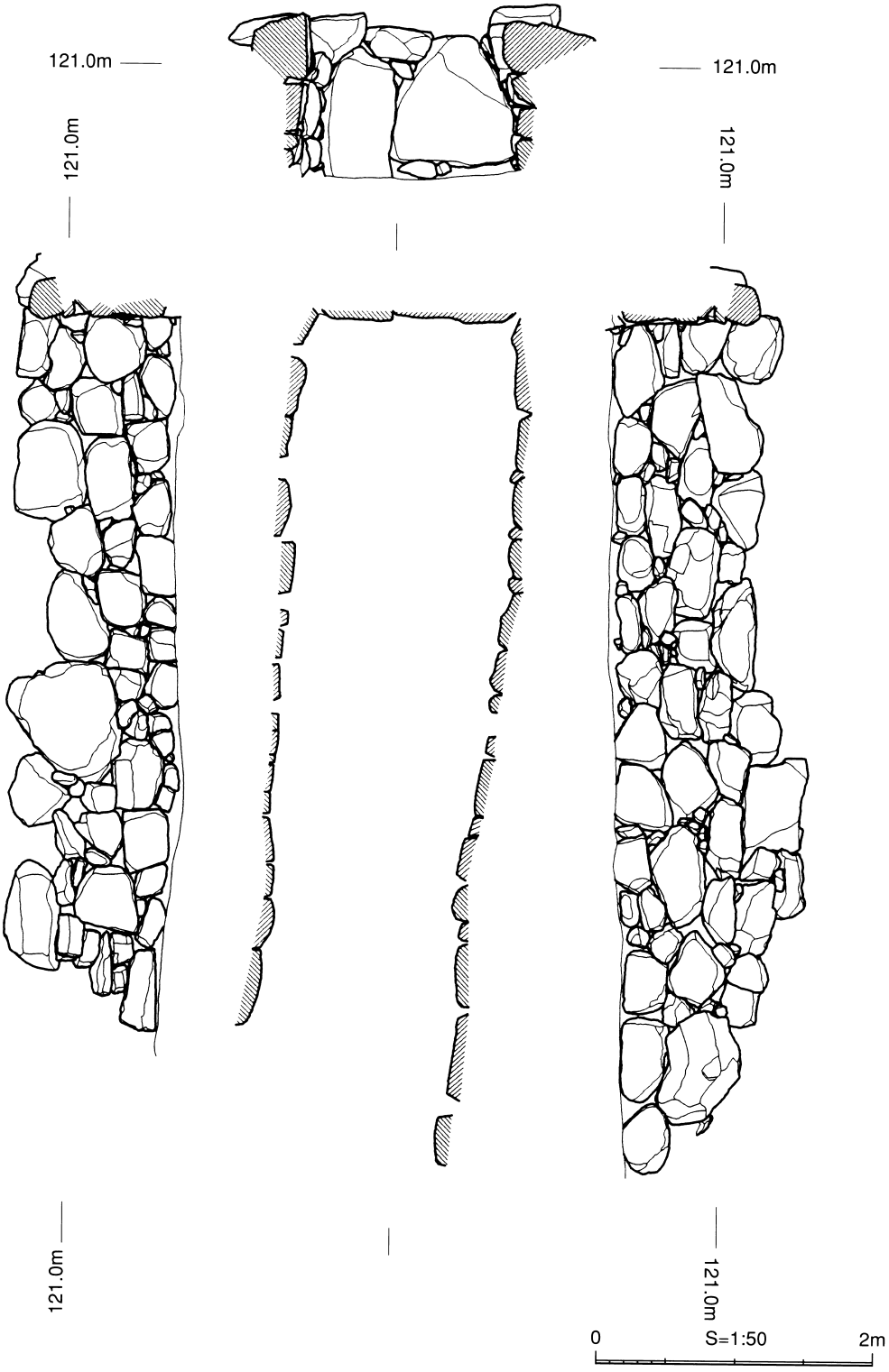
本古墳の内部主体は西側に開口する。主軸はN－72°－Wにとる。玄室と羨道の区別のない無袖式



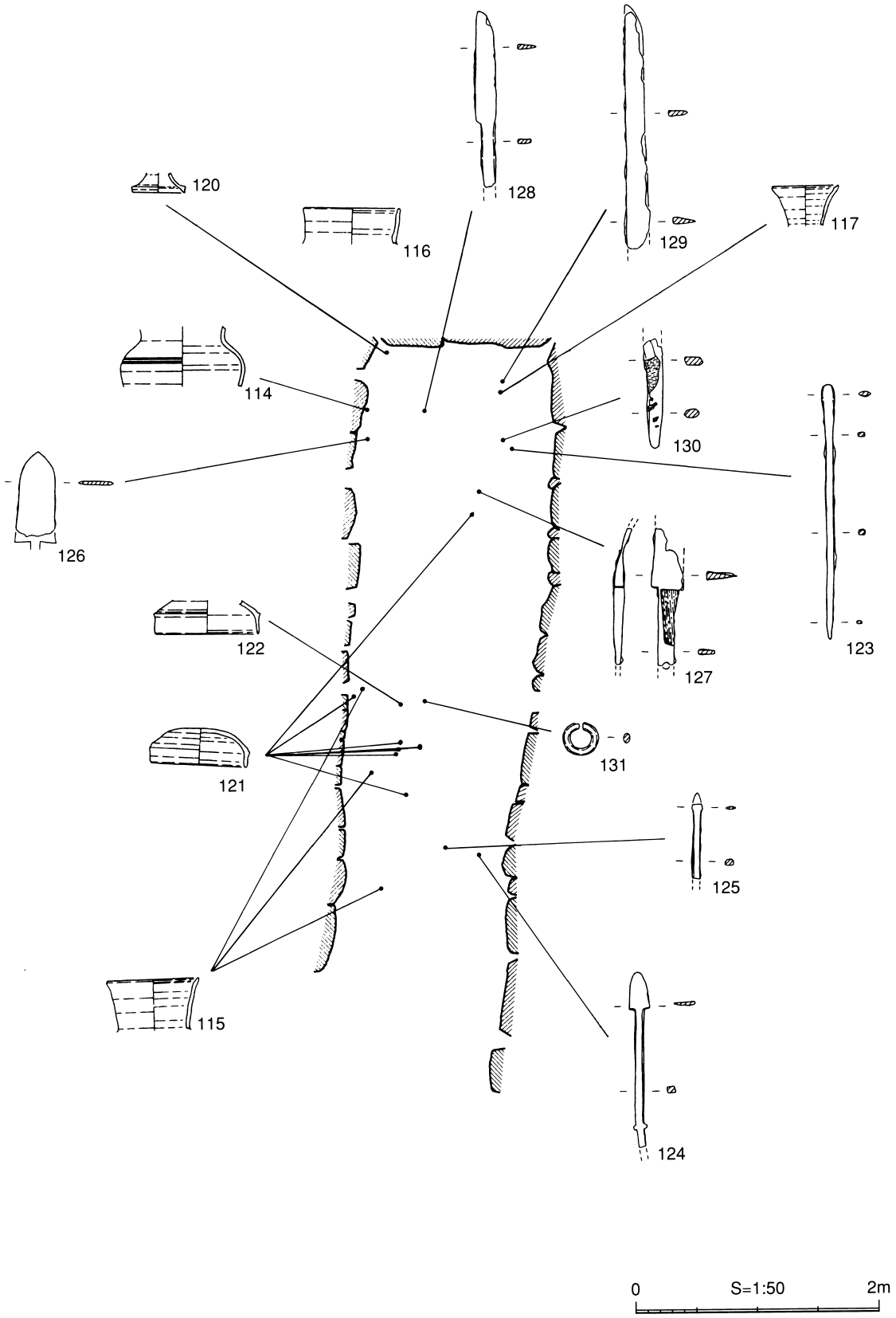
第16図　杉ヶ洞5号古墳平面図



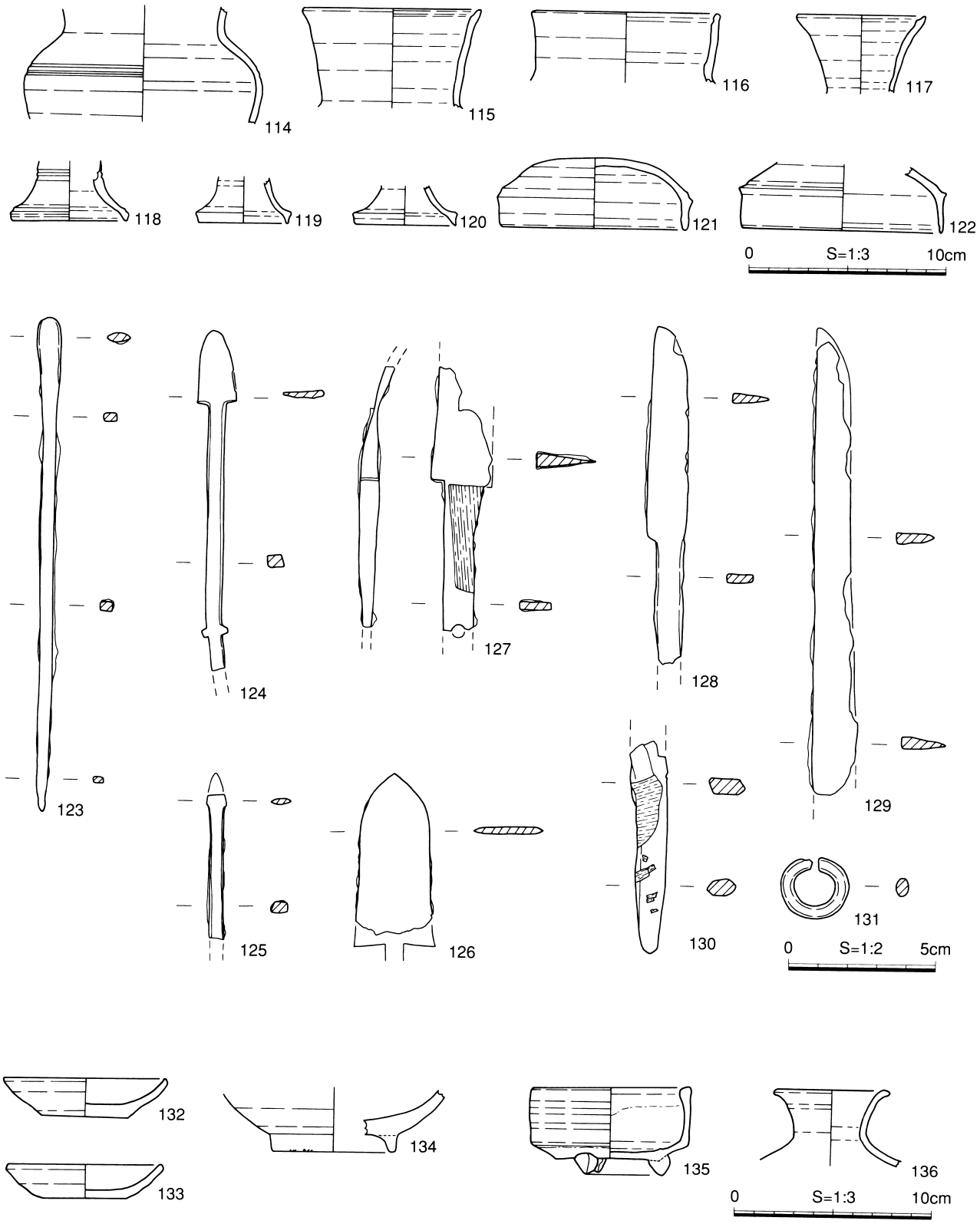
第17図　杉ケ洞5号古墳断面図（Aトレンチ、Bトレンチ、Cトレンチ）



第18図　杉ケ洞５号古墳石室実測図



第19図　杉ケ洞5号古墳遺物分布図



第20図　杉ケ洞５号古墳石室内出土遺物　※132はSX5出土

横穴式石室である。石室の規模は全長6.2m、最大幅1.1m、残存高は左側壁で1.4mを測る。天井石が失われているほか、入り口付近も破壊を受けていると思われ、石室床面は入り口付近の墳丘裾との間に約1mの段差をもっている。

石室の平面は長方形を呈する。床面には礫床は認められない。側壁は基底部には左右とも13石を並べ、現状では中型石材で最大4段積み上げている。奥壁は中型石材2個を左右に並べ、その上部に小型石材を積んでいる。

また石室内がある程度埋まった段階で、中世墓として2次的に利用したと考えられる遺構（SX5）を確認した（第21図）。このSX5は奥壁より約1.5mに1.4×1.4mの範囲に10～30㎝程度の石を並べている。この並べた石を取り除くと、山茶碗皿（132）が石組みの中央部におかれていた。

9　遺物の出土状況（第19図）

本古墳の石室は破壊を受けており、出土した遺物はすべて床面から遊離した状態で見つかった。原位置を保っている遺物は皆無であった。出土遺物は奥壁及び開口部の付近に集中している。鉄製品のうち鉄鏃は左側壁側、刀子、小刀は奥壁付近、須恵器は右側壁側にまとまって出土している。

10　出土遺物（第20図）

石室内、周溝内からは、古墳時代の遺物として須恵器、装身具（耳環）、金属製品（鉄鏃、刀子、小刀）などが見つかっている。これらはいずれも杉ヶ洞5号古墳に伴う遺物と考えられる。また、5号古墳の石室内には中世墓と思われる石組み（SX5）が後世につくられ、この石組み（SX5）から山茶碗皿が出土している。このほかにも後世の混入と思われる古代から中世の土器や近世陶磁器が出土している。

須恵器（114～122）　壺（114～117）は4点が出土している。壺の器種が判明しているのは短頸壺（114,116）である。高坏（118～120）は、脚部のみ3点出土している。（118）は脚の中程に2条の沈線を巡らせる。蓋坏（121,122）は坏蓋のみ2点出土している。天井部に回転ヘラケズリを施し、天井部と口縁部の境には稜を作る。

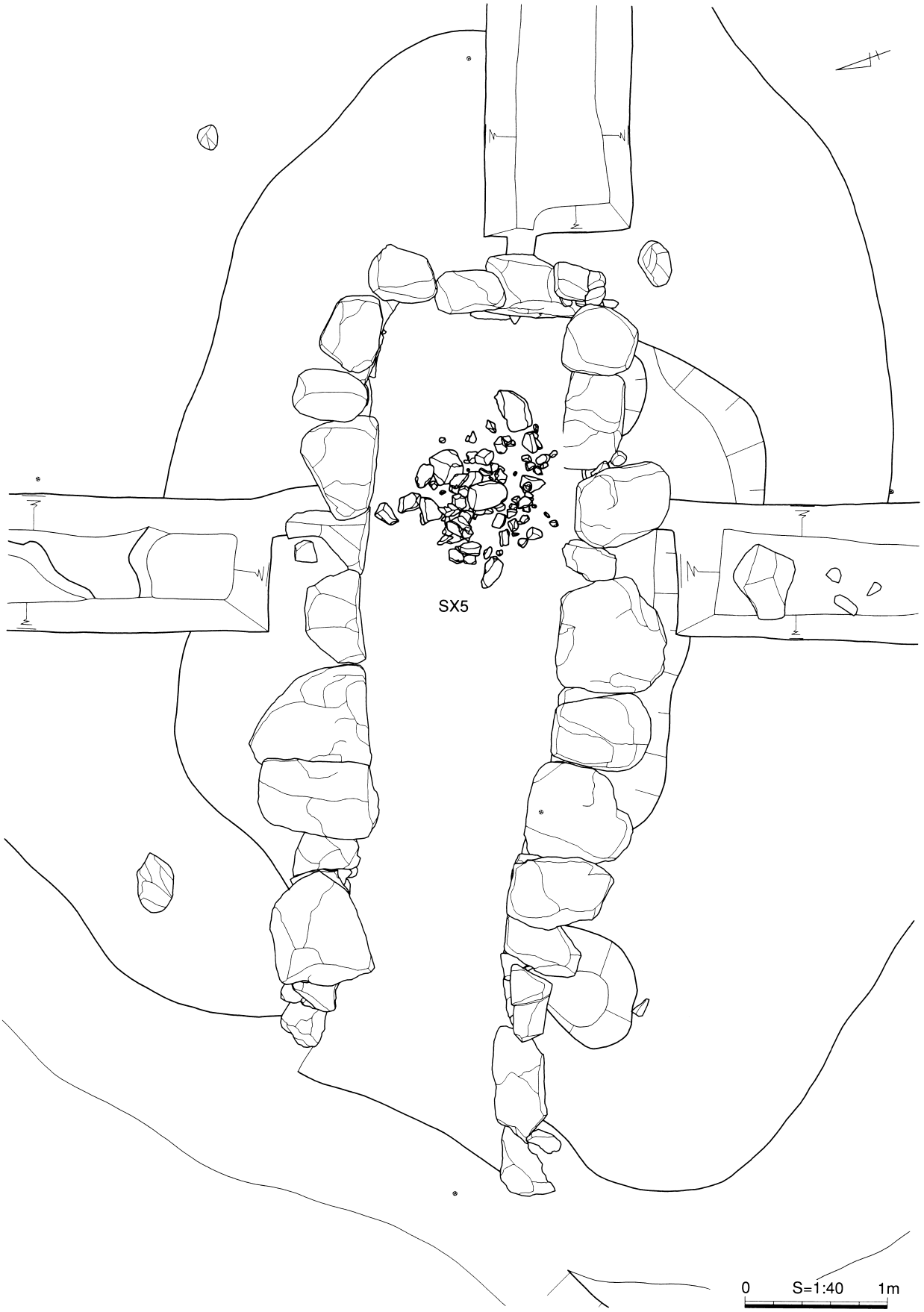
耳環（131）　中実の銅芯に金（金箔張り）を施す。断面は楕円形を呈する。

鉄鏃（123～126）　鉄鏃は4本出土している。細身式の長頸鏃（123～125）と広身式（126）である。細身式長頸鏃の鏃身部は三角形（124,125）と鑿頭状（123）のものがある。（124）には方形突起がつく。広身式の鏃身は三角形である。

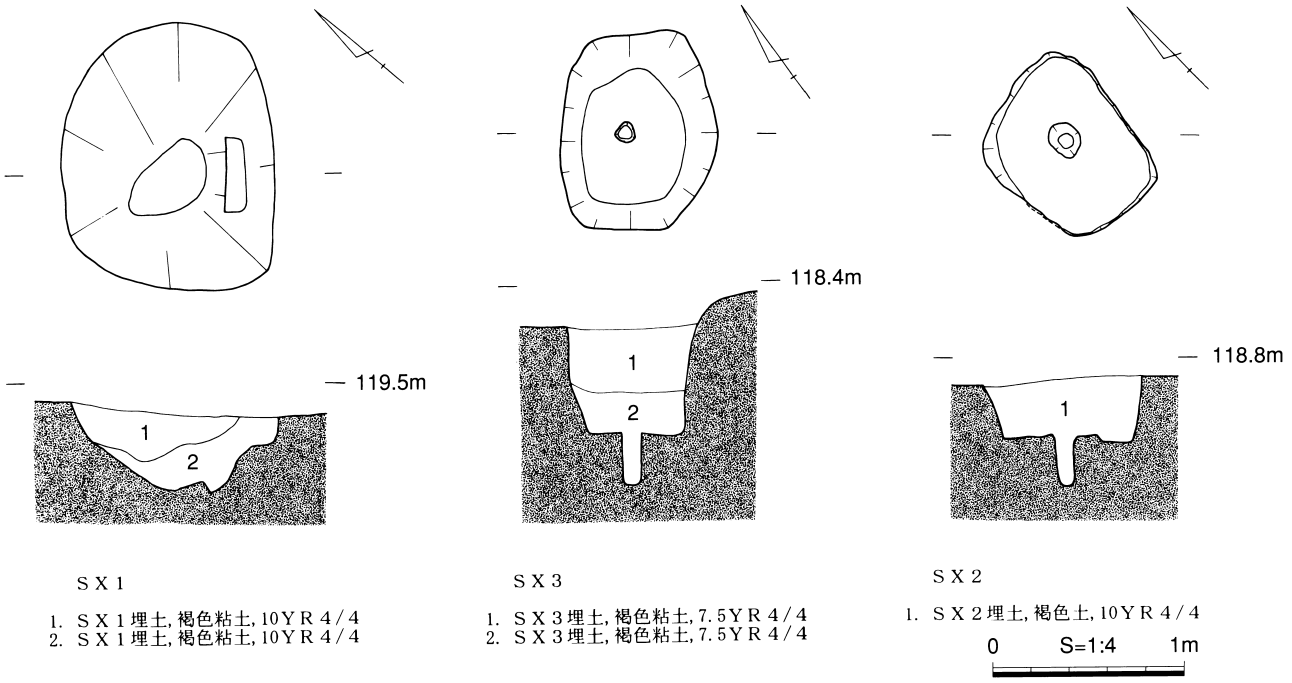
刀子（128,130）　刀子は2点出土している。茎に柄の木質が付着しているもの（130）がある。

小刀（127、129）　小刀は2点出土している。（127）は茎に目釘孔が確認できる。また柄の木質が付着している。（129）は刃部のみである。

古代～近世陶器（132～136）　石室内からは後世の混入と思われる古代から近世にかけての陶磁器類が出土している。図示し得たもので5点である。古代の遺物は灰釉陶器の壺（136）が、中世の遺物は山茶碗（132～134）が、近世の遺物は香炉（135）が出土している。このうち、山茶碗皿（132）は石室内の中世墓と思われる石組み（SX5）から出土している。



第21図　SX5（杉ケ洞５号古墳石室内）



ＳＸ１

1. ＳＸ１埋土, 褐色粘土, 10ＹＲ４/４
2. ＳＸ１埋土, 褐色粘土, 10ＹＲ４/４

ＳＸ３

1. ＳＸ３埋土, 褐色粘土, 7.5ＹＲ４/４
2. ＳＸ３埋土, 褐色粘土, 7.5ＹＲ４/４

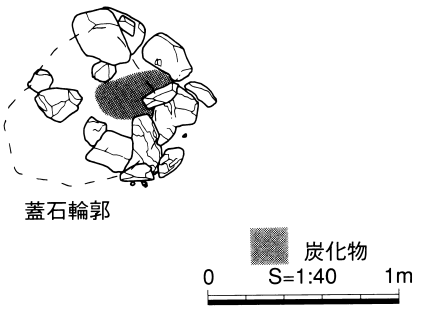
ＳＸ２

1. ＳＸ２埋土, 褐色土, 10ＹＲ４/４

第22図　近世の遺構（1）（SX1、SX2、SX3）

第４節　古墳以外の遺構

杉ヶ洞３・５号古墳の調査区内からは、古墳に伴わない遺構も確認している。いずれも墳丘の周辺部の遺構であるが、墳丘周辺の削平後に掘り込まれている。ほとんど遺物は出土しなかった。また遺構とは無関係であるが、３号古墳南西の調査区端で削平面から耳環（銅環,137）が見つかっている。



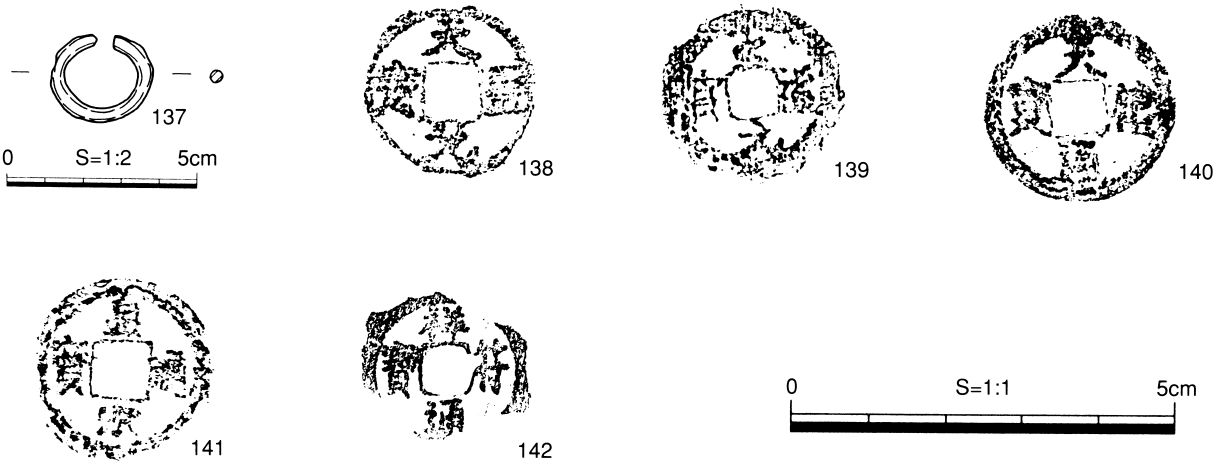
第23図　近世の遺構（2）（SX4）

SX1（第22図）　３号古墳の周溝の外側で確認された土坑状の掘り込みである。長径1.4m、短径1.1m、深さ0.4mを測る。近世陶磁器小片が出土している。

SX2（第22図）　３号古墳の南側で確認された土坑状の掘り込みである。長径0.9m、短径0.7m、深さ0.8mを測る。中央部には柱痕とも思える径10cmの掘り込みがなされ、２段の掘り込みとなっている。近世陶磁器小片が出土している。

SX3（第22図）　３号古墳の西側で確認された土坑状の掘り込みである。長径1.0m、短径0.8m、深さ0.8mを測る。中央部には柱痕とも思える径10cmの掘り込みがなされ、２段の掘り込みとなっている。近世陶磁器小片が出土している。

SX4（第23図）　３号古墳の西側で確認された石組み状の遺構である。径約30cm程度の割石を径0.8m程度の円形に並べ、円形に並べた割石の上に径約1.0mの石を蓋のように載せている。円形に並べた割石の中心に粘土を敷き詰めている。この粘土の下には炭化物が堆積していた。この炭化物を除去した後、円形に並べた割石の下から６枚の古銭が見つかった。このうち５枚は種別が判明した。



第24図　古墳以外の遺物（削平面-137、SX4-138～142）

いずれも宋銭で、天聖元寶（138）、至道元寶（139）、天禧通寶（140）、皇宋通寶（141）、祥符通寶（142）である。

第５節　前山２号古墳

前山２号古墳は北西方向にひらく谷地形のうち、谷に面した北東斜面上に位置する。

調査以前に墳丘及び石室は破壊されており、天井石を失い墳丘の中央部が大きく陥没した状態で、側壁と思われる石材が一部露出していた。墳丘の周辺部も削平を受けていた。

11　墳丘（第25図）

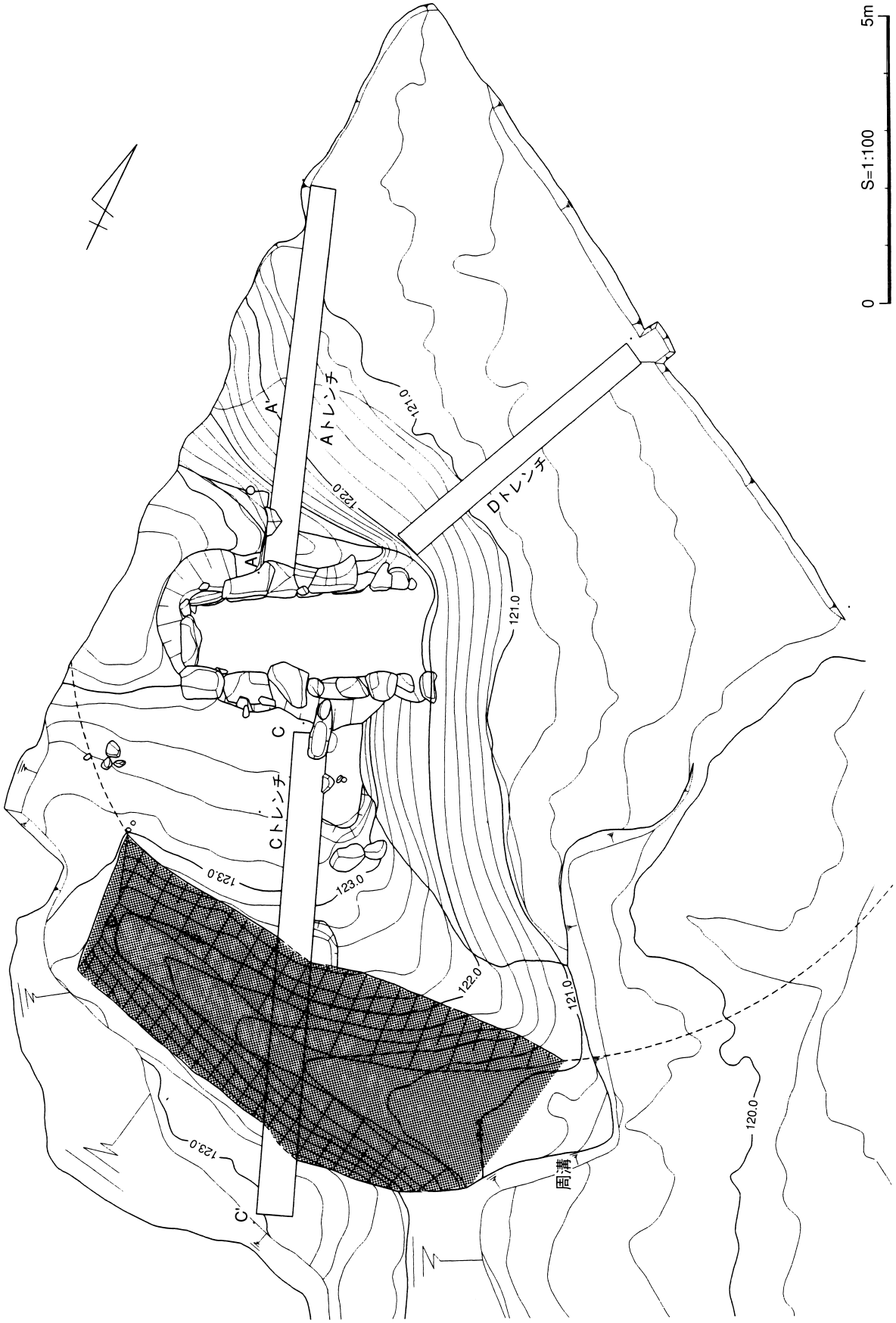
墳丘は墳頂部及び墳丘裾部において削平を受けていた。墳丘の周辺部も削平を受けていた。特に墳丘の北側から東側において削平を受けていた。

墳形は円墳である。残存している墳丘は削平を受けており、北側は石室の側壁近くまで削平を受け、周溝も確認できなかったが、墳丘南側において周溝を確認した。墳丘の規模は周溝の内側で測定して主軸と直交方向で約11mである。また墳丘の残存高は、Cトレンチで1.5mである。墳丘の元来の高さは、天井石が失われているため不明である。墳丘に段築等は認められない。

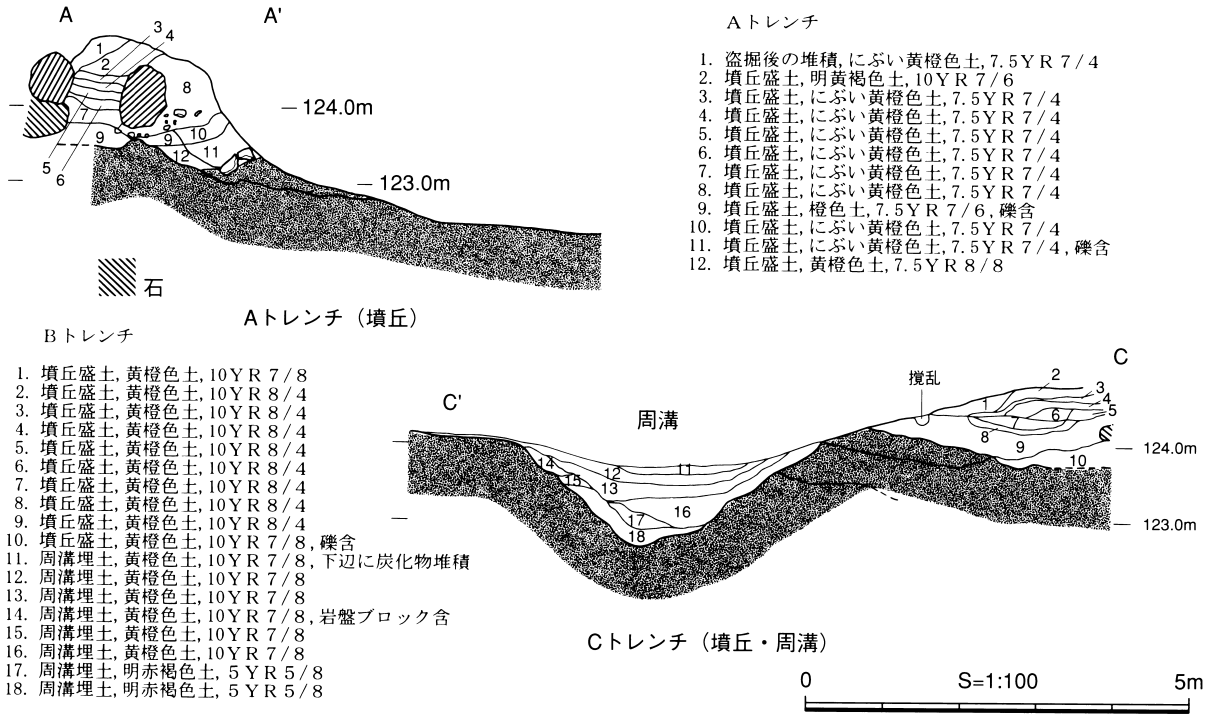
12　内部主体（第27図）

本古墳の内部主体は北東に開口する。主軸はN－60°－Eにとる。天井石が失われているほか、入り口付近も破壊を受けていると思われ、石室床面は入り口付近の墳丘裾との間に約1.8mの段差をもっている。石室の規模は全長（残存長）3.8m、最大幅1.7mを測る。

玄室の平面はやや胴張りの長方形を呈する。床面には礫床は認められない。玄室の側壁は残存状況で、基底部には右側で８石、左側で７石を並べ、中型石材で最大３段積み上げている。奥壁はかなり凹凸の激しい大型の一枚石を用いている。一枚石の両端に小型及び中型石材を積んでいる。なお、奥壁の石材には被熱した痕跡が確認できる。



第25図　前山2号古墳平面図



第26図　前山２号古墳断面図（Aトレンチ・Cトレンチ）

13　周溝（第25,26図）

墳丘の南側で周溝を検出した。調査区外となるため現状での観察にとどまるが、周溝は墳丘西側へと続いていくようである。墳丘の北側及び東側では墳丘が破壊を受けており、周溝も確認できない。確認した周溝は幅約1.6m、深さ0.4mを測る。の浅い周溝である。周溝内から遺物は出土しなかった。

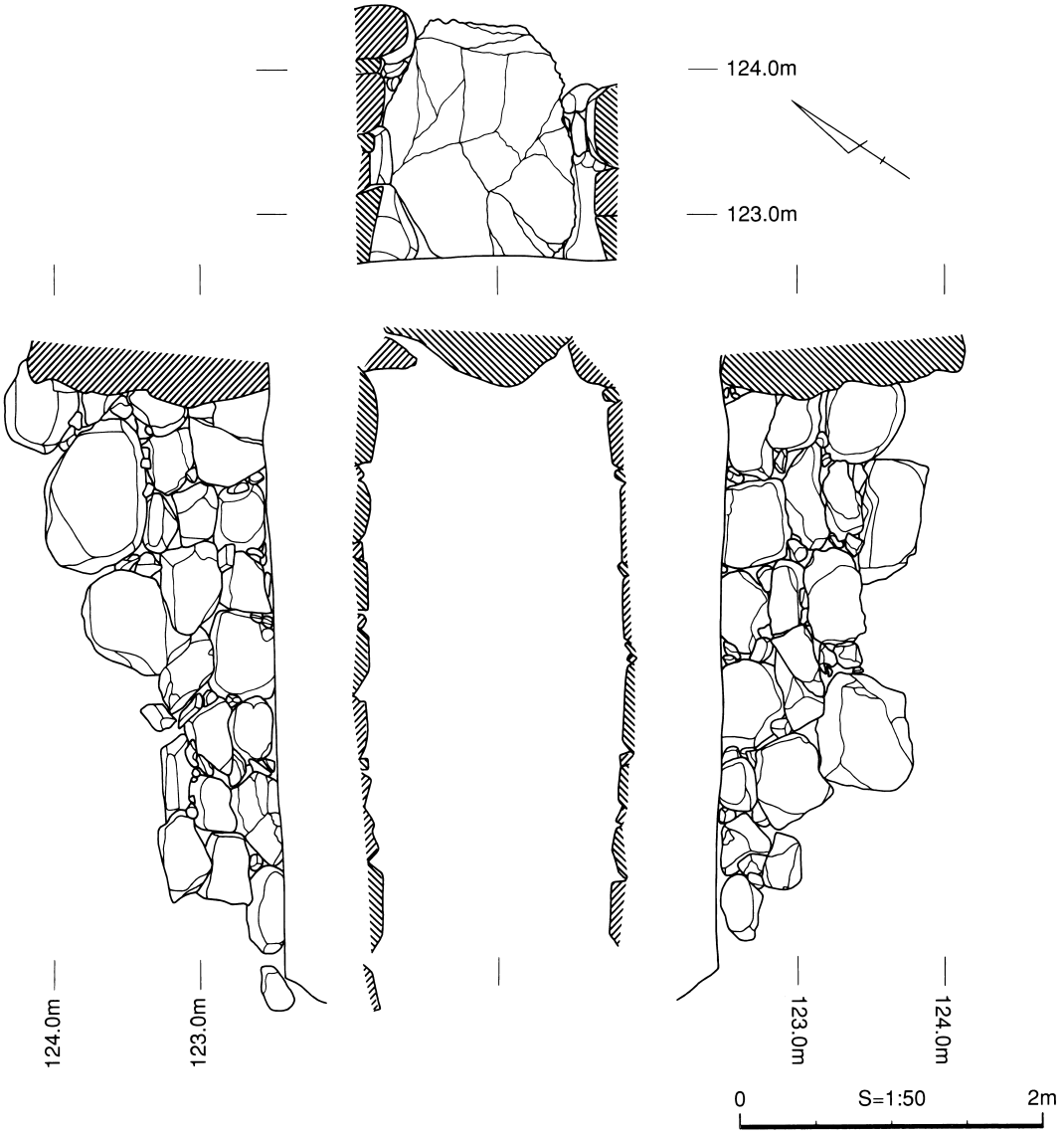
14　遺物の出土状況（第28図）

本古墳の石室は破壊を受けており、出土した遺物はすべて床面から遊離し、原位置を保っていない。須恵器（144～148）は開口部付近で横並びで見つかった。また、玉類はその多くが埋土の水洗選別により見つかっているため出土地点が明らかなものは少ないが、148点中128点（86％）が奥壁近く（石室A,B）から出土している。

15　出土遺物（第29～34図）

石室内、周溝内からは、古墳時代の遺物として須恵器、装身具（玉類、耳環）、金属製品（鉄鏃、刀子、刀装具）などが見つかっている。これらはいずれも前山２号古墳に伴う遺物と考えられる。また、後世の混入と思われる古代から中・近世の土器、陶磁器類が出土している。

須恵器（143～152）　蓋坏（143～148）は６点が出土している。坏蓋（143,144）は天井部に回転ヘラケズリを施し、天井部と口縁部の境には稜を作る。坏身（145～148）は底部に回転ヘラケズリを施す。いずれも立ち上がりは高く、杉ヶ洞３号古墳のような立ち上がりの低いものはみられない。壺（151）はやや肩が張る体部に、口頸部は直線的に外側に開く。体部の肩のやや上方に２条の沈線が巡る。高坏（150）は１点出土している。脚部は中程やや上部に２条の沈線が巡る。端部は端面が下方



第27図　前山2号古墳石室実測図

にのびる。坏部は外面に沈線が巡り、沈線の直下に凸帯が巡る。

鉄鏃（153～160）　鉄鏃は識別個体が4本以上（出土破片数は8点）出土している。全体の形状がはっきりしているものは細身式の長頸鏃（155,156）と広身式（154）で、それ以外は残欠である。

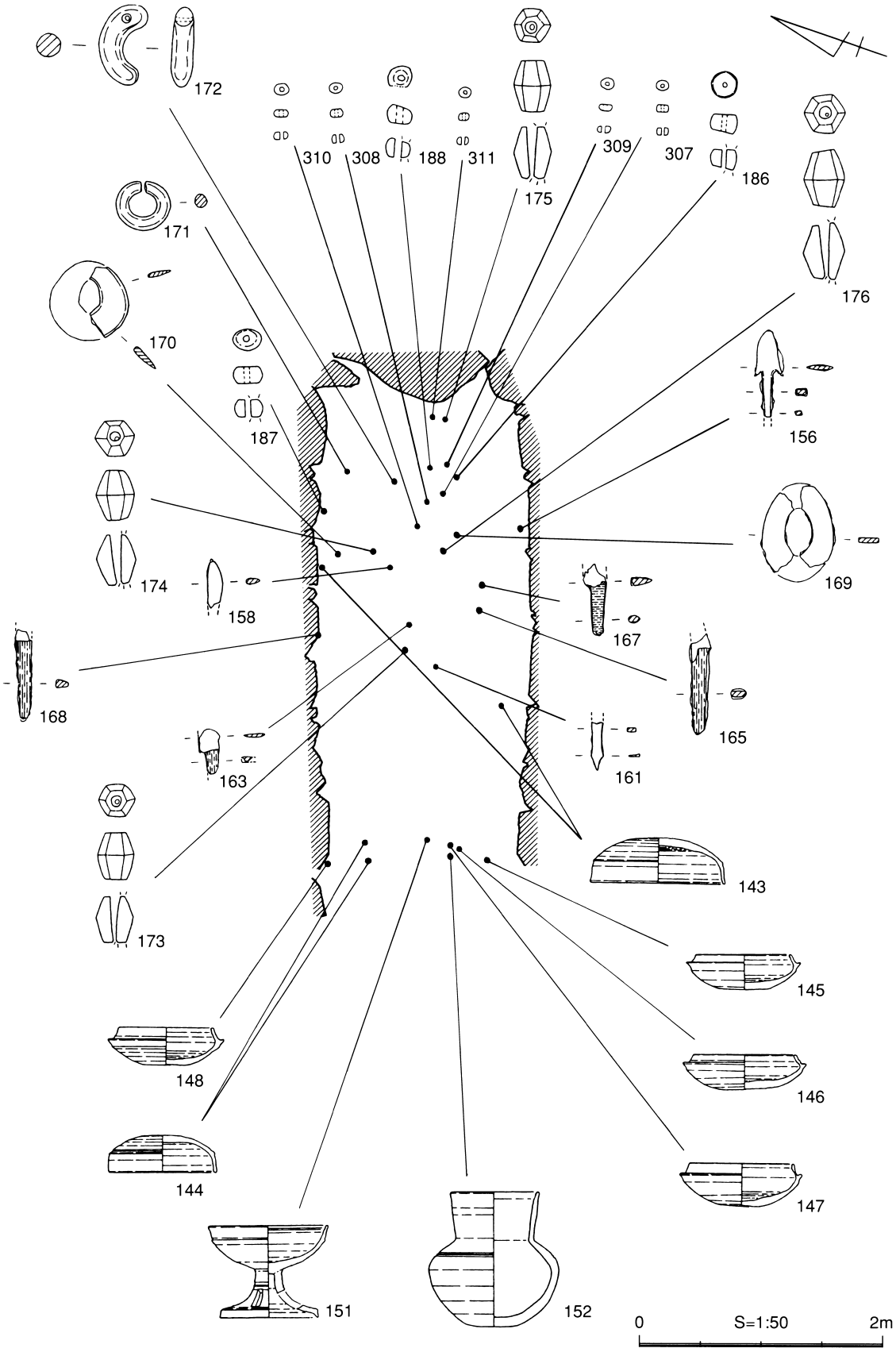
不明鉄製品（161）　鉄鏃の茎に似ているが、実測図下端が菱形に尖る。

刀子（162～168）　刀子は出土破片数で7点出土しているが、いずれも残欠である。茎に柄の木質が付着しているもの（163、165～168）や刃部に鞘の木質が付着しているもの（162）などがある。

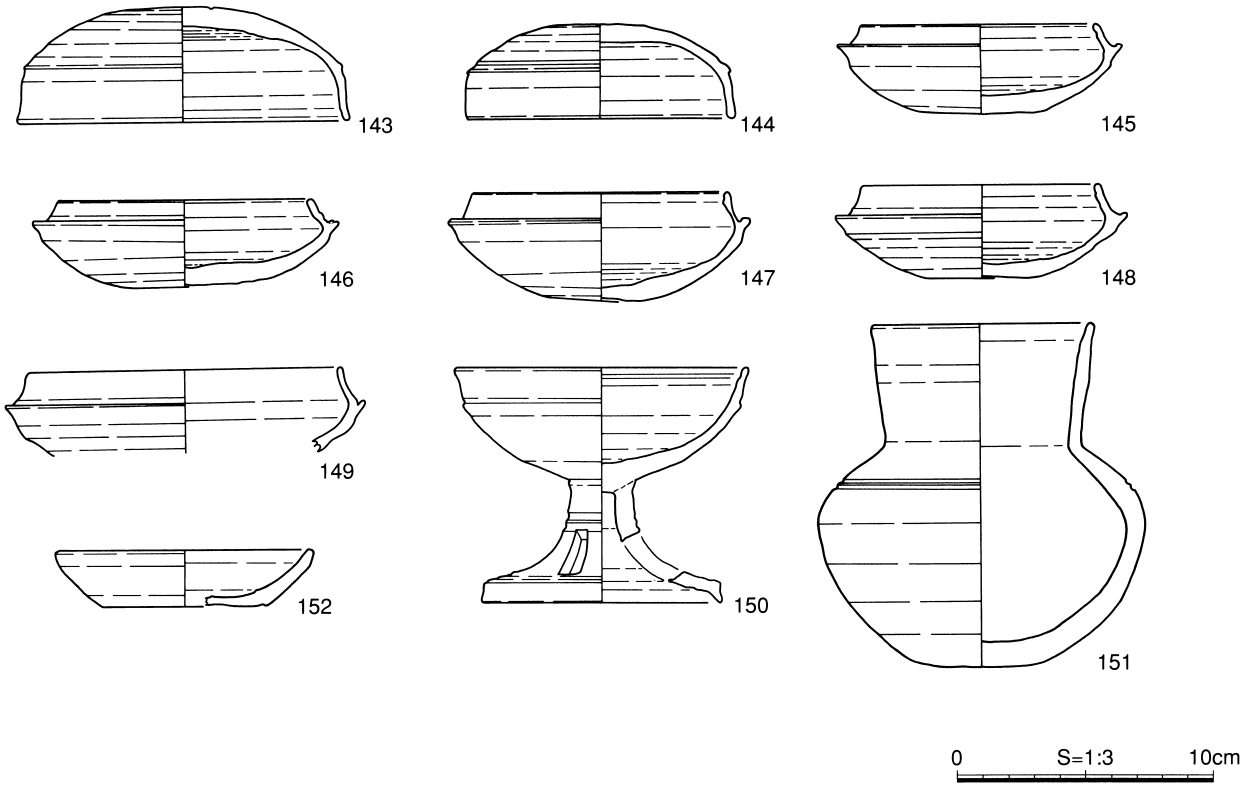
刀装具（鍔、169,170）　刀に取り付けられた鍔と思われる。鉄製で特に装飾等は施されない。外形は（169）が卵形、（170）は円に近い形であるが、実測図下半が広くなっている。

耳環（171）　中実の銅芯に金（金箔張り）を施す。断面は楕円形を呈する。

玉類（172～320）　勾玉（172）は瑪瑙製の勾玉である。色調は淡橙色を呈する。丁寧に磨かれており、はっきりした稜線や平坦面は見出せず、断面は整った円形である。切子玉（173～176）は4点出土している。いずれも水晶製で、無色透明である。側面は断面6角形に磨かれる。側面中央はふく



第28図　前山２号古墳遺物分布図

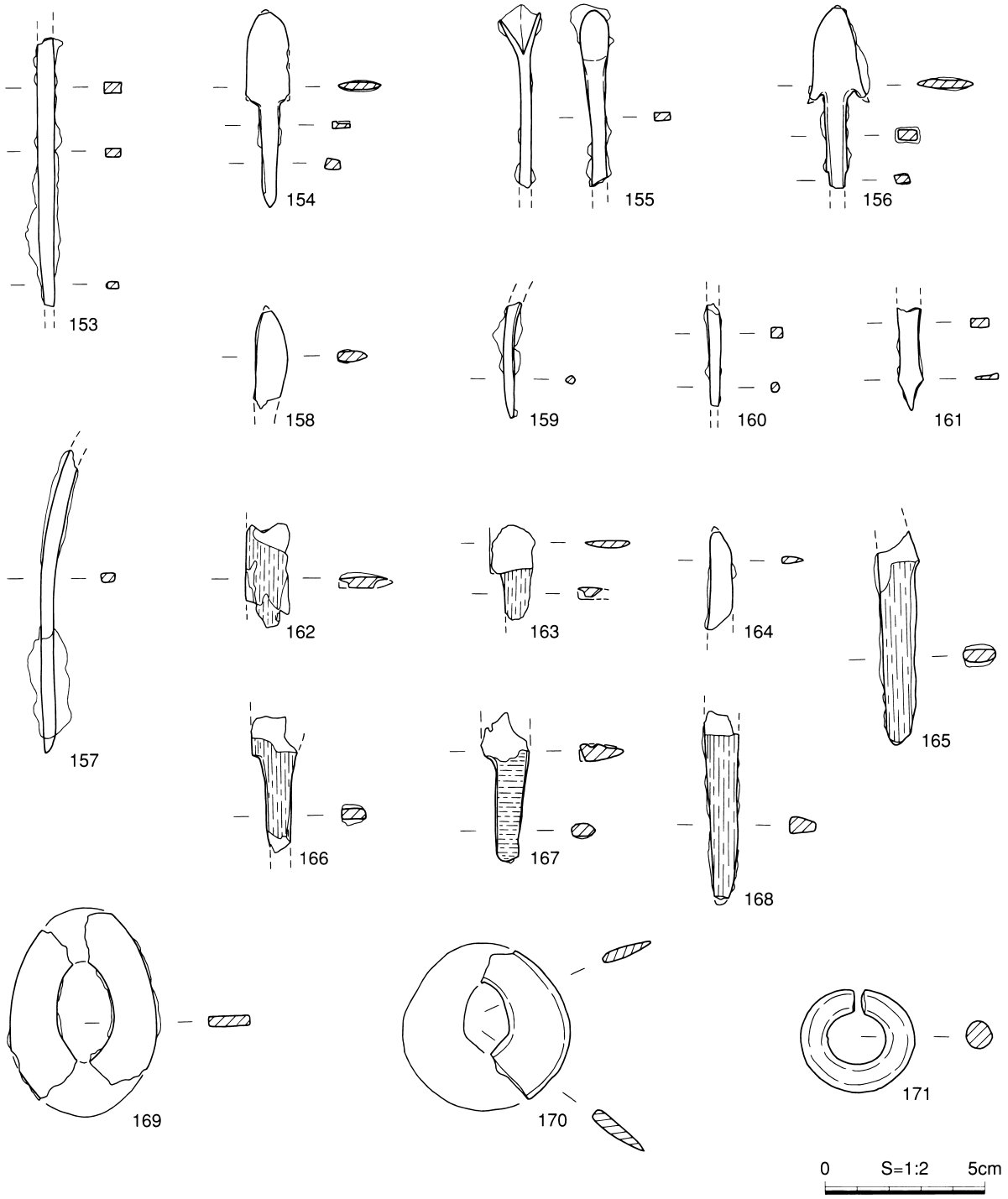


第29図　前山２号古墳石室内出土遺物（1）（須恵器）

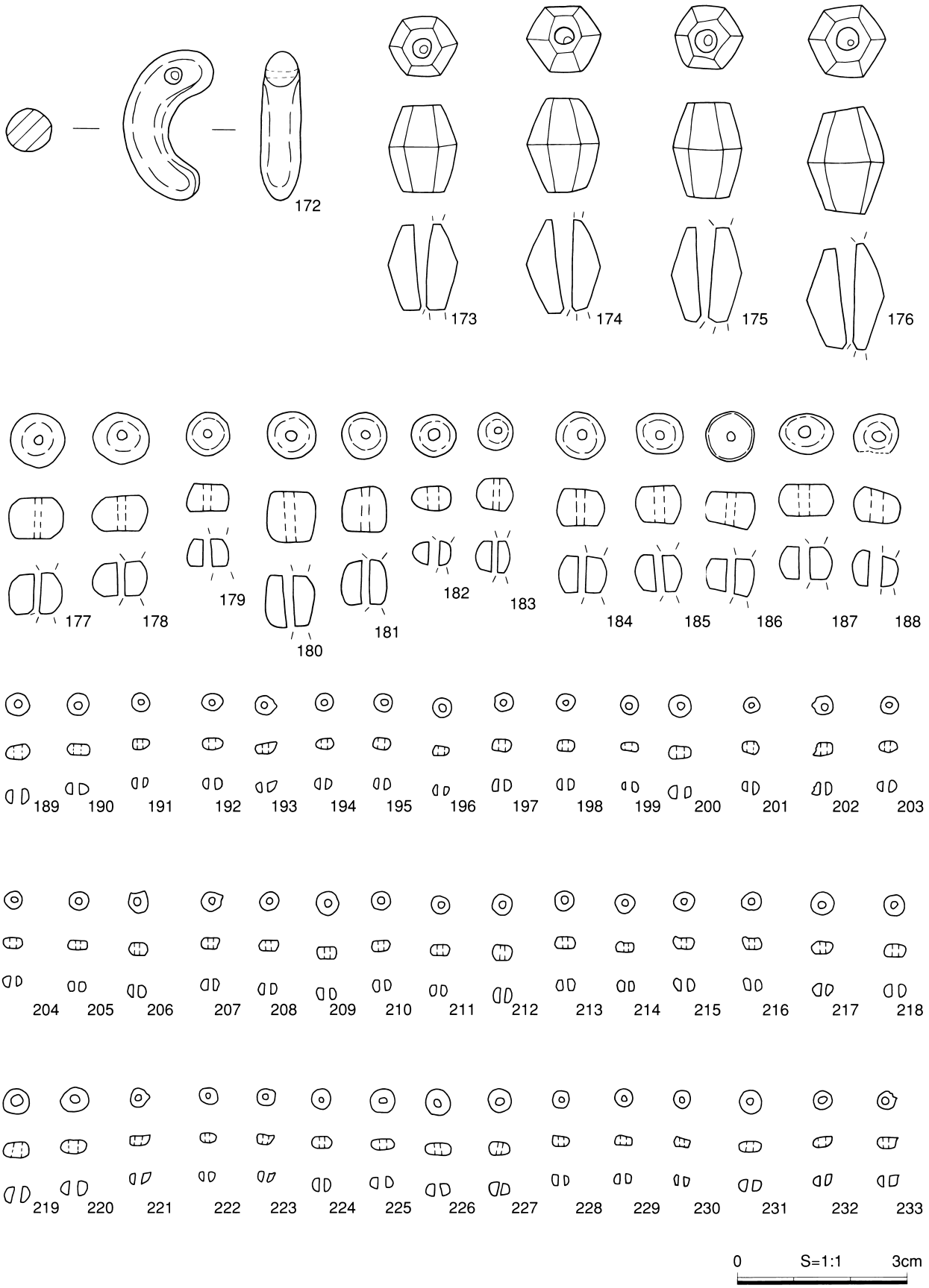
らみ、そこに稜が巡る。実測図上方から下方へ穿孔されるが、最後に下方から穿孔して端部の破損を防いでいる。臼玉（177～188）は12点出土している。いずれもガラス製で、色調はほとんどが濃紺であるが、（188）は青色である。無色透明である。小玉（189～320）は131点出土している。ほとんどはガラス製であるが、（320）のみ凝灰岩製である。色調はガラス製（189～319）には青色と水色のものがある。（320）は褐色を呈する。

古代～近世陶器（321～339）　石室内からは後世の混入と思われる古代から近世にかけての陶磁器類が多数出土している。図示し得たもので18点である。中世の遺物は山茶碗（321～325）が、近世の遺物は小碗（326）、碗（327,328）、皿（329～331）、天目茶碗（332,333）、壺（334）、甕（335,338）、折縁皿（336）、片口鉢（337）、練鉢（339）が出土している。

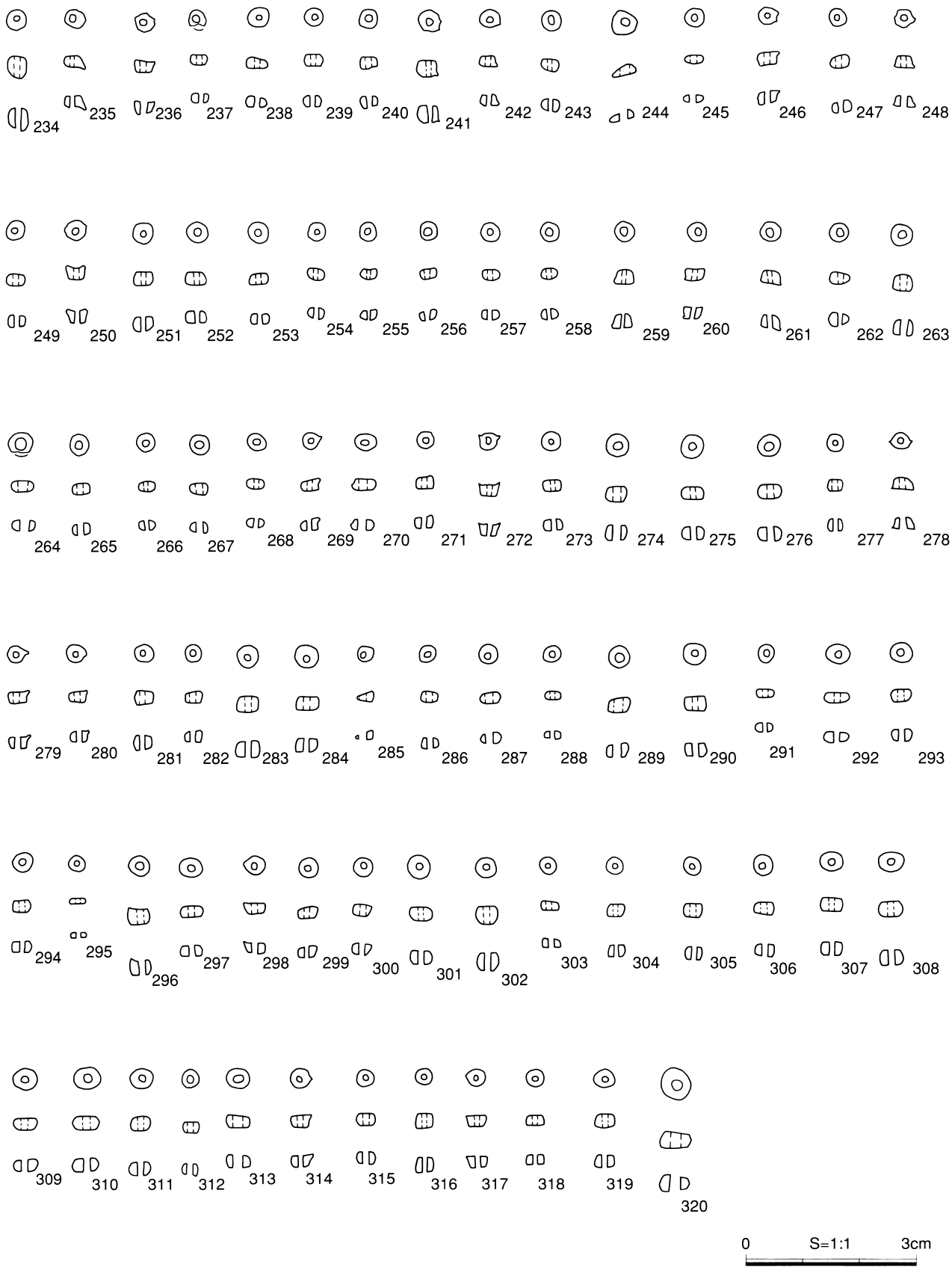
銭貨（340～345）　６枚の古銭が見つかった。６枚とも種別が判明した。いずれも宋銭で、元豊通寶（340）、天聖元寶（341）、皇宋通寶（342,343）、嘉祐通寶（344）、元祐通寶（345）である。



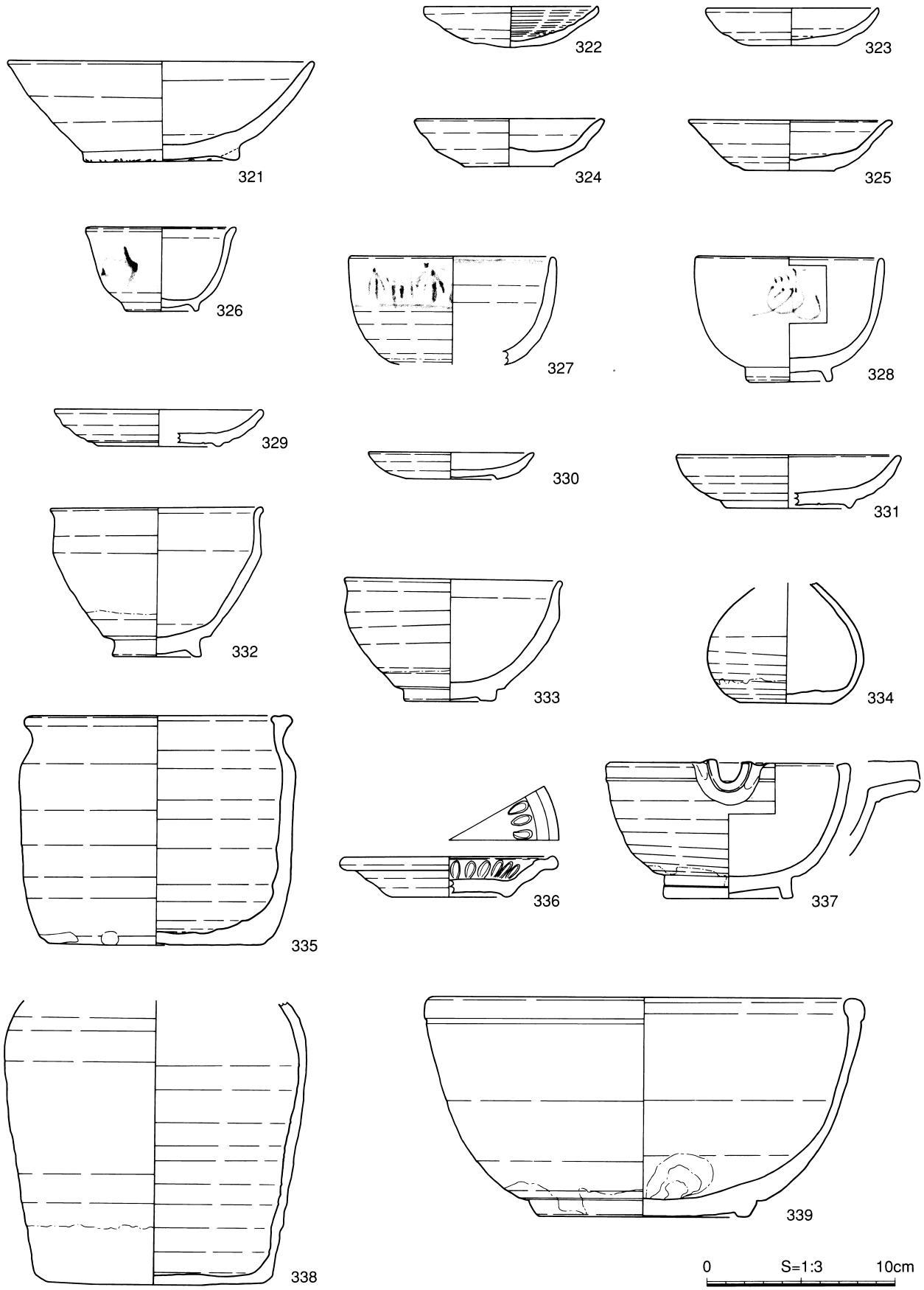
第30図　前山２号古墳石室内出土遺物（2）（金属製品）



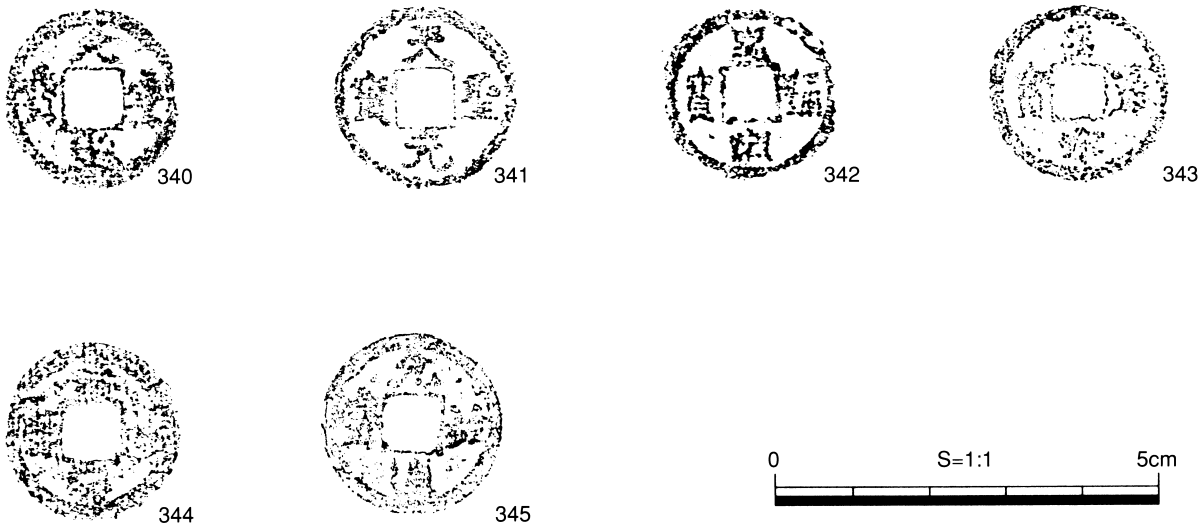
第31図　前山２号古墳石室内出土遺物（3）（玉類１）



第32図　前山２号古墳石室内出土遺物（4）（玉類２）



第33図　前山２号古墳石室内出土遺物（5）（中近世陶磁器）



第34図　前山 2 号古墳石室内出土遺物（6）（銭貨）

第４章　まとめ

第１節　石室に使用されている石材について

３基の古墳が存在する柿田の南の山地周辺は、美濃帯堆積岩類・土岐花こう岩類と新第三紀中新世の堆積層（可児層群）によって構成されている。美濃帯堆積岩類は美濃地方に広く分布する堆積岩類であり、チャートなどの堆積岩が砂岩や泥岩などと混在する状況で分布することが多い。土岐花こう岩類は、土岐市を中心に東西約12ｋｍ、南北約14ｋｍのほぼ円形の岩体として分布する花こう岩である。岩質としては、花こう岩だけではなく斑状を示す花こう斑岩もある。また、花こう岩が貫入しているため、その熱によって美濃帯堆積岩類が熱変成し、ホルンフェルスに変化している部分がある。これらの美濃帯堆積岩類と花こう岩類の上に可児層群が堆積している。ただし、可児市に見られる可児層群は、砂岩や泥岩からなり、それほど硬固ではないため、古墳における石室の石材としてはほとんど使用されてはいない。

石室に使用されている石材としては、美濃帯堆積岩類であるチャート・砂岩・礫岩・泥岩、土岐花こう岩である花こう斑岩・花こう岩、熱変成岩であるホルンフェルス、他に濃飛流紋岩類である溶結凝灰岩・石英斑岩、そして安山岩がある。これらの岩石のうち、濃飛流紋岩類、安山岩は、周辺には見られない。現在はダムがあるため、大きな礫は木曽川や飛騨川によって運ばれることがなくなってしまったが、周辺の段丘堆積物を見ると、径が数10cmの礫であれば運ばれている。そのため、溶結凝灰岩の数個を除いては周辺から運ぶことが容易にできたと考える。

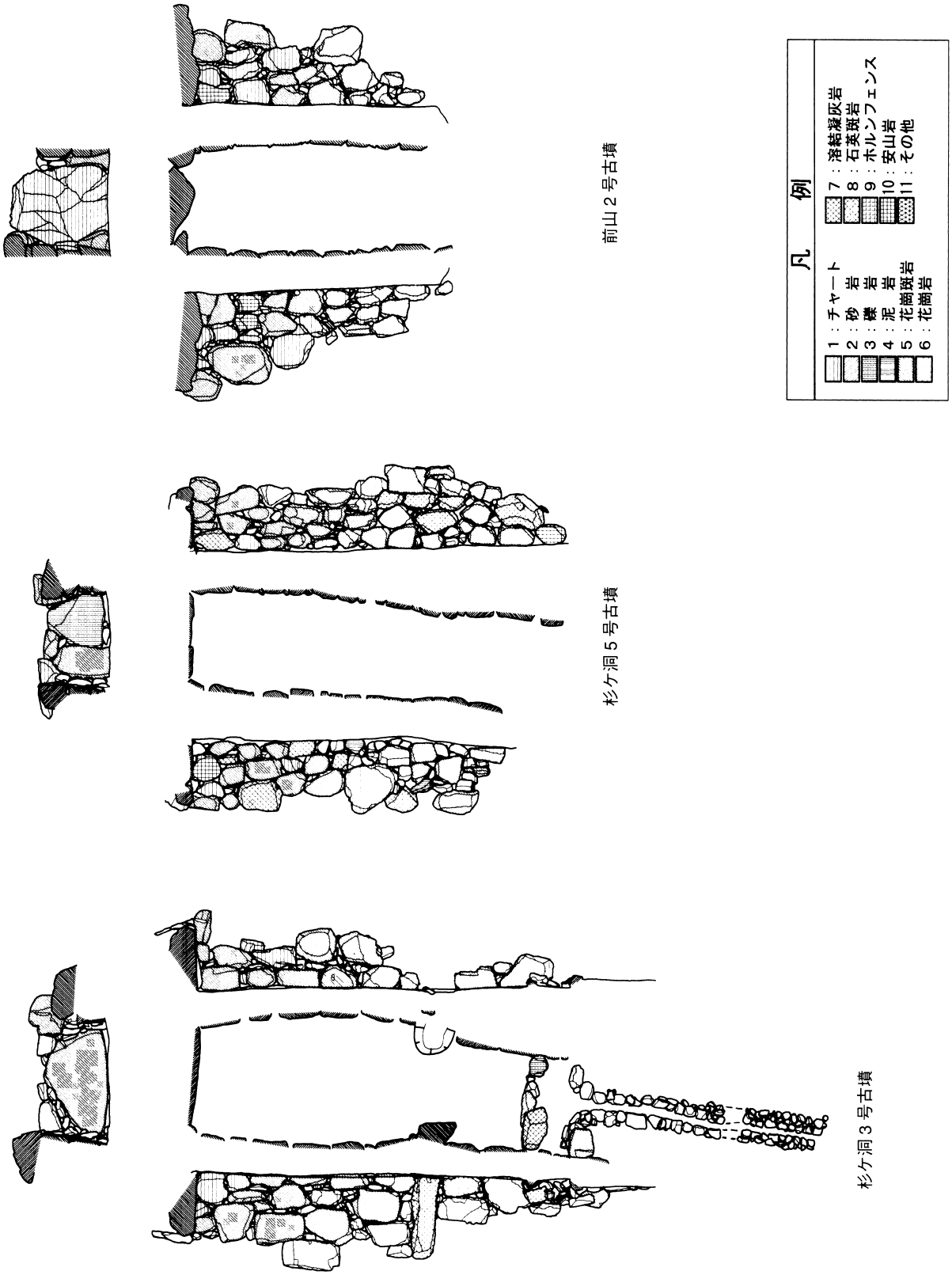
以下に、それぞれの古墳の石材における特徴を述べる。３基の古墳の壁石にはさまざまな大きさのものが使用されているが、運びやすさの観点で平均径が30㎝以上と30㎝以下の石に分けて石材の分類を行った（表2，3）。

杉ヶ洞３号古墳　径30cm以上は、約６割が花こう斑岩と花こう岩で、チャートは約２割を占める。30cm以下の石は、多い順から溶結凝灰岩…約25％、砂岩…約20％、花こう斑岩・花こう岩…約20％、チャート…約15％である。その他（安山岩、ホルンフェルス、石英斑岩、礫岩、泥岩）…約20％であった。

杉ヶ洞５号古墳　径30cm以上は、約６割が花こう斑岩と花こう岩で、チャートと溶結凝灰岩はそれぞれ約1.5割を占める。30cm以下の石は、多い順から花こう斑岩・花こう岩…約40％、溶結凝灰岩…約20％、砂岩…約15％、チャート…約10％である。その他（安山岩、石英斑岩、礫岩、泥岩、石英）…約15％であった。

前山２号古墳　径30cm以上は、ほとんどチャートと花こう斑岩で、ほぼ５割ずつである。安山岩も入るが、１割も入らない。30cm以下の石は、チャート…約70％、花こう斑岩…約５％、安山岩…約15％、その他（泥岩、砂岩、溶結凝灰岩、第三紀層の砂岩）…約10％であった。

30㎝以下の石材においては、近くの谷の礫、および河岸段丘内の礫にここに見られるすべての石材があるため、すべて現地性と考えることは可能である。また、３基の古墳に共通する点は特になく、強いてあげるとすれば２基の杉ヶ洞古墳において、石材の種類がほぼ同じであること、溶結凝灰岩の

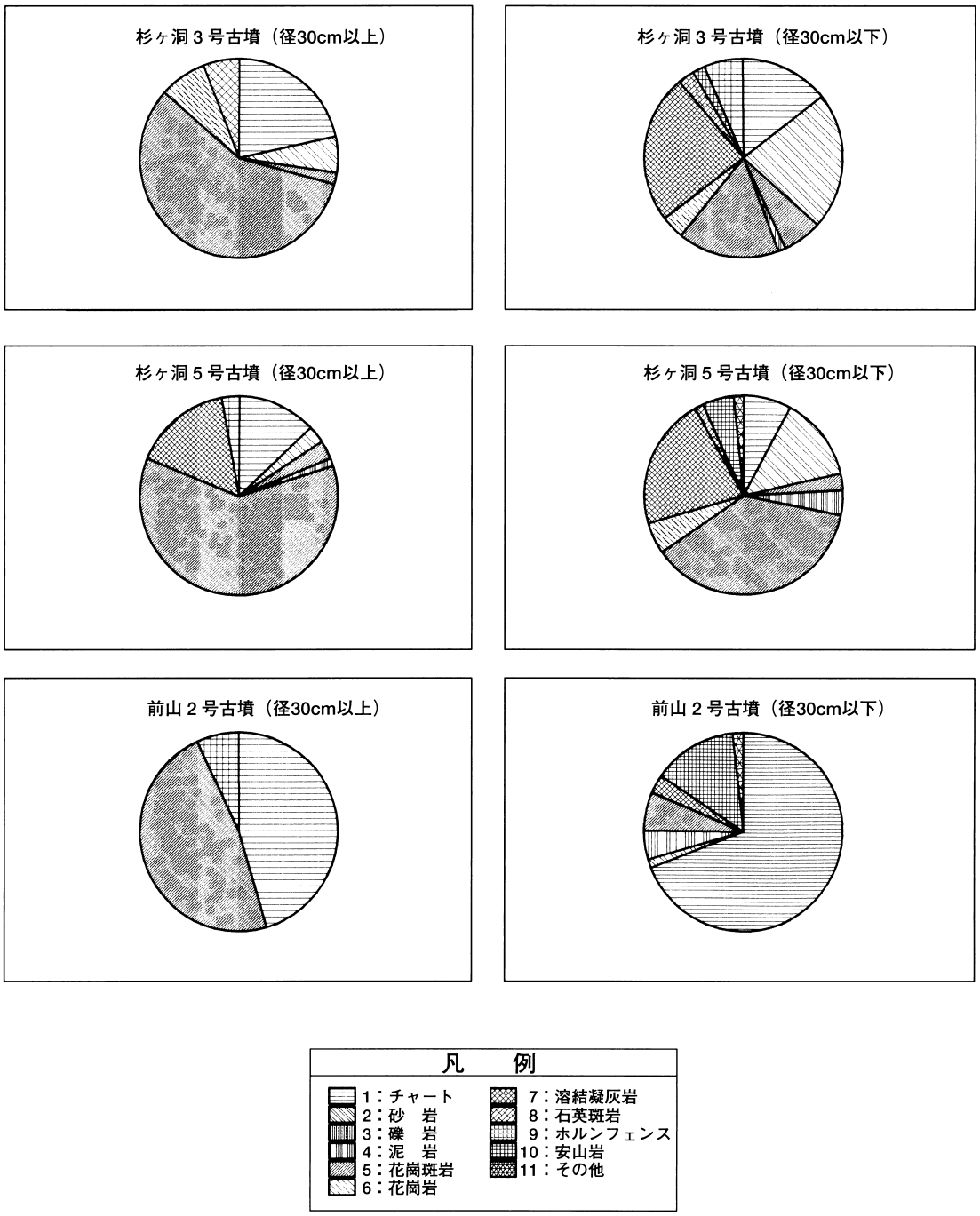


第35図　石室使用の石材

割合が似ていることである。

30㎝以上の石材に３基の古墳ともに共通する点は、花こう斑岩が半分、もしくは半分以上使用していることである。２基の杉ヶ洞古墳ではチャート、花こう斑岩の石材の割合は似ているが、前山古墳は大きく異なっている。また、現地性とは考えにくい径30㎝以上の溶結凝灰岩が、２基の杉ヶ洞古墳には使用されているが、前山古墳には使用されていない。溶結凝灰岩は、杉ヶ洞3号古墳では立柱石に使用されており、また杉ヶ洞5号古墳では径30㎝以上の石の約1/6を占める。杉ヶ洞５号古墳の奥壁をなす長径約１ｍの礫岩については、他に長径が40㎝を超えるものがないことより、現地性でない可能性が高いと考える。

第２表　石室使用石材の分類（グラフ）



第３表　石室使用石材の分類（一覧表）

30ｃｍ径以上

	美濃帯堆積岩類				土岐花こう岩類		濃飛流紋岩類		ホルンフェルス	安山岩
	チャート	砂　岩	礫　岩	泥　岩	花こう斑岩	花こう岩	溶結凝灰岩	石英斑岩		
杉ヶ洞３号古墳	11	3	1		29	4	3			
杉ヶ洞５号古墳	9	2	2	1	42		11			2
前山２号古墳	20				21					3

30ｃｍ径以下

	美濃帯堆積岩類				土岐花こう岩類		濃飛流紋岩類		ホルンフェルス	安山岩	その他
	チャート	砂　岩	礫　岩	泥　岩	花こう斑岩	花こう岩	溶結凝灰岩	石英斑岩			
杉ヶ洞３号古墳	16	24	7	1	18	4	27	3	2	7	
杉ヶ洞５号古墳	6	10	2	3	27	4	16	1		4	1 石英
前山２号古墳	44	1		3	4		2			9	1 第三紀層

第２節　古墳の位置づけ

杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳とも墳丘及び周辺部は後世の削平により、かなり破壊されていたが、墳形はいずれも円墳であることが判明した。外護列石などは確認されなかった。杉ヶ洞３号古墳には羨門付近から排水溝が付属することが判明した。また排水溝が作られる前の段階において、排水溝の下層面は石材搬入用の墓道として機能していた可能性もある。杉ヶ洞３号古墳、前山２号古墳には周溝が付属している。

杉ヶ洞３号古墳の内部主体は擬似両袖式横穴式石室、杉ヶ洞５号古墳は無袖式横穴式石室であることが判明した。前山２号古墳については破壊が激しく内部主体の状況は確認できなかった。３古墳とも石室床面には礫床をもたない。可児市周辺の後期古墳は礫床をもつ古墳がほとんどであるので、杉ヶ洞３・５号古墳、前山２号古墳は他と様相を異にしている。

古墳の年代については、出土した須恵器から判断する。杉ヶ洞３号古墳の須恵器はTK-43およびTK-209に属すると考えられ、６世紀後半から７世紀前半に位置づけられる。杉ヶ洞５号古墳の須恵器はTK-209に属すると考えられ、７世紀前半に位置づけられる。前山２号古墳の須恵器はTK-43およびTK-209に属すると考えられ、６世紀後半から７世紀前半に位置づけられる。

追葬の有無については、３古墳とも後世の攪乱により、出土遺物の原位置が把握できないため確認できなかった。

３基の古墳のうち、杉ヶ洞３号古墳は馬具が出土していることから、被葬者は上位階層に属していたと想定できる（新納1983）。杉ヶ洞古墳群の北側に位置する柿田遺跡では古墳時代の川に護岸施設や堤防・堰を築いていたことが確認されている。杉ヶ洞3号古墳の被葬者は、柿田遺跡と何らかの関わり合いをもっていた可能性がある。

また、杉ヶ洞５号古墳は中世に石室内に中世墓の可能性のある石組み（SX5）がつくられる。SX5より出土した山茶碗は窯洞1号窯式期に属することから、12世紀末に２次的に使用されたと考えられる。また、３古墳とも近世に大量の陶磁器類が石室内に廃棄されたことが確認できた。

参考文献

小野木学他　2000　『顔戸南遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第58集）、（財）岐阜県文化財保護センター。

近藤義郎編　1992　『前方後円墳集成中部編』、山川出版社。

斎藤孝正　1989　「古墳時代の猿投窯」『断夫山古墳とその時代』、東海埋蔵文化財研究会。

上嶋善治　1997　『与島古墳群』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第33集）、（財）岐阜県文化財保護センター。

須川勝以他　1995　『城山』、一宮町教育委員会。

高橋克壽他　1999　『前波の三ツ塚』（可児市埋文報告34）、可児市教育委員会。

田辺昭三　1981　『須恵器大成』、角川書店。

中島勝国　1973　『可児町杉ヶ洞古墳発掘報告書』、岐阜県教育委員会・可児町教育委員会。

成瀬正勝　1985　「横穴式石室の型式と変遷について」『岐阜史学』第79号、岐阜史学会。

新納泉　1983　「装飾付大刀と古墳時代後期の兵制」『考古学研究』30巻3号、考古学研究会。

西村勝広　2001　『北山古墳群発掘調査報告書』（各務原市文化財調査報告書第33号）、各務原市埋蔵文化財調査センター。

早野壽人他　2003　『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第78集）、（財）岐阜県文化財保護センター。

兵庫埋蔵銭調査会編　1996　『日本出土銭総覧』、兵庫埋蔵銭調査会。

第４表―１　遺物観察表（杉ヶ洞３号古墳・土器）

番号	種　別	器　種	遺　構	法　量（cm）			残存率 /12	調整・成形
				口径	底径	器高		
1	須恵器	坏蓋	石室 B	(11.0)		4.1	3	回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
2	須恵器	坏蓋	石室 C	10.6		3.6	9	回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
3	須恵器	坏蓋	石室 CD	11.0		4.0	10	回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
4	須恵器	坏蓋	石室 C	11.6			8.5	回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
5	須恵器	坏身	石室 C・周溝	(8.9)		4.1	1	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
6	須恵器	坏身	石室 AD	9.7		4.0	3.5	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
7	須恵器	坏身	石室 BC	(10.0)			1.5	回転ナデ。
8	須恵器	坏身	石室 AD	(9.8)			2.5	回転ナデ。
9	須恵器	坏身	石室 AB	11.0		4.6	8.5	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
10	須恵器	蓋	石室 CD	(10.4)			5	回転ナデ、クシ刺突文。
11	須恵器	壺	石室 AB	(9.5)	14.6	4.8	1	体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
12	須恵器	短頸壺	石室 D	7.5	8.4		8	体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
13	須恵器	短頸壺	周溝	(10.0)			1	回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
14	須恵器	短頸壺	石室 C	(8.1)			1	
15	須恵器	高坏	周溝	(12.0)	(2.9)		2.5	
16	須恵器	高坏	石室 A	10.0		(4.7)	9	回転ナデ、クシ刺突文。
17	須恵器	高坏	周溝		(7.5)	(6.8)		回転ナデ。
18	須恵器	高坏	石室 D		(9.8)	(3.5)		回転ナデ。
19	須恵器	壺	石室 ACD		(9.8)			
94	灰釉陶器	碗	石室 C		6.6	2.9		回転ナデ。
95	灰釉陶器	碗	石室 C	17.5	8.4	6.7	7	内外面、上半部灰釉。
96	須恵器	円面硯	石室 AD	(26.0)			1	
97	山茶碗	皿	石室入口	8.4	5.2	1.6	12	回転ナデ、北部系。
98	山茶碗	皿	石室入口	8.0	4.6	1.75	12	回転ナデ、北部系。
99	山茶碗	皿	石室 C	(7.8)	4.2	1.7	8	回転ナデ、北部系。
100	山茶碗	碗	石室 C	(13.8)	4.6	5.2	6	回転ナデ。北部系。
101	近世陶器	鉢	石室 BC	12.7	9.1	7.3	6	内面灰釉、外面鉄釉。
102	近世陶器	こね鉢	石室 AB	19.8	11.3	13.3	11.5	内外面灰釉。
103	近世陶器	片口鉢	石室 BC	(20.5)	10.5	11.6	9	
104	近世陶器	片口鉢	石室 A	(20.0)	10.2	13.8	6	内外面に灰釉。
105	近世陶器	片口鉢	石室 AB	18.0	11.3	13.1	12	口縁部内面外面に灰釉。
106	近世陶器	柳茶碗	石室 C	11.4	4.6	5.9	10	内外面に灰釉。外面に柳の鉄絵。
107	近世陶器	碗	石室 D	(12.0)	5.0	6.1	3	内外面に灰釉。
108	近世陶器	碗	石室 D	(11.6)	4.8	6.1	3	内面灰釉、外面鉄釉に灰釉流しかけ。
109	近世陶器	広東茶碗	石室 B	(11.2)	5.7	5.8	2	呉須絵、灰釉。
110	近世陶器	土鍋	石室入口	(17.2)	(9.6)		6	内外面鉄釉、外面に炭化物付着。
111	近世陶器	片口鉢	石室 ABC	(16.0)	8.0	7.3	3.5	
112	白磁	端反碗	石室 A	(14.5)	6.3	8.4	2.5	内外面に白磁釉（白色）。
113	近世陶器	火鉢	石室 AB	(16.0)	12.2	13.6	6	

第４表―２　遺物観察表（杉ヶ洞３号古墳・金属製品）

番号	種　別	遺　構	法量（cm）					重量（g）	備　考
			全　長	刃　部		茎　部			
				長　さ	最大幅	長　さ	最大幅		
30	鞍		3.4	0.4	3.4			6	馬具
31	鎹	石室 A	(1.8)					1	刀装具
32	不明鉄製品	石室 D	(2.5)					1	
33	耳環	石室 D	2.5					15	金環 or 銀環
34	耳環		2.6					14	金環 or 銀環
35	耳環	石室 C	2.3					12	金環
36	耳環		2.0					7	金環
37	鉄鏃	石室 A	12.8	1.5	0.95	11.3	0.5	9	細身式
38	鉄鏃	石室 A	(11.3)	2.1	0.9	(9.2)	5.0	9	細身式
40	鉄鏃	石室 A	(10.95)	2.45	1.3	(8.5)	0.4	7	細身式
41	鉄鏃	石室 A	(11.1)			(11.1)	0.5	6	細身式
42	鉄鏃	石室 B	(12.6)			(12.6)	0.6	7	細身式
43	鉄鏃	石室 A	(10.0)			(10.0)	0.45	7	細身式
44	鉄鏃	石室 D	(5.95)			(5.95)	0.45	3	細身式
45	鉄鏃	石室 D	(4.6)			(4.6)	0.5	1	細身式
46	鉄鏃	石室 A	(2.7)			(2.7)	0.3	1未満	細身式
47	鉄鏃	石室 D	(2.3)			(2.3)	0.5	1未満	細身式

第４表―２　遺物観察表（杉ヶ洞３号古墳・金属製品）（つづき）

番号	種別	遺構	法量（cm）					重量（g）	備考
			全長	刃部		茎部			
				長さ	最大幅	長さ	最大幅		
48	鉄鏃	石室A	(2.4)			(2.4)	0.4	1未満	細身式
49	鉄鏃	石室D	(5.6)			(5.6)	0.5	1	細身式
50	鉄鏃	石室B	(5.6)	(1.9)	0.9	(3.7)	0.3	2	細身式
51	鉄鏃	石室C	(1.85)			(1.85)	0.4	1未満	細身式
52	鉄鏃	石室D	(3.5)			(3.5)	0.55	2	細身式
53	鉄鏃	石室B	(2.8)			(2.8)	0.3	1	細身式
54	鉄鏃	石室D	(3.6)			(3.6)	0.5	1	細身式
55	鉄鏃	石室A	(3.05)			(3.05)	0.4	1	細身式
56	鉄鏃	石室C	(1.0)			(1.0)	0.5	1未満	細身式
57	鉄鏃	石室D	(2.7)			(2.7)	0.6	1	細身式
58	鉄鏃	石室A	(3.2)			(3.2)	0.65	1	細身式
59	鉄鏃	石室D	(3.5)			(3.5)	0.4	1	細身式
60	鉄鏃	石室A	(2.1)			(2.1)	0.35	1	細身式
61	鉄鏃	石室B	(2.8)			(2.8)	0.6	1	細身式
62	鉄鏃	石室A	(1.1)			(1.1)	0.3	1未満	細身式
63	鉄鏃	石室D	(0.9)			(0.9)	0.5	1未満	細身式
64	鉄鏃	石室C	(7.95)	3.95	3.1	(4.0)	0.7	7	広身式
65	鉄鏃	石室C	(6.1)	3.4	2.9	(2.7)	0.6	5	広身式
66	鉄鏃	石室B	(2.3)	(2.3)	2.4			4	広身式
67	鉄鏃	石室A	(1.9)	(1.9)	(1.8)			4	広身式
68	鉄鏃	石室B	(1.3)	(1.3)	0.9			1	細身式
69	鉄鏃	石室D	(3.1)			(3.1)	0.65	2	細身式
70	鉄鏃	石室B	(3.9)	2.1	1.0	(1.8)	0.5	1	細身式
71	鉄鏃	石室A	(3.6)	2.6	1.0	(1.0)	0.65	2	細身式
72	鉄鏃	石室A	(4.0)	2.2	1.0	(1.8)	0.5	2	細身式
73	鉄鏃	石室A	(5.4)	3.0	1.0	(2.4)	0.5	5	細身式
74	刀子	石室B	(7.9)	(3.8)	1.15	(4.0)	1.3	8	
75	刀子	石室D	(8.45)	(8.45)	1.45			11	
76	刀子	石室C	(7.1)	(1.8)	1.2	(5.3)	0.8	8	
77	刀子	石室D	(6.2)	(6.2)	1.0			5	
78	刀子	石室A	(4.6)	(2.0)	(1.3)	(2.6)	0.9	5	
79	刀子	石室D	(5.5)	(4.4)	(2.2)	(1.1)	(7.5)	7	
80	刀子	石室C	(4.65)	(0.65)	(1.4)	(4.0)		7	
81	刀子	石室A	(4.2)	(4.2)	(1.2)			5	
82	刀子	石室D	(4.5)	(4.5)	0.9			5	
83	刀子	石室B	(4.0)	(4.0)	1.3			4	
84	刀子	石室D	(6.4)	(1.8)	1.0	(4.6)	0.9	9	
85	刀子	石室D	(2.0)	(2.0)	0.8			1	
86	刀子	石室D	(2.7)	(2.7)	1.2			2	
87	刀子	石室A	(3.2)	(3.2)	0.8			2	
88	刀子	石室B	(4.0)	(4.0)	0.7			3	
89	刀子	石室D	(3.2)			(3.2)	0.8	3	
90	刀子	石室A	(3.2)	(3.2)	1.3			2	
91	刀子	石室A	(1.95)	(1.95)	1.0			1未満	
92	刀子	石室B	(2.1)	(2.1)	(1.1)			1	
93	刀子	石室D	(2.95)			(2.95)	0.8	3	

第４表―３　遺物観察表（杉ヶ洞３号古墳・玉類）

番号	種別	遺構	法量（cm）				重量（g）	色	材質
			直径	厚さ	孔径	厚さ/直径			
20	管玉	石室C	1.0	0.8	0.2	0.8	1	淡青灰色	滑石
21	管玉	石室D	1.05	0.7	0.25	0.7	1未満	淡緑灰色	滑石
22	管玉	石室D	1.05	0.5	0.25	0.5	1未満	淡緑灰色	滑石
23	管玉	石室B	0.45	0.35	0.1	0.8	1未満	褐色	不明
24	臼玉	石室B	0.5	0.45	0.1	0.9	1未満	褐色	滑石
25	小玉	石室B	0.5	0.4	0.2	0.8	1未満	青	ガラス
26	小玉	石室A	0.5	0.3	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
27	小玉	石室B	0.55	0.4	0.1	0.7	1未満	緑	ガラス
28	小玉	石室B	0.55	0.3	0.2	0.5	1未満	青	ガラス
29	小玉	石室B	0.6	0.35	0.1	0.6	1未満	青	ガラス

第４表―4　遺物観察表（杉ヶ洞５号古墳・土器）

番号	種別	器種	遺構	法量（cm）			残存率 /12	調整・成形
				口径	底径	器高		
114	須恵器	短頸壺	石室 B					回転ナデ。
115	須恵器	壺	石室 C	(9.0)			3.5	回転ナデ。
116	須恵器	短頸壺	石室 B	9.4			12	回転ナデ。
117	須恵器	壺	石室 A	(6.6)			2.5	回転ナデ。
118	須恵器	高坏	石室		(6.0)			回転ナデ。
119	須恵器	高坏	石室		(5.8)			回転ナデ。
120	須恵器	高坏	石室 B		5.6	(2.4)		回転ナデ。
121	須恵器	坏蓋	石室 AC	9.6		3.65	8	口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
122	須恵器	坏蓋	石室 C	(11.4)			1.5	口縁部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
132	山茶碗	皿	石室	8.3	4.6	2.1	12	回転ナデ、北部系。
133	山茶碗	皿	石室 C	7.9	4.3	1.8	12	回転ナデ、北部系。
134	山茶碗	碗	石室 C		(6.0)			回転ナデ、北部系。
135	近世陶器	香炉	石室	8.1	5.5	4.6	12	体部外面に灰釉。
136	灰釉陶器	壺	石室	5.2			8.9	回転ナデ。

第４表―5　遺物観察表（杉ヶ洞５号古墳・金属製品）

番号	種別	遺構	法量（cm）					重量（g）	備考
			全長	刃部		茎部			
				長さ	最大幅	長さ	最大幅		
123	鉄鏃	石室 A	16.9	2.4	0.8	14.5	0.5	9	細身式
124	鉄鏃	石室 D	(11.7)	2.5	1.4	(9.2)	0.6	8	細身式
125	鉄鏃	石室 D	(4.9)	(0.3)	0.7	(4.6)	0.5	3	細身式
126	鉄鏃	石室 B	(5.6)	(5.6)	2.1			7	広身式
127	小刀	石室 A	(9.0)	(3.9)	(2.1)	(5.1)	1.3	21	刀子
128	刀子	石室 B	(11.6)	7.4	1.4	(4.2)	9.5	12	刀子
129	小刀	石室 A	(15.5)	(15.5)	1.5			21	刀子
130	刀子	石室 A	(7.2)	(1.5)		5.7	1.2	9	刀子
131	耳環	石室 C	2.15	2.3	0.65	0.45		8	金環
137	耳環	周溝外側	2.4	2.7	0.35	0.35		4	銅環

第４表―6　遺物観察表（古墳外・金属製品）

番号	種別	遺構	法量（cm）					重量（g）	備考
			全長	刃部		茎部			
				長さ	最大幅	長さ	最大幅		
137	耳環	―	2.4	2.7	0.35	0.35		4	銅環

第４表―7　遺物観察表（古墳外・銭貨）

番号	銭貨名	書体	国・王朝	初鋳年	遺構	法量（cm）			重量（g）	材質
						外径	内径	孔径		
138	天聖元寶	真書	北宋	1023	SX4	2.45	2.05	0.75	(3)	銅
139	至道元寶	行書	北宋	995	SX4	2.45	1.7	0.65	2	銅
140	天禧通寶		北宋	1017	SX4	2.55	2.15	0.7	3	銅
141	皇宋通寶	真書	北宋	1038	SX4	2.5	1.95	0.75	(2)	銅
142	祥符通寶		北宋	1009	SX4	2.5	1.8	0.65	(2)	銅

第４表―8　遺物観察表（前山２号古墳・土器）

番号	種別	器種	遺構	法量（cm）			残存率 /12	調整・成形
				口径	底径	器高		
143	須恵器	坏蓋	石室 BCD	13.0		4.5	10	回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
144	須恵器	坏蓋	石室 C	10.6		3.7	12	回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ。
145	須恵器	坏身	石室 D	9.1		3.5	12	回転ナデ、底部ヘラケズリ。
146	須恵器	坏身	石室 D	10.0		3.5	10	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
147	須恵器	坏身	石室 D	10.1		4.3	11	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
148	須恵器	坏身	石室 C	9.1		3.7	12	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
149	須恵器	坏身	石室 A	(12.2)			3	回転ナデ。
150	須恵器	高坏	石室 D	(11.6)	9.6	9.3	3.5	回転ナデ。
151	須恵器	壺	石室 D	8.6		13.5	8	回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。
152	土師器	皿	墳丘一括	(9.85)	(6.55)	(2.25)	5.5	回転ナデ。

第４表－８　遺物観察表（前山２号古墳・土器）（つづき）

番号	種　別	器　種	遺　構	法　量（cm）			残存率 /12	調整・成形
				口　径	底　径	器　高		
321	山茶碗	碗	石室 C	16.3	7.9	5.4	11	回転ナデ、北部系。
322	山茶碗	碗	墳丘一括	9.3	2.3	3.8	12	回転ナデ、北部系。
323	山茶碗	皿	石室 D	9.2	4.4	2.0	10	回転ナデ、北部系。
324	山茶碗	皿	墳丘外攪乱	9.75	4.8	2.6	8	回転ナデ、北部系。
325	山茶碗	皿	石室 CD	10.8	4.8	2.7	8	回転ナデ、北部系。
326	近世陶磁器	小碗	石室入口C、石室D一括	7.9	4.0	4.5	12	灰釉系、呉須絵。
327	近世陶磁器	碗	墳丘外攪乱	(10.4)			4	鉄絵、長石釉。
328	近世陶磁器	碗	石室 C	9.8	4.5	6.7	9.5	灰釉系、呉須絵。
329	近世陶磁器	皿	墳丘一括	(11.2)	(6.6)	2.0	5	灰釉系。
330	近世陶磁器	皿	石室 D	9.0	4.8	1.4	11.8	灰釉系、碁笥底。
331	近世陶磁器	皿	墳丘外攪乱	(11.8)	(6.6)	2.85	5.5	白濁する光沢のない釉。
332	近世陶磁器	天目茶碗	石室 B	11.2	4.8	8.0	10	鉄釉、国産。
333	近世陶磁器	天目茶碗	墳丘一括	11.4	4.9	6.6	6.5	鉄釉、国産。
334	近世陶磁器	壺	墳丘一括		4.9			鉄釉系。
335	近世陶磁器	甕	墳丘一括	14.4	11.6	12.2	8	全面サビ釉。
336	近世陶磁器	折縁皿	墳丘一括	(11.4)	(3.0)	2.15	4	灰釉系。
337	近世陶磁器	片口鉢	石室 B	12.4	6.9	7.3	7	黄釉。
338	近世陶磁器	甕	石室 C		11.6	(15.3)		外面鉄釉系柿釉、内面鉄釉系サビ釉。
339	近世陶磁器	練鉢	石室 A	23.6	11.0	11.8	12	灰釉系。

第４表－９　遺物観察表（前山２号古墳・金属製品）

番号	種　別	遺　構	法　量（cm）					重量（g）	備　考
			全　長	刃　部		茎　部			
				長　さ	最大幅	長　さ	最大幅		
153	鉄鏃	石室 A	(8.4)			(8.4)	0.5	4	細身式
154	鉄鏃	石室 B	(6.1)	(2.9)	1.4	(3.2)	0.6	4	細身式
155	鉄鏃	石室 C	(5.5)	1.6	0.9	(3.9)	0.6	4	細身式
156	鉄鏃	石室 A	(5.65)	(2.8)	1.8	(2.85)	0.65	4	細身式
157	鉄鏃	石室 A	(9.5)			(9.5)	0.5	11	細身式
158	鉄鏃	石室 C	(3.0)	(3.0)	(1.0)			1	細身式
159	鉄鏃	石室 A	(3.6)			(3.6)	4.0	1	細身式
160	鉄鏃	石室 D	(3.2)			(3.2)	0.3	1	細身式
161	不明鉄製品	石室 D	(3.2)			(3.2)	0.8	1	
162	刀子	石室 B	(3.3)	(3.3)	(1.4)			4	
163	刀子	石室 C	(3.0)	(1.4)	(1.3)	(1.6)	0.9	2	
164	刀子	石室 A	(3.1)	(3.1)	0.7			1	
165	刀子	石室 A	(6.7)	(0.95)	1.25	5.75	0.8	8	
166	刀子	石室 B	(4.3)	(1.3)	(1.4)	(3.0)	1.1	5	
167	刀子	石室 D	(4.7)	(1.4)	(1.4)	(3.3)	(0.8)	5	
168	刀子	石室 C	(6.0)			(6.0)	1.0	7	
169	鍔	石室 AB	6.5	4.6				14	刀装具
170	鍔	石室 C	(4.7)		1.95			8	刀装具
171	耳環	石室 B	3.2	3.5	0.9	0.85		32	金環

第４表－10　遺物観察表（前山２号古墳・玉類）

番号	種　別	遺　構	法　量（cm）				重量（g）	色	材　質
			直　径	厚　さ	孔径	厚さ/直径			
172	勾玉	石室 B	2.15	0.9	0.15	0.4	4	淡橙色	瑪瑙
173	切子玉	石室 C	1.55	1.2	0.35	0.8	3	無色透明	水晶
174	切子玉	石室 C	1.7	1.25	0.4	0.7	3	無色透明	水晶
175	切子玉	石室 A	1.7	1.2	0.3	0.7	3	無色透明	水晶
176	切子玉	石室 A	1.9	1.35	0.4	0.7	4	無色透明	水晶
177	臼玉	石室 A	0.95	0.75	0.1	0.8	1	濃紺	ガラス
178	臼玉	石室 B	1.0	0.7	0.2	0.7	1	濃紺	ガラス
179	臼玉	石室 A	0.75	0.5	0.15	0.7	1未満	濃紺	ガラス
180	臼玉	石室 B	0.8	0.9	0.2	1.1	1未満	濃紺	ガラス
181	臼玉	石室 A	0.8	0.8	0.15	1.0	1未満	濃紺	ガラス
182	臼玉	石室 A	0.8	0.5	0.2	0.6	1未満	濃紺	ガラス
183	臼玉	石室 D	0.63	0.55	0.1	0.9	1未満	濃紺	ガラス

第４表－10　遺物観察表（前山２号古墳・玉類）（つづき）

番号	種　別	遺　構	法　量（cm）				重量（g）	色	材　質
			直　径	厚　さ	孔径	厚さ/直径			
184	臼玉	石室 B	0.85	0.65	0.15	0.8	1未満	濃紺	ガラス
185	臼玉	石室 B	0.8	0.65	0.15	0.8	1未満	濃紺	ガラス
186	臼玉	石室 A	0.85	0.65	0.1	0.8	1未満	濃紺	ガラス
187	臼玉	石室 B	0.9	0.55	0.2	0.6	1未満	濃紺	ガラス
188	臼玉	石室 A	0.8	0.65	0.2	0.8	1未満	青	ガラス
189	小玉	石室 B	0.43	0.3	0.15	0.7	1未満	水色	ガラス
190	小玉	石室 B	0.4	0.2	0.15	0.5	1未満	青	ガラス
191	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
192	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
193	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
194	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
195	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
196	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
197	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
198	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
199	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
200	小玉	石室 B	0.4	0.25	0.15	0.6	1未満	水色	ガラス
201	小玉	石室 B	0.3	0.22	0.11	0.7	1未満	青	ガラス
202	小玉	石室 B	0.35	0.23	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
203	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
204	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
205	小玉	石室 A	0.3	0.15	0.1	0.5	1未満	青	ガラス
206	小玉	石室 A	0.32	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
207	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
208	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
209	小玉	石室 A	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
210	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
211	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
212	小玉	石室 A	0.35	0.27	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
213	小玉	石室 A	0.32	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
214	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
215	小玉	石室 A	0.35	0.25	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
216	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
217	小玉	石室 A	0.4	0.23	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
218	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
219	小玉	石室 A	0.45	0.3	0.2	0.7	1未満	水色	ガラス
220	小玉	石室 C	0.5	0.25	0.15	0.5	1未満	水色	ガラス
221	小玉	石室 C	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
222	小玉	石室 C	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
223	小玉	石室 C	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
224	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
225	小玉	石室 A	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
226	小玉	石室 A	0.45	0.2	0.1	0.4	1未満	水色	ガラス
227	小玉	石室 A	0.4	0.25	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
228	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
229	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
230	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
231	小玉	石室 B	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
232	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
233	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
234	小玉	石室 B	0.35	0.4	0.1	1.1	1未満	水色	ガラス
235	小玉	石室 B	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	青	ガラス
236	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
237	小玉	石室 C	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
238	小玉	石室 A	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
239	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
240	小玉	石室 A	0.3	0.21	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
241	小玉	石室 A	0.4	0.3	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
242	小玉	石室 A	0.32	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
243	小玉	石室 A	0.35	0.25	0.1	0.7	1未満	青	ガラス

第４表－10　遺物観察表（前山２号古墳・玉類）（つづき）

番号	種　別	遺　構	法　量（cm）				重量（g）	色	材　質
			直　径	厚　さ	孔径	厚さ/直径			
244	小玉	石室 A	0.45	0.2	0.15	0.4	1未満	水色	ガラス
245	小玉	石室 A	0.35	0.15	0.1	0.4	1未満	水色	ガラス
246	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
247	小玉	石室 A	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
248	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
249	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
250	小玉	石室 A	0.35	0.25	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
251	小玉	石室 A	0.35	0.25	0.1	0.7	1未満	水色	ガラス
252	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
253	小玉	石室 A	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
254	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
255	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
256	小玉	石室 B	0.3	0.22	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
257	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
258	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
259	小玉	石室 B	0.35	0.35	0.1	1.0	1未満	青	ガラス
260	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
261	小玉	石室 B	0.4	0.25	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
262	小玉	石室 B	0.4	0.25	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
263	小玉	石室 B	0.35	0.3	0.15	0.9	1未満	青	ガラス
264	小玉	石室 B	0.45	0.2	0.15	0.4	1未満	水色	ガラス
265	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
266	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
267	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.15	0.6	1未満	青	ガラス
268	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	水色	ガラス
269	小玉	石室 D	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
270	小玉	石室 D	0.4	0.2	0.15	0.5	1未満	水色	ガラス
271	小玉	石室 D	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
272	小玉	石室 B	0.4	0.25	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
273	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
274	小玉	石室 B	0.4	0.2	0.2	0.5	1未満	水色	ガラス
275	小玉	石室 B	0.4	0.2	0.15	0.5	1未満	水色	ガラス
276	小玉	石室 B	0.4	0.25	0.15	0.6	1未満	水色	ガラス
277	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
278	小玉	石室 B	0.4	0.3	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
279	小玉	石室 D	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
280	小玉	石室 C	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
281	小玉	石室 C	0.35	0.25	0.1	0.7	1未満	水色	ガラス
282	小玉	石室 C	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
283	小玉	石室 C	0.4	0.3	0.1	0.8	1未満	水色	ガラス
284	小玉	石室 C	0.33	0.23	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
285	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
286	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
287	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
288	小玉	石室 B	0.3	0.15	0.1	0.5	1未満	青	ガラス
289	小玉	石室 B	0.35	0.3	0.15	0.9	1未満	水色	ガラス
290	小玉	石室 D	0.4	0.25	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
291	小玉	石室 B	0.3	0.15	0.1	0.5	1未満	青	ガラス
292	小玉	石室 B	0.4	0.18	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
293	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
294	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
295	小玉	石室 B	0.25	0.1	0.1	0.4	1未満	青	ガラス
296	小玉	石室 B	0.38	0.3	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
297	小玉	石室 B	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	青	ガラス
298	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
299	小玉	石室 A	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
300	小玉	石室 A	0.34	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
301	小玉	石室 A	0.4	0.25	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
302	小玉	石室 A	0.4	0.3	0.1	0.8	1未満	水色	ガラス
303	小玉	石室 A	0.3	0.15	0.1	0.5	1未満	青	ガラス

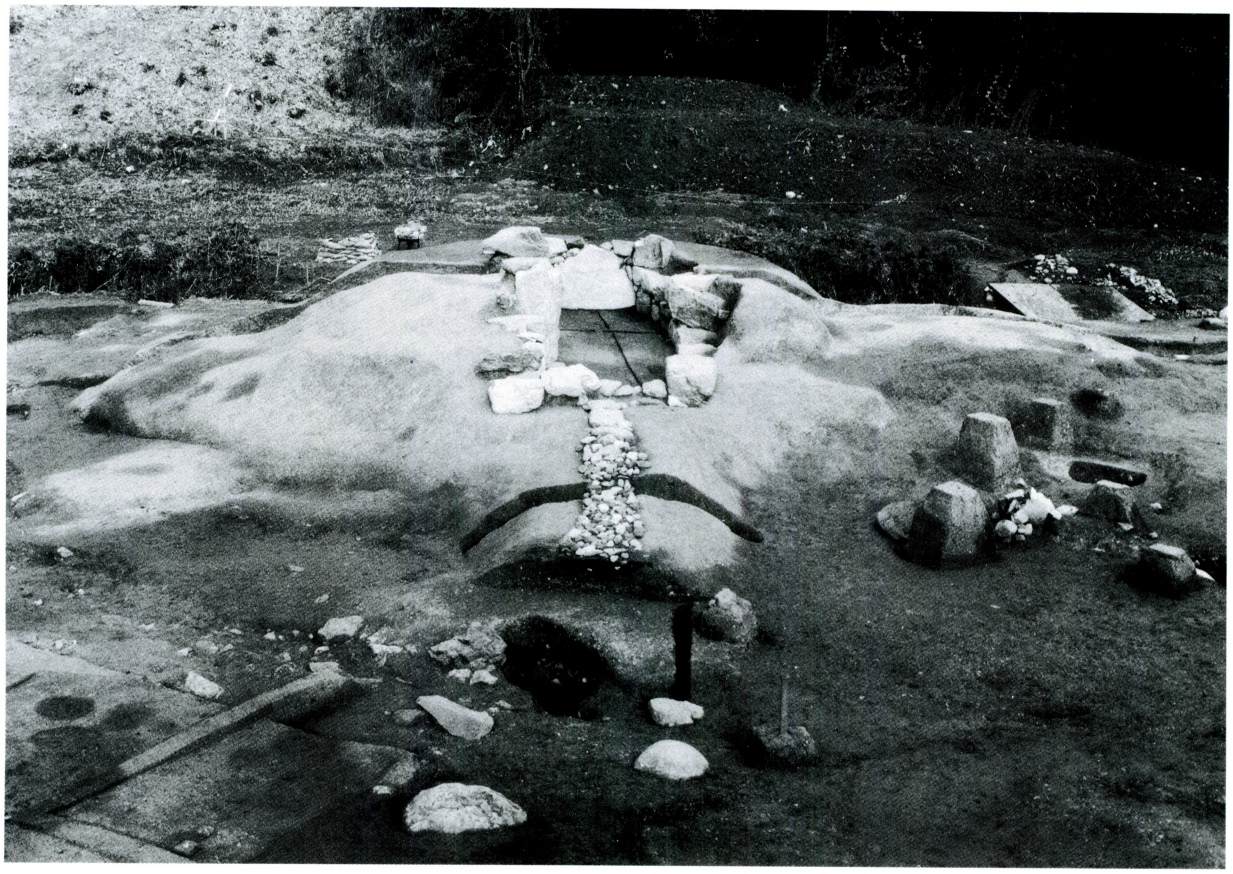
第４表－10　遺物観察表（前山２号古墳･玉類）（つづき）

番号	種　別	遺　構	法　量（cm）				重量（g）	色	材　質
			直　径	厚　さ	孔径	厚さ/直径			
304	小玉	石室 A	0.3	0.22	0.1	0.7	1未満	水色	ガラス
305	小玉	石室 A	0.3	0.25	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
306	小玉	石室 A	0.3	0.25	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
307	小玉	石室 A	0.4	0.25	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
308	小玉	石室 A	0.45	0.25	0.1	0.6	1未満	水色	ガラス
309	小玉	石室 A	0.4	0.2	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
310	小玉	石室 A	0.45	0.22	0.1	0.5	1未満	水色	ガラス
311	小玉	石室 A	0.35	0.25	0.1	0.7	1未満	水色	ガラス
312	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
313	小玉	石室 B	0.4	0.2	0.2	0.5	1未満	青	ガラス
314	小玉	石室 B	0.35	0.2	0.1	0.6	1未満	青	ガラス
315	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
316	小玉	石室 B	0.3	0.25	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
317	小玉	石室 B	0.375	0.2	0.1	0.5	1未満	青	ガラス
318	小玉	石室 B	0.3	0.2	0.1	0.7	1未満	青	ガラス
319	小玉	石室 B	0.3	0.25	0.1	0.8	1未満	青	ガラス
320	小玉	石室 A	0.6	0.35	0.2	0.6	1未満	褐色	凝灰岩

第４表－11　遺物観察表（前山２号古墳･銭貨）

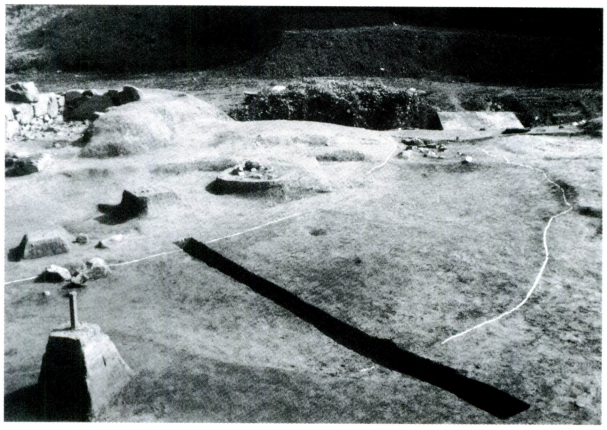
番号	銭貨名	書　体	国・王朝	初鋳年	遺　構	法量（cm）			重量（g）	材　質
						外　径	内　径	孔　径		
340	元豊通寶	行書	北宋	1078	石室 D	2.3	1.95	0.8	2	銅
341	天聖元寶	真書	北宋	1023	石室 D	2.4	2.15	0.8	4	銅
342	皇宋通寶	篆書	北宋	1038	石室 D	2.2	1.95	0.65	3	銅
343	皇宋通寶	真書	北宋	1038	石室 D	2.3	2.0	0.65	3	銅
344	嘉祐通寶	篆書	北宋	1056	石室 D	2.3	1.85	0.7	2	銅
345	元祐通寶	行書	北宋	1086	石室 D	2.35	2.0	0.7	3	銅

図　　版

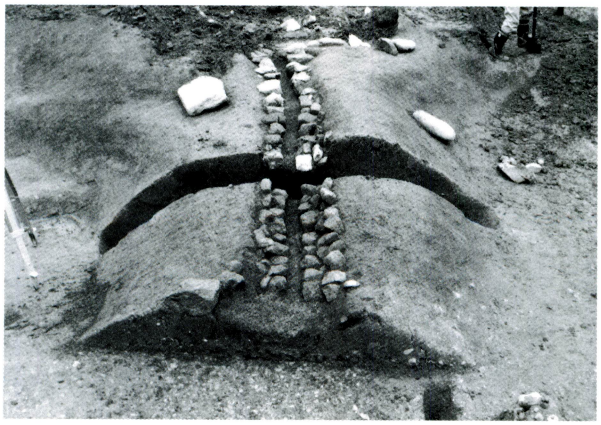


全景

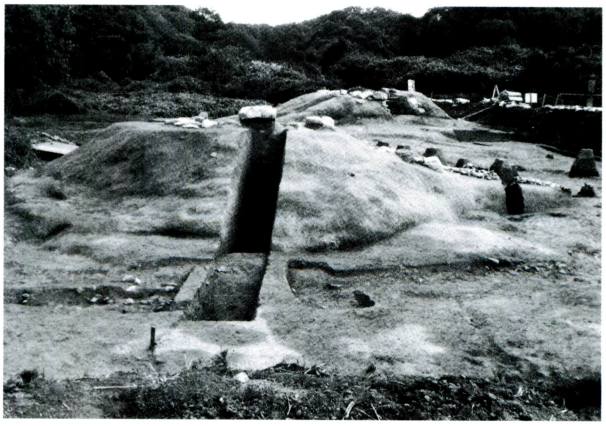
排水溝断ち割り



墳丘南側周溝検出状況



排水溝（完掘）



墳丘北側、周溝（手前）

杉ケ洞 3 号古墳（1）

図版 2

石室全景

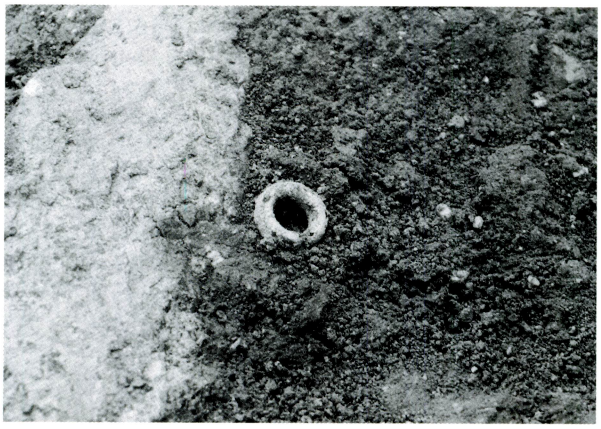
奥壁

右側壁

石室入口の段

左側壁　立柱石台石の痕跡

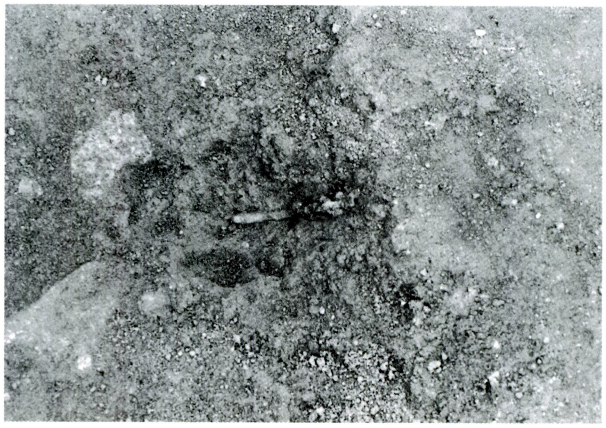
杉ケ洞 3 号古墳（2）



耳環出土状況

鉄鏃出土状況

耳環出土状況



鉄鏃出土状況

耳環出土状況

鉄鏃出土状況

馬具（鞍）出土状況

鉄鏃出土状況

杉ケ洞 3 号古墳（3）

図版 4

全景

石室全景

杉ケ洞 5 号古墳（1）

奥壁

奥壁から開口部を望む

左側壁

右側壁

刀子出土状況

鉄鏃出土状況

耳環出土状況

鉄鏃出土状況

杉ケ洞 5 号古墳（2）

図版 6

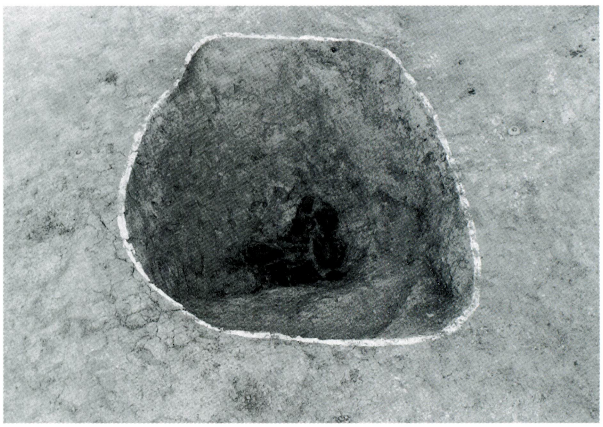
SX4

SX5

SX4 未製品粘土検出状況

SX5 皿出土状況

SX4 炭化物出土状況



SX1

SX4 古銭出土状況

SX2

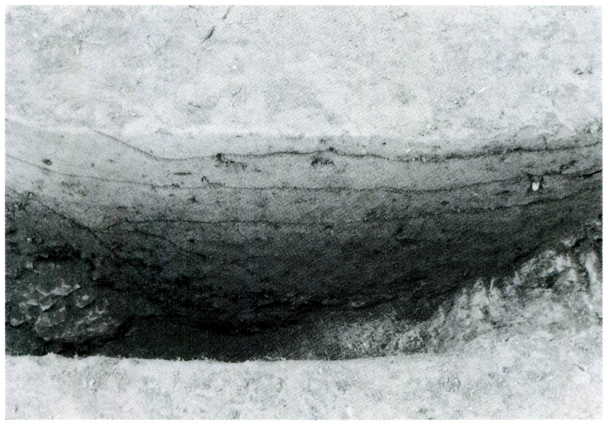
古墳以外の遺構

全景

周溝と墳丘（南側）

墳丘（北側）

周溝



周溝セクション

前山２号古墳（1）

図版 8

石室全景

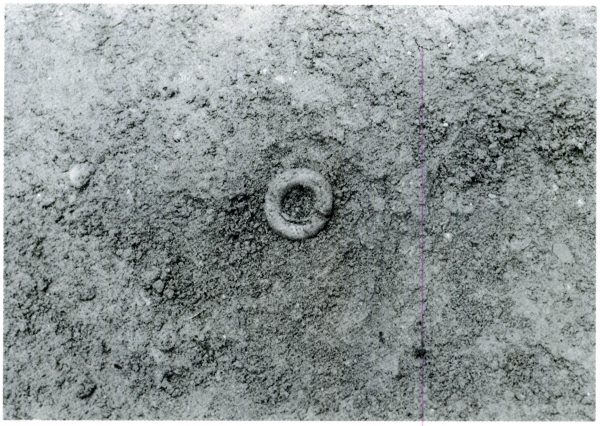
奥壁

奥壁の石が被熱している

左側壁

右側壁

前山 2 号古墳（2）



耳環出土状況

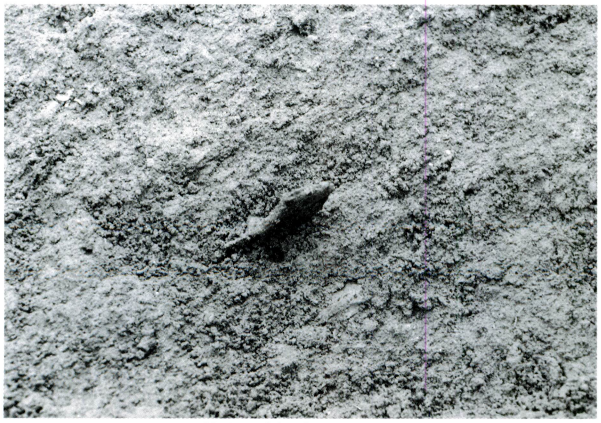
勾玉出土状況

切子玉出土状況

臼玉出土状況

鉄鏃出土状況

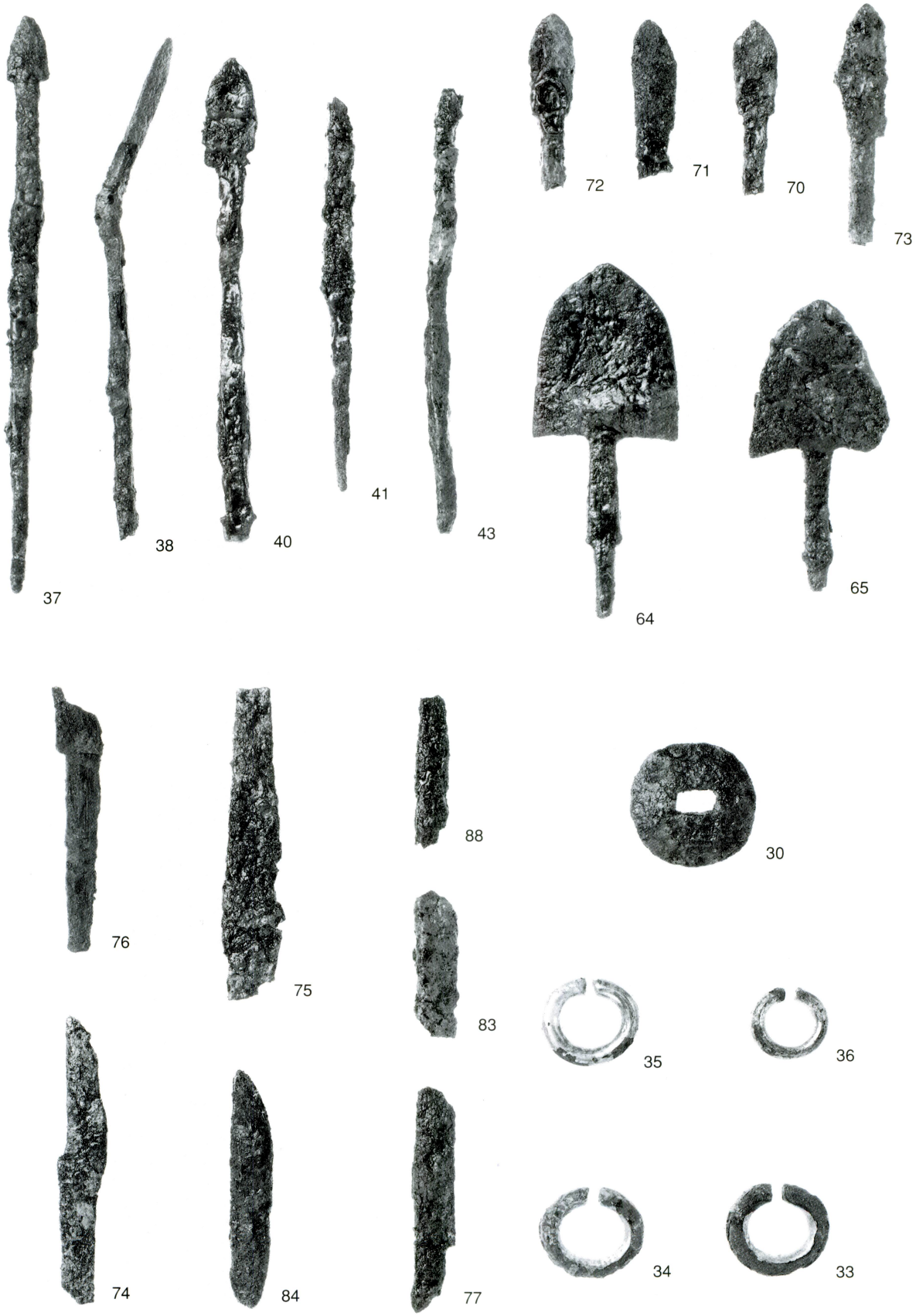
須恵器出土状況



刀装具（鍔）出土状況

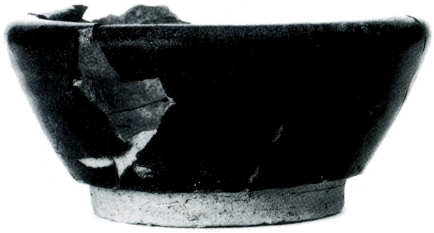
須恵器出土状況

杉ケ洞 3 号古墳出土遺物（1）



杉ケ洞 3 号古墳出土遺物（2）

100



101

98

95

109

96

106

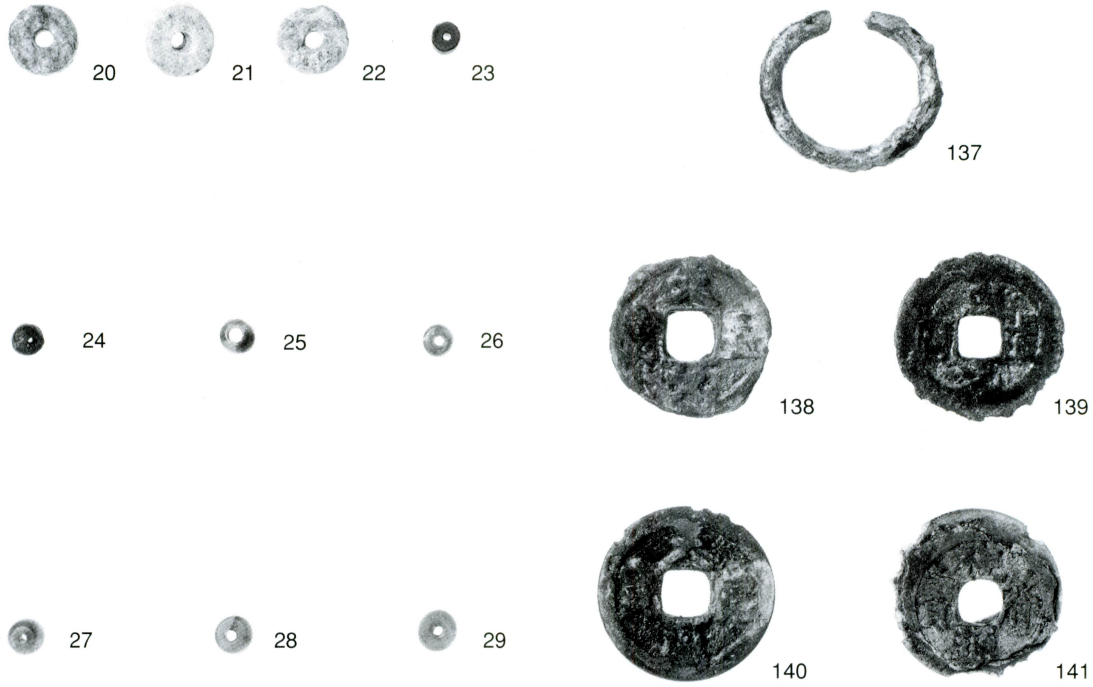
103

111

112

113

杉ケ洞３号古墳出土遺物（3）

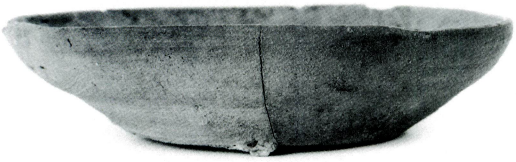


杉ケ洞 3 号古墳出土遺物（4）・古墳外出土遺物

図版 14

121

116



132

133

135

136

123

124

126

125

129

127

128

131

130

杉ケ洞 5 号古墳出土遺物

143

144

145

148

147

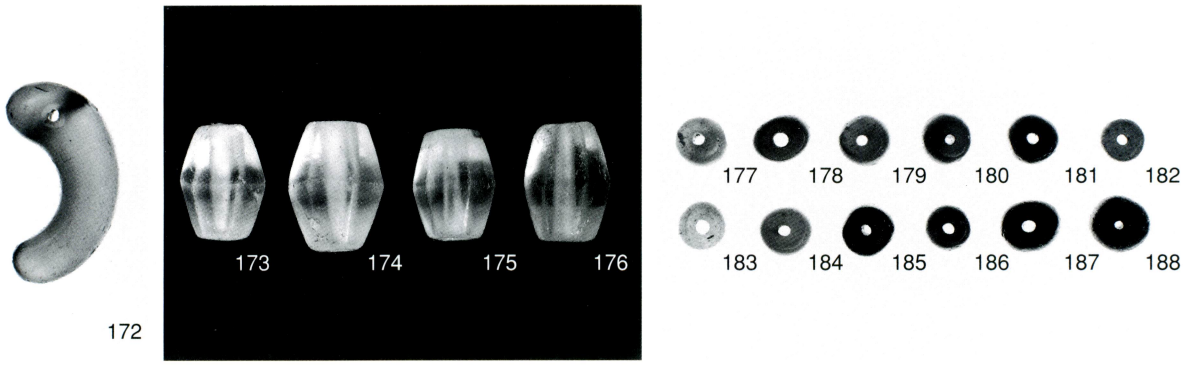
146

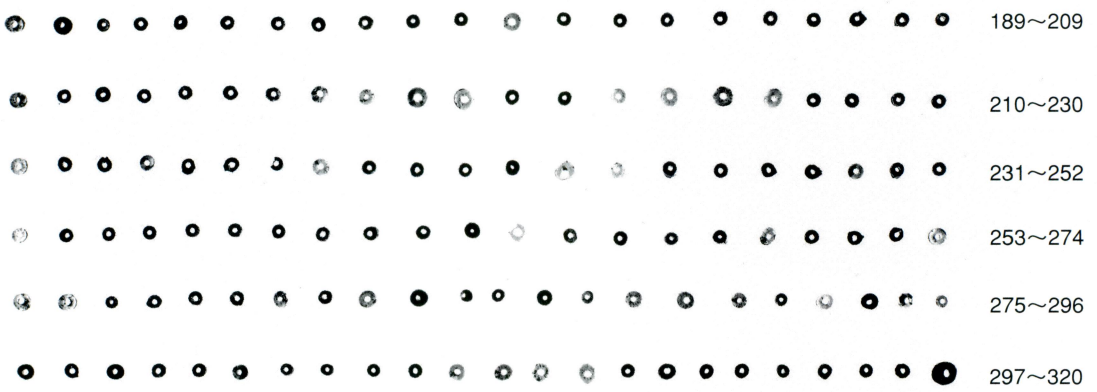
151

150

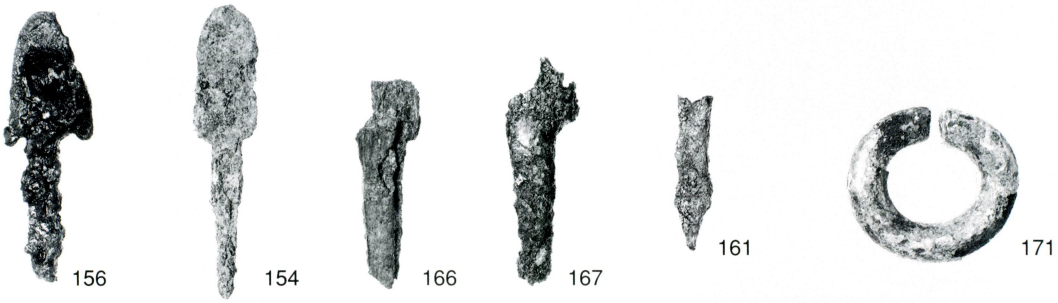
前山２号古墳出土遺物（1）

図版 16





241.266.301を除く

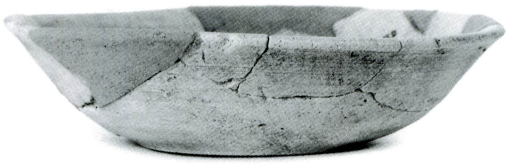


前山 2 号古墳出土遺物（2）

321

322

333



325

332

339

337

334

前山 2 号古墳出土遺物（3）

報告書抄録

ふりがな	すぎがほら 3・5 ごうこふん　まえやま 2 ごうこふん
書名	杉ヶ洞 3・5 号古墳　前山 2 号古墳
シリーズ名	岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第 85 集
編著者名	澤村雄一郎　藤岡比呂志
編集機関	財団法人　岐阜県教育文化財団文化財保護センター
所在地	〒 502-0003　岐阜市三田洞東 1-26-1　TEL 058（237）8550
発行年月日	西暦 2003 年 12 月 25 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
杉ヶ洞 3 号古墳	岐阜県可児市柿田馬乗洞	21214	04854	35°25'26"	137°06'21"	20000828～20001031 800 m²	東海環状自動車道（八百津～笠原）建設事業に伴う
杉ヶ洞 5 号古墳			09598				
前山 2 号古墳	岐阜県可児市柿田前山		04851	35°25'26"	137°06'03"	20001122～20010213 300 m²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
杉ヶ洞 3 号古墳 杉ヶ洞 5 号古墳 前山 2 号古墳	古墳	古墳時代 近世	3 号古墳（円墳）擬似両袖式横穴式石室 5 号古墳（円墳）無袖式横穴式石室 2 号古墳（円墳）横穴式石室 土坑 3、石組 2	須恵器、土師器、金属製品、玉類、中近世陶磁器 須恵器、金属製品、玉類、中近世陶磁器 須恵器、金属製品、玉類、銭貨、中近世陶磁器 中世陶器、銭貨、金属製品	古墳時代後期の古墳を 3 基確認し、石室内から、須恵器、金属製品、玉類が出土。

岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書　第85集

杉ヶ洞3・5号古墳
前 山 2 号 古 墳

2003年12月25日

編集・発行　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
岐阜市三田洞東1－26－1
印　　刷　株式会社コームラ